Kodak Gray Scale

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

納本

一雲市水道誌

序

我が一宮市は尾張平野の中央に位し往昔より機織を以て業となすもの多く逐次隆昌を來し明治の末葉には既に斯業殷賑を極め世に尾州織物と稱し宇内に其名を博し遠く海外に迄販路を廣めたり輓近時勢の進運に伴ひ業界に一大轉期を劃することとなり毛織物工業に轉ずるや氣候風土亦能く之に適し其製品の優良なるが爲異數の發達をなし年と共に產額を增加し附近町村の產額と併せ今や本邦毛織物の主產地として其名聲内外に籍甚し人口亦年を逐ふて增加し一大工業都市を形成するに至れり然れども由來市内井水の大部分は水質極めて不良にして市民の保健衞生上は勿論工業用に或は防火用に考を及ぼすときは寔に寒心に堪へざるものあり一般市民亦夙に水道布設の速かならむことを翹望して止まず斯くして昭和七年九月機漸く熟し水道布設計畫を策つることとなり爾來準備調査、起債許可、國縣費補助等幾多の難關を經愈〻昭和九年九月起工以來工事順調に進捗

し三歳を出でずして概ね工を竣ふ此間昭和十一年十月下旬には既に給水を開始し引用者逐年増加す是偏に監督官廳を始め關係各方面の指導鞭撻竝に市會議員各位の熱誠なる援助の賚に外ならず誠に感激措く能はざる所なり。

顧ふに本市は曩に三大事業として計畫せる第一期下水道築造事業は既に完了し都市計畫事業は着々進行實現を見更に又本事業の完成を告ぐ今や方に隆々乎として躍進途上にある本市の將來を想ひ最も欣幸とする所なり。

茲に本誌の編纂成るに當り一言以て序とす。

昭和十四年七月

一宮市長　森林右工門

凡例

一、本誌は本市水道布設事業の全般に亘る事項を蒐錄せり。

一、資料は本市保存の記錄に據り或は事業關係者の記憶を參考とする等努めて遺漏なきを期すると共に申請書其他の公文書に依り經過の明瞭なるものは敍事を省略し力めて簡潔を旨とせり。

一、本誌編纂は精算完了前の爲收支決算は收錄し得ざりしと雖も本年度に至る迄の支出に付ては實施額を收錄せり。

一、本誌に收錄したる市政機關は本事業の調査始期より昭和十四年七月に至る間事業遂行に參與せられたる諸氏なり。

一、本誌卷頭を飾りし寫眞の惠與を快諾せられし各位に對し深甚の謝意を表す。

昭和十四年七月

一宮市水道誌目次

第一章　市勢一班……（一）

第一節　市勢竝沿革……（一）

位置　地勢　氣候　廣袤　戸口　交通　產業　沿革

第二節　市　政　機　關……（三）

市長　助役　收入役……（三）

市會議長　市會副議長……（四）

水道布設調査期間に於ける市會議員……（五）

水道布設實施期間に於ける市會議員……（六）

現市會議員……（七）

水道布設調査期間に於ける臨時上下水道委員……（八）

水道布設實施期間に於ける臨時水道委員……（八）

現水道委員……（九）

第二章　水道布設計畫

第一節　沿革……（一一）
第二節　水源の比較……（一三）
一　山那、小淵並草井案……（一四）
二　極樂寺案……（一四）
三　鑿井案……（一五）
第三節　水道布設認可申請及同認可指令……（一六）
一　水道布設認可申請……（一六）
イ　水道布設目論見書……（一七）
ロ　水質……（一九）
ハ　施設概要……（二一）
(一)　計畫人口……（二一）
(二)　給水量及消火用水量……（二三）
(三)　取水量決定……（二四）
(イ)　水源の選定理由並其狀態……（二四）
(ロ)　水量……（二四）

(ハ)　既設水利事業又ハ灌漑ニ必要ナル分水量……（二五）
(ニ)　取水量……（二五）
(四)　水源地ノ狀況及地質……（二六）
(五)　水源ニ於ケル施設……（二七）
(イ)　集水井……（二七）
(ロ)　導水管……（二七）
(ハ)　喞筒井……（二八）
(ニ)　喞筒室……（二八）
(ホ)　喞筒及電動機……（二八）
(ヘ)　豫備變電設備……（二八）
(六)　送水管……（二九）
(イ)　木曾川本堤横斷……（二九）
(ロ)　伏越……（二九）
(七)　淨水場……（二九）
(イ)　着水井……（二九）
(ロ)　濾過池並沈澄池……（三〇）
(ハ)　量水井並鹽素滅菌機室……（三一）

(ニ) 淨水池……(三一)
(ホ) 喞筒井……(三二)
(ヘ) 喞筒室……(三三)
(ト) 喞筒及電動機……(三三)
(チ) 豫備變電設備……(三三)
(リ) 淨水場事務所水質試驗室……(三三)
(八) 配水方法……(三四)
(イ) 配水塔……(三四)
(九) 配水鐵管……(三四)
(イ) 人口ノ分布狀況……(三五)
(ロ) 飽和人口ノ決定……(三五)
(ハ) 配水幹線ノ決定……(三五)
(ニ) 市內の地質……(三六)
(ホ) 配管……(三六)
(ヘ) 水壓……(三六)
(十) 消火栓……(三七)
(十一) 斷水區域……(三八)

(十二) 河川橫斷……(三八)
(十三) 鐵道及電車線路橫斷……(三八)
(十四) 公舍及倉庫……(三九)
ニ 水道布設工事費豫算……(四〇)
ホ 一位代價表……(九〇)
ヘ 一位代價內譯書……(九八)
ト 水道布設工事費支出年度割表……(一六八)
二 水道布設認可申請書中一部變更……(一七〇)
三 水道布設費財政計畫變更……(一七七)
四 水道布設費財政計畫實施比較……(一七九)
五 水道布設認可……(一八一)
第三章 起工及竣工……(一八三)
第一節 起工……(一八三)
一 起工式……(一八三)
二 水神祭……(一八五)
第二節 竣工……(一八六)

目次

第一回水道布設工事施行年期變更稟請……（一八六）
第二回水道布設工事施行年期變更稟請……（一八八）
第三回水道布設工事施行年期變更稟請……（一九〇）
一　通水式……（一九二）
二　工事施行方針……（一九五）
三　工事經過概要……（一九五）
水源工事……（一九五）
送水鐵管布設工事……（一九七）
淨水場工事……（一九七）
淨水池竝附帶工事……（一九七）
淨水場倉庫建築工事……（一九八）
淨水場周圍土塀築造工事……（一九八）
淨水場着水井築造及表門設置竝附帶工事……（一九八）
淨水場事務所建築工事……（一九九）
淨水場公舍建築工事……（一九九）
濾過池築造工事……（一九九）
配水塔築造工事……（二〇〇）

配水鐵管布設工事……（二〇〇）
水壓……（二〇一）
四　主要工事一覽表……（二〇三）
水源工事關係……（二〇三）
送水鐵管布設工事關係……（二〇三）
淨水場工事關係……（二〇三）
配水塔工事關係……（二〇四）
配水鐵管布設工事關係……（二〇七）
鐵管檢査所工事關係……（二〇八）
水道材料檢査所、給水工事事務所工事關係……（二一一）
水道事務所工事關係……（二一一）
鐵管類其他材料檢査關係……（二一三）
五　工事關係出願事項……（二一三）
水源工事ニ關スル件……（二一三）
送水鐵管布設工事ニ關スル件……（二一三）
配水鐵管布設工事ニ關スル件……（二一三）
建築工事ニ關スル件……（二一四）

原動機設置並電氣工作物施設ニ關スル件……（二一八）
電話及電線架設ニ關スル件……（二一八）
六　主要工事仕樣書……（二一九）
水道工事仕樣書……（二一九）
鐵管布設工事仕樣書……（二二七）
水源工事仕樣書……（二三八）
水源喞筒室築造工事仕樣書……（二三〇）
水源喞筒室動力及電燈配線工事仕樣書……（二三六）
淨水場並附帶工事仕樣書……（二三七）
淨水場喞筒室上家建築工事仕樣書……（二四〇）
着水井其他工事ニ關スル概要雜則……（二四五）
淨水場喞筒室電燈配線工事仕樣書……（二四六）
濾過池並附帶工事仕樣書……（二四七）
淨水場內事務所築造工事仕樣書……（二五五）
淨水場公舍新築工事仕樣書……（二六一）
配水塔築造工事仕樣書……（二六六）
配水塔水槽受鋼桁製作示法書……（二七五）

配水塔水槽及屋根トラツス其他附屬具製作仕樣書……（二七七）

第四章　用地……（二八〇）

第一節　用地買收……（二八〇）
一　買收用地面積及價格……（二八六）
二　買收經過……（二八六）
イ　水源用地……（二八六）
ロ　送水路用地……（二九〇）
ハ　淨水場用地……（二九一）
ニ　配水塔用地……（二九一）
ホ　水源公舍用地……（二九二）
ヘ　水道事務所用地……（二九二）
ト　縣社若栗神社並村社天神社修築費寄進……（二九三）
第二節　占用地……（二九三）
第三節　借用地……（二九九）
第四節　地上物件移轉補償……（三〇〇）
第五節　名勝及天然記念物指定現場變更出願……（三〇一）

第五章　鐵管類、弁類、消火栓竝主要機械器具、材料購入及檢査……（三〇三）

第一節　鐵管類弁類竝消火栓購入……（三〇三）

一　鐵管類の購入……（三〇三）

鐵管類購入明細表……（三〇三）

水道用高級鑄鐵直管及異形管類賣買契約書……（三〇四）

水道用高級鑄鐵直管異形管購買仕樣書……（三〇五）

物件賣買契約書……（三〇八）

水道用繼目無鋼管（直管異形管）購買仕樣書……（三〇八）

二　弁類竝消火栓の購入……（三一一）

弁類竝消火栓購入明細表……（三一五）

一宮市水道用制水瓣購買仕樣書……（三一五）

一宮市水道用地上式消火栓購買仕樣書……（三一六）

一宮市水道用消火栓購買仕樣書……（三一七）

第二節　主要機械器具購入……（三一七）

主要機械器具購入一覽表……（三一九）

水源及淨水場送水喞筒購入竝設置工事仕樣書……（三一九）

電氣機械器具供給竝据付仕樣書……（三二六）

發電機及重油機關購入竝据付工事仕樣書……（三五七）

變壓器購買竝据付工事仕樣書……（三六六）

水銀式「ヴエンチユリーメーター」購入仕樣書……（三六九）

鹽素滅菌機購入仕樣書……（三七一）

第三節　主要材料購入……（三七二）

主要材料購入一覽表……（三七二）

鉛塊購買仕樣書……（三七二）

「ポーランド、セメント」購買仕樣書……（三七五）

第四節　鐵管類、弁類、消火栓竝物品材料檢査……（三七六）

一　鐵管類、弁類竝消火栓檢査……（三七七）

二　セメント竝其他物品材料檢査……（三七七）

第六章　資金調達……（三七八）

第一節　起債許可稟請竝許可……（三七九）

第二節　資金調達……（三八二）

一　大藏省預金部資金借入……（三八三）

目次

二　公債發行竝借替償還……（四〇四）
三　遞信省簡易保險積立金借入申込……（四一三）
四　日本生命保險株式會社より借入……（四一三）

第七章　國庫及縣費補助……（四三〇）
第一節　國庫補助……（四三〇）
一　國庫補助申請……（四三〇）
二　國庫補助申請書中一部變更……（四三三）
三　國庫補助復活陳情經過……（四三五）
四　國庫補助聽許……（四三九）
第二節　縣費補助……（四四四）
一　縣費補助申請……（四四四）
二　縣費補助陳情經過……（四四九）
三　縣費補助指令……（四五〇）

第八章　施工機關……（四五二）
第一節　組織……（四五二）

第二節　水道委員會……（四五二）
一　臨時水道委員規程……（四五二）
二　水道委員設置規程……（四五二）
三　臨時竝經常に屬する水道委員會記錄要項……（四五三）
第三節　事務處理規程……（四六三）
一　宮市水道事務細則……（四六三）
第四節　給與諸規程……（五一〇）
一　宮市水道課職員特定旅費支給規程……（五一一）
一　宮市水道顧問旅費支給額……（五一一）
一　宮市水道課職員月額旅費支給規程……（五一一）
一　宮市水道課傭人特定旅費支給規程……（五一三）
都市計畫區域內旅費支給規程……（五一三）
第五節　工事執行規程……（五一三）
一　宮市工事執行規程……（五一三）
一　宮市工事執行規程施行細則……（五一八）
水道工事請負契約書……（五二〇）
第六節　鐵管檢査所……（五二三）

第七節　水道布設工事並經常部關係職員……（五二四）

第九章　給水概要……（五二八）

第一節　給水條例……（五二八）

一宮市水道給水並使用料條例……（五二八）

一宮市水道給水並使用料條例施行細則……（五三六）

第二節　給水狀況……（五六五）

一　給水普及奬勵……（五六五）

一宮市水道給水ニ關スル暫行特例……（五六六）

給水募集成績……（五六七）

二　給水成績……（五六七）

三　送水量……（五六九）

四　水道水質試驗……（五七〇）

水質試驗成績表……（五七〇）

附圖

水道布設計畫概要平面圖

水道布設計畫概要圖

集水井構造圖

集水井、喞筒井聯絡導水管平面圖

水源喞筒井構造圖

水源喞筒室構造圖

着水井構造圖

濾過池構造圖

淨水場喞筒井構造圖

淨水場喞筒室構造圖

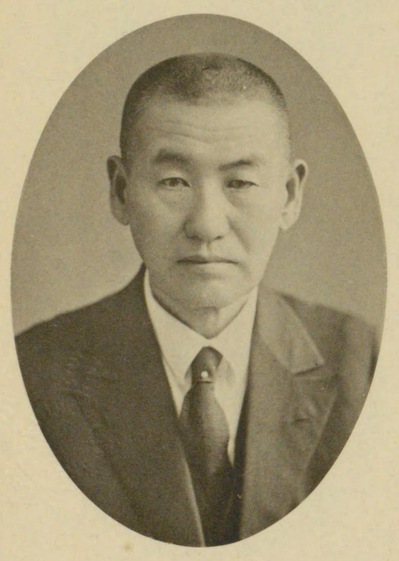
淨水池構造圖　其一

同　其二

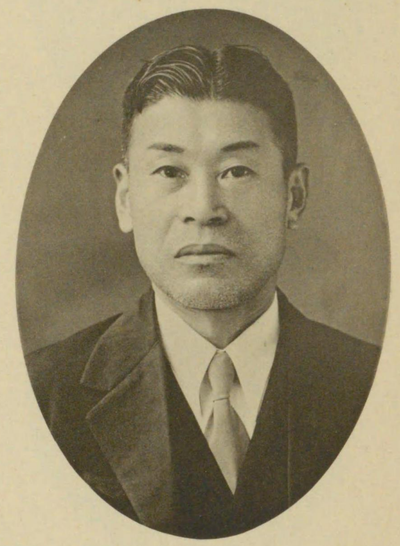
淨水場量水井構造圖

配水塔構造圖

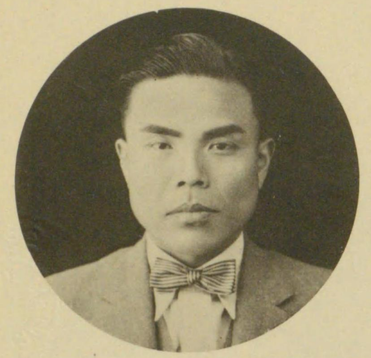
配水管布設平面圖



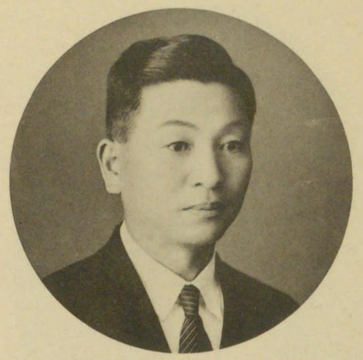
前市長　小島太左工門



市長　森林右工門

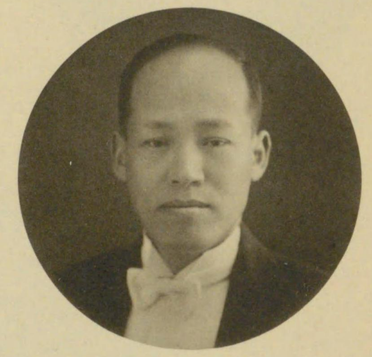


收入役 佐分 薫

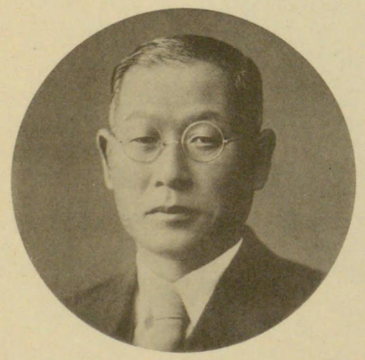


助役 小川淺治郎

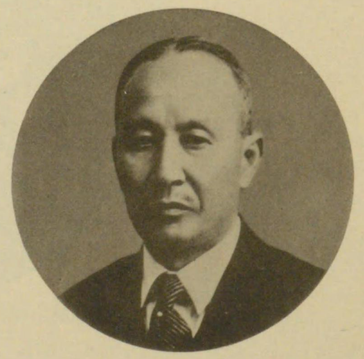
元助役 前島次郎



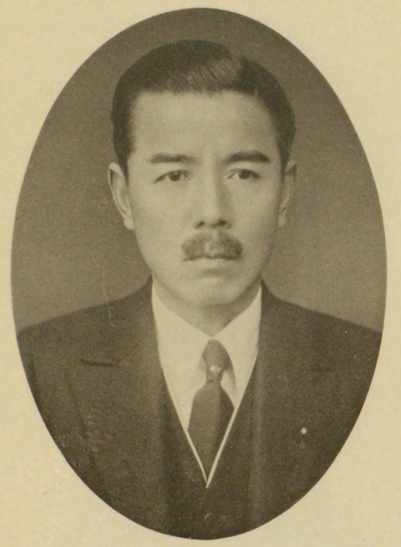
前助役 小濱元夫



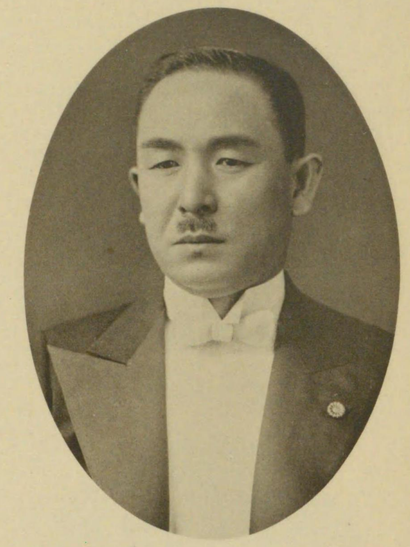
水道課長 足立藤一



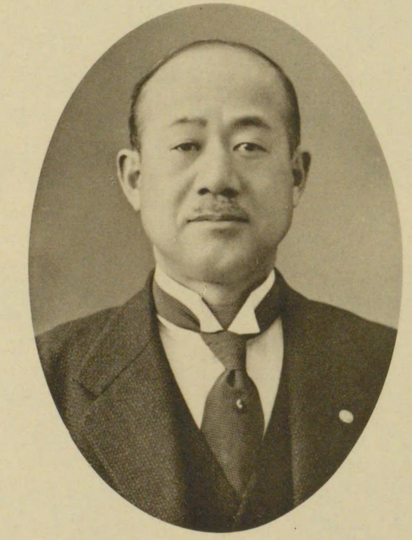
顧問 米元晋一



前市會議長
元市會副議長
田中利左工門

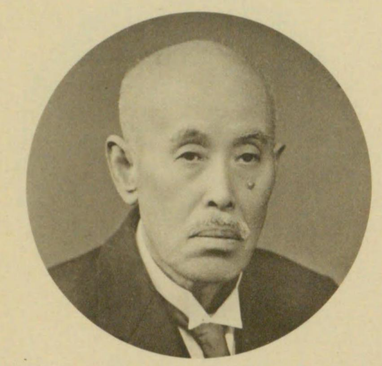


市會議長 吉田萬次

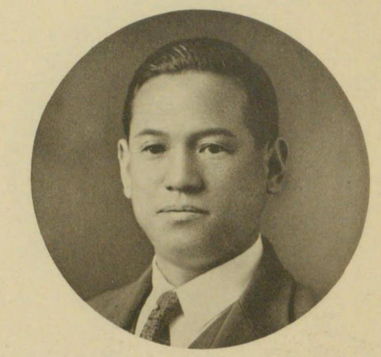


市會副議長 小島克實

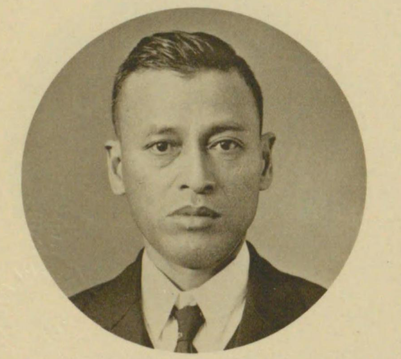
市會議員（議席順）



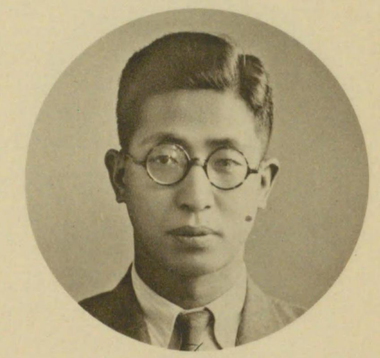
日野常太郎



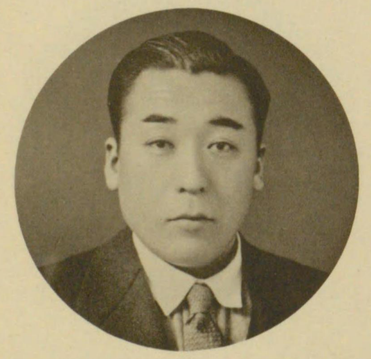
伊藤吉兵衛



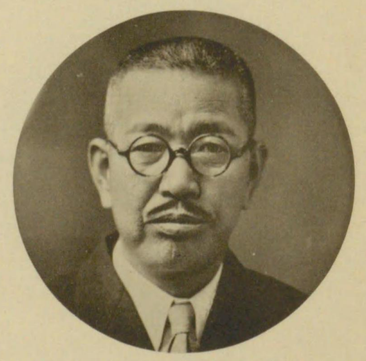
市宗藤後



荻本一郎

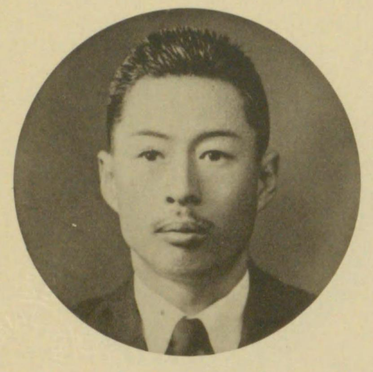


吉浅板冨

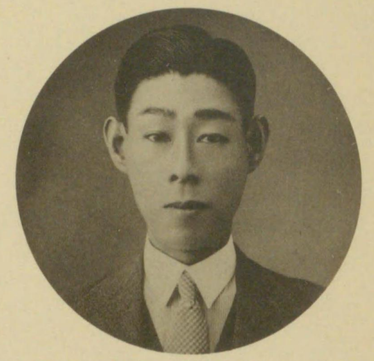


郎三藤井浅

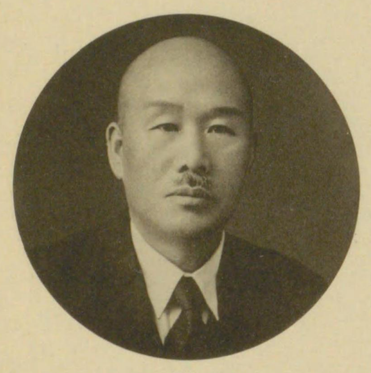
市會議員（議席順）



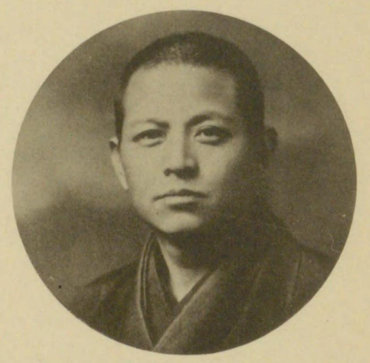
黑田正隆



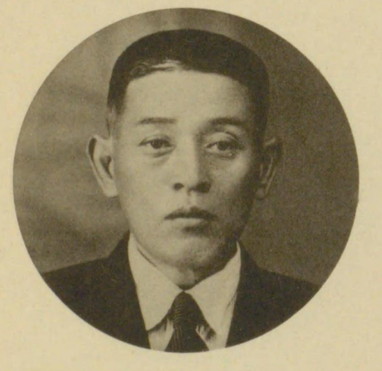
宮木彦八郎



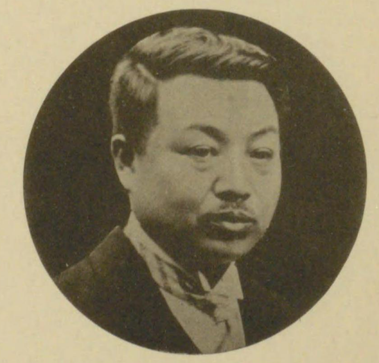
磯貝惠寛



加藤源一

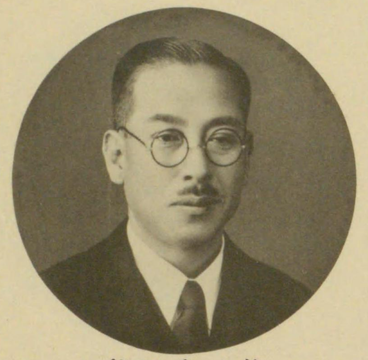


舟橋松治郎

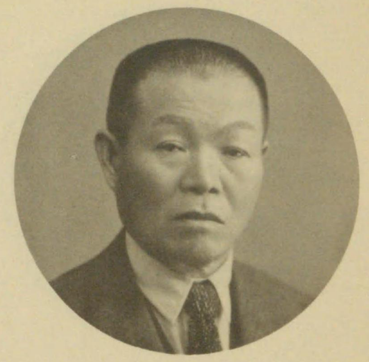


尾關德次

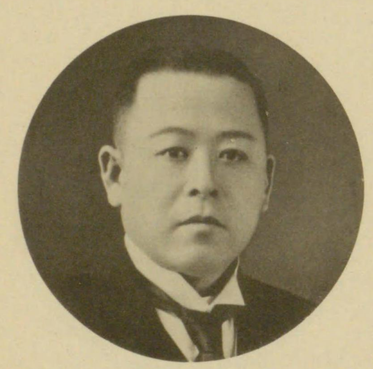
市會議員（議席順）



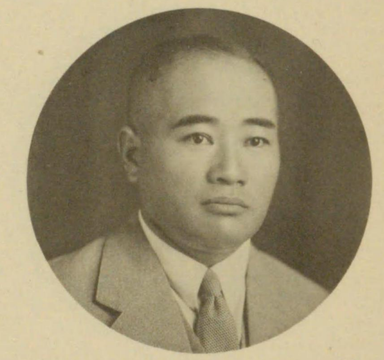
伴　寅三郎



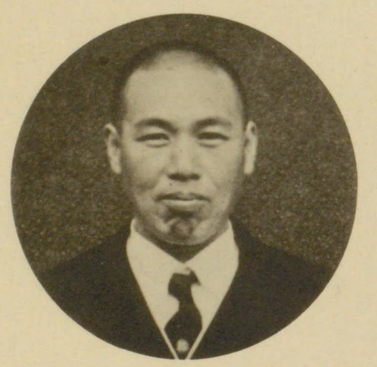
小笠原　末太郎



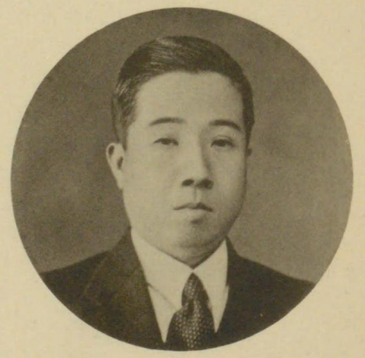
加藤　鐵藏



杉本爲一郎



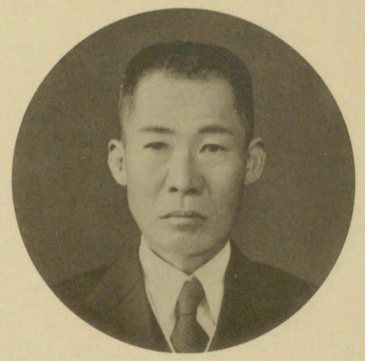
古澤嘉造



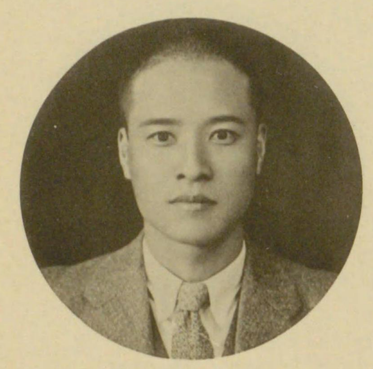
神戸甚一郎

市會議員（議席順）

川合岡平

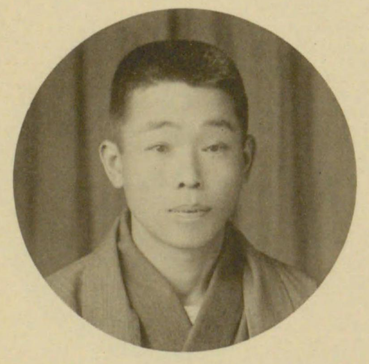


大野勝三郎



中井捨吉

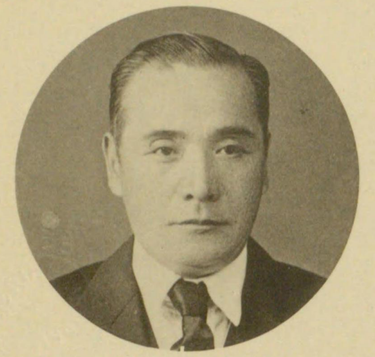
田中安逸



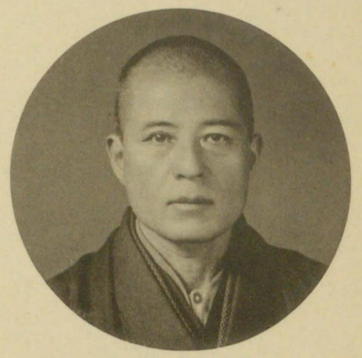
後藤幸三郎

鈴木亀治郎

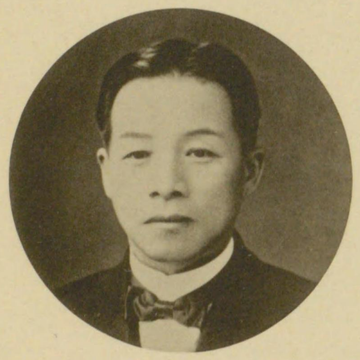
市會議員（議席順）



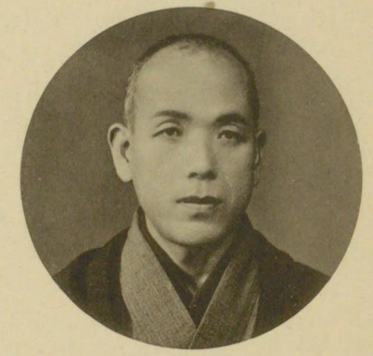
横井六三郎



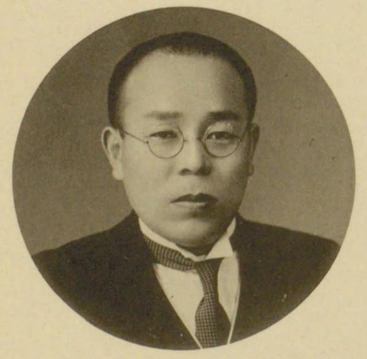
鵜飼猶市



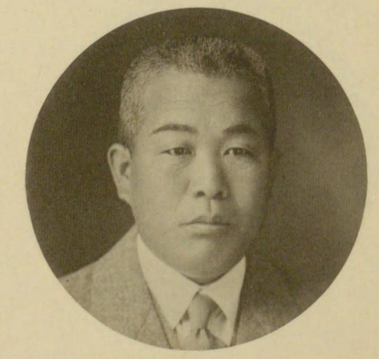
林　利雄



田中正太郎

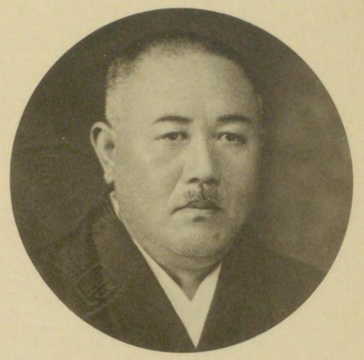


伴　利晴

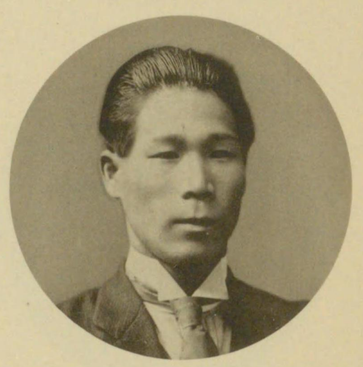


北川喜市

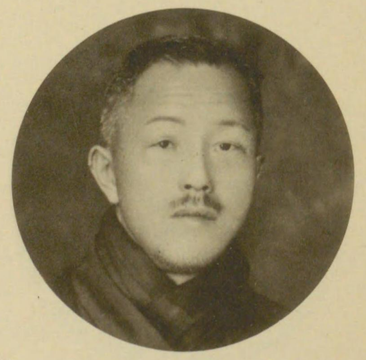
市會議員（議席順）



澤木明一

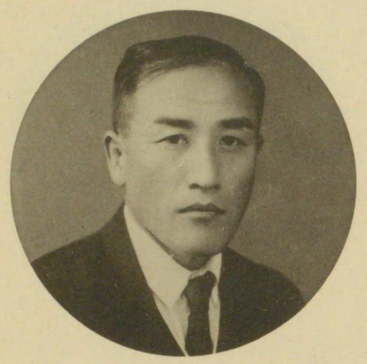


中村義雄

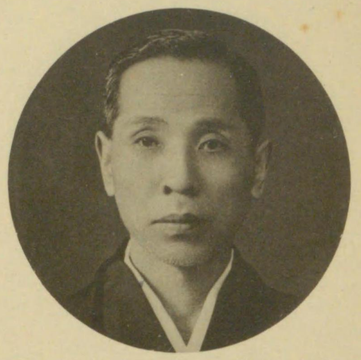


坂川新吾

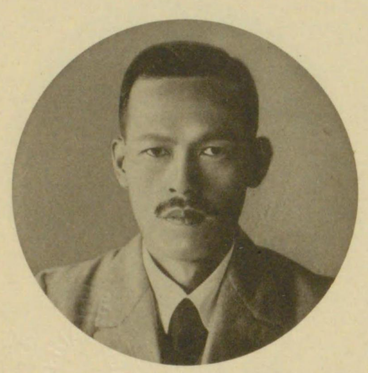
前市會議員（議席順）



故舟橋愛十郎

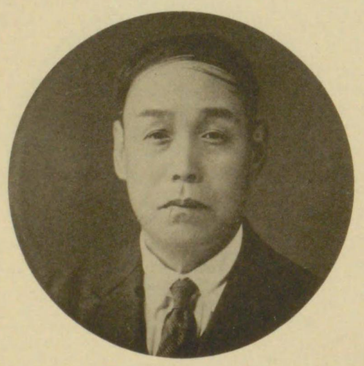


岩田孫六

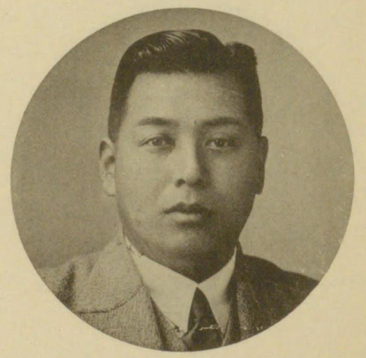


故森　鋤三郎

脇田市太郎

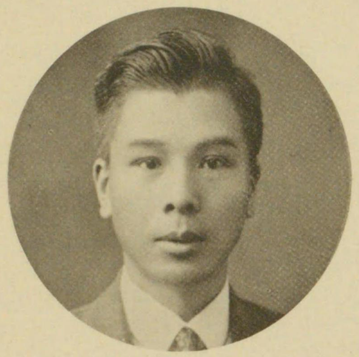


吉藤田太

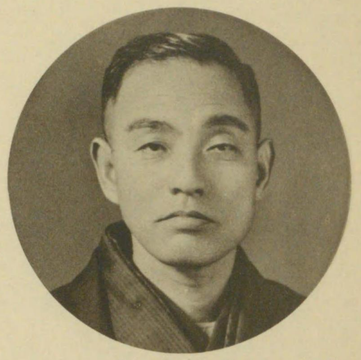


佐藤次郎

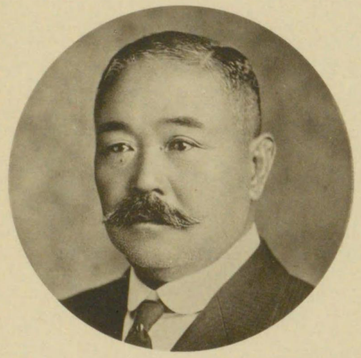
前市會議員（議席順）



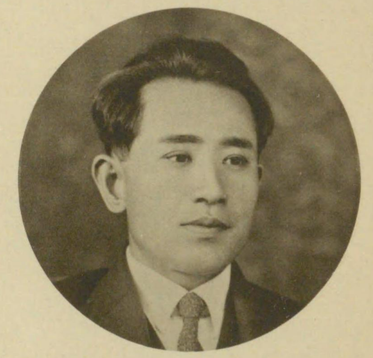
平山文次



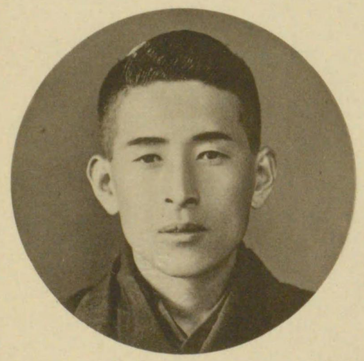
原田要市



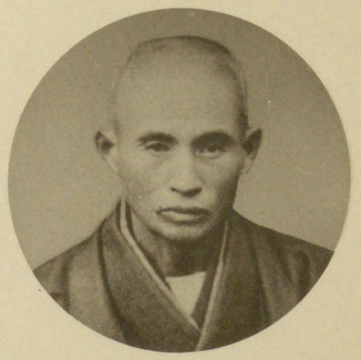
故丹菊仁三郎



今井末之信

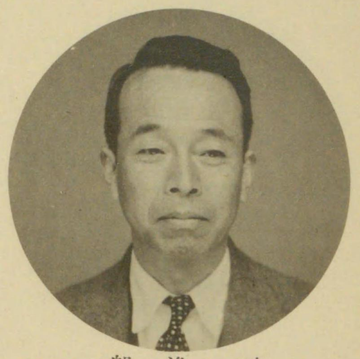


前田米三

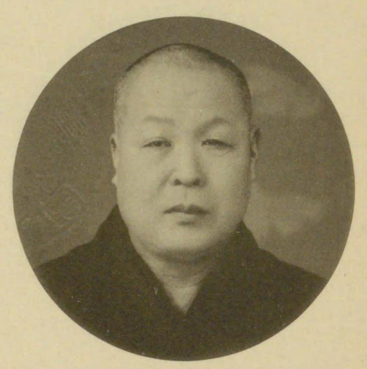


故酒井秋太郎

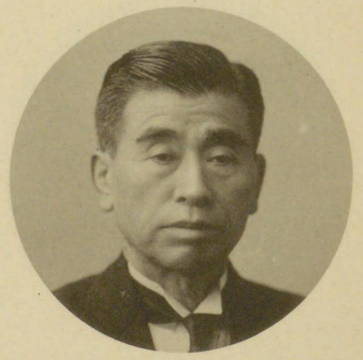
前市會議員（議席順）



森逸郎

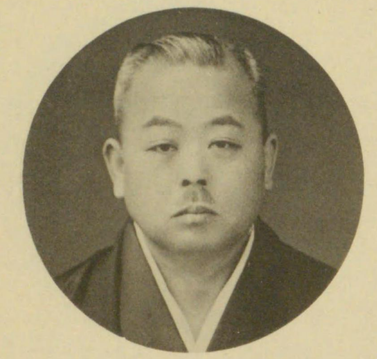


中井代次郎

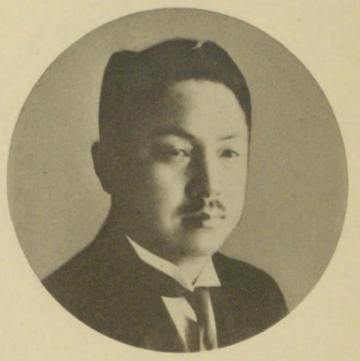


岩井藤九郎

元市會議員（議席順）

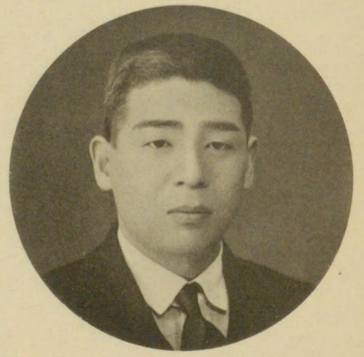


山内源七



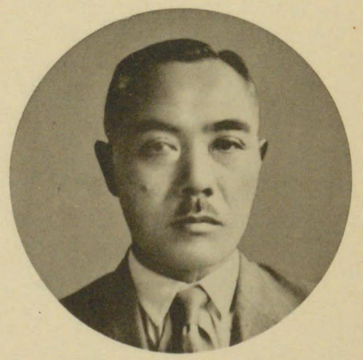
森幾松

粟田竹治郎



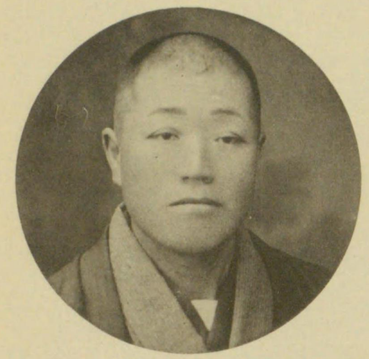
故福井英一

故伊藤彦三郎

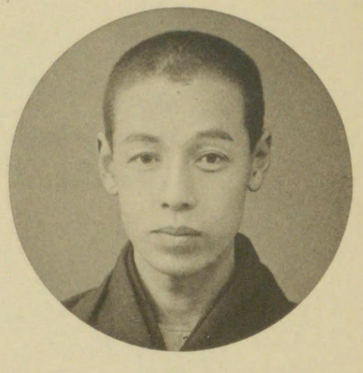


瀧多賀男

元市會議員（議席順）

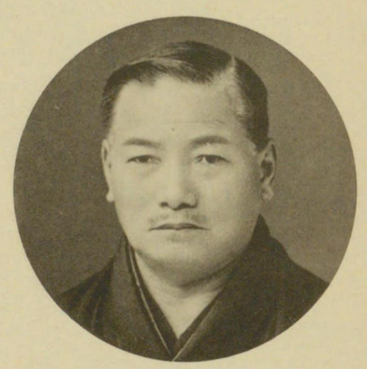


伴　利三郎

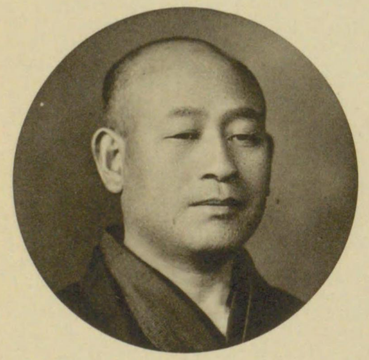


豐島豐七

故松本森治



森　文左工門



大竹梅次郎

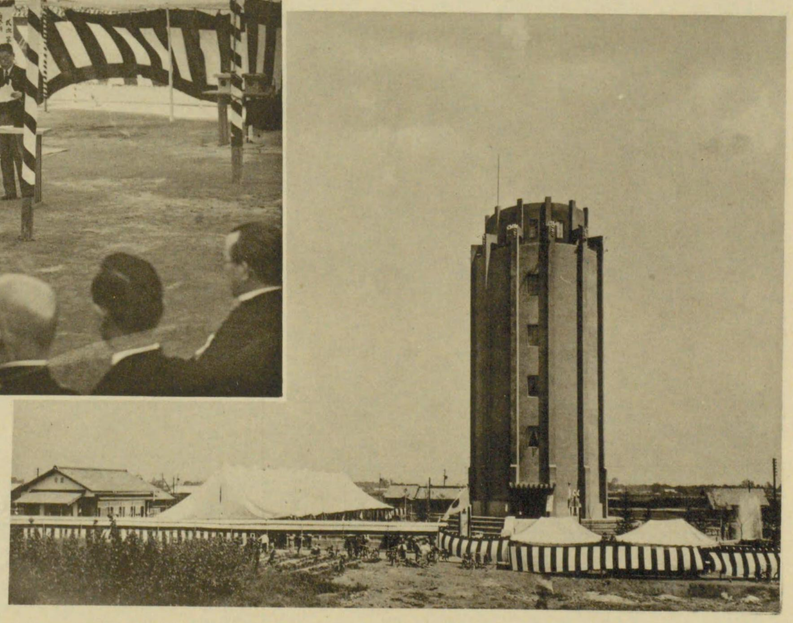
山口民三郎

水道課員（昭和十二年三月現在）

眞清公園内ニ於ケル水道噴水

昭和十年四月二十日配水塔築造用地ニ於テ執行シタル起工式々場

昭和十一年十二月三日市内給水部ノ始期祭神式ヲ行フ



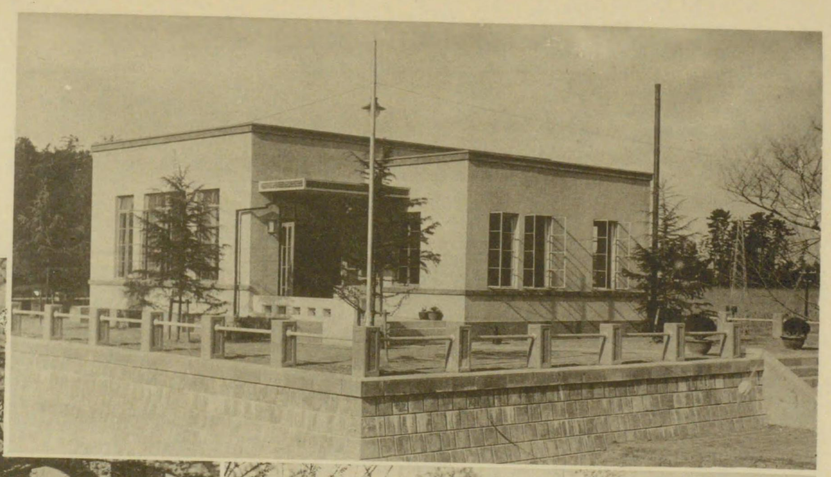
上　昭和十二年五月九日通水式ニ於ケル市長式辭

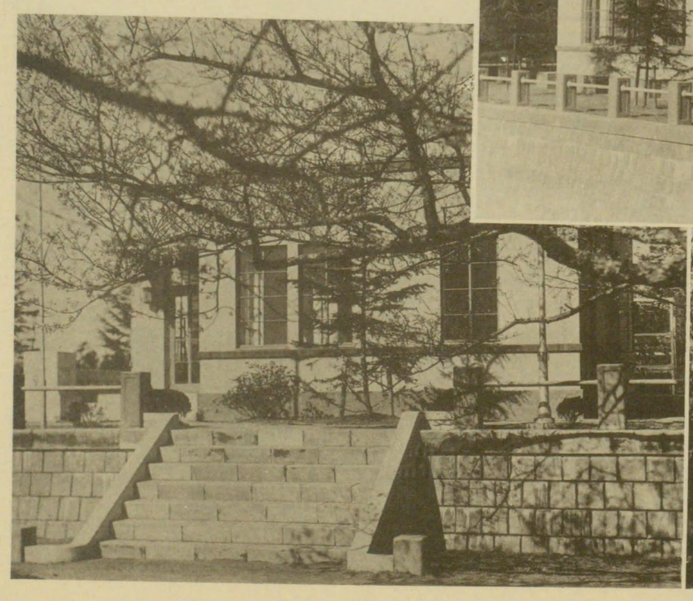
右　配水塔構内ニ於ケル通水式々場ノ外觀

上　水源喞筒室外觀

上　同　左下

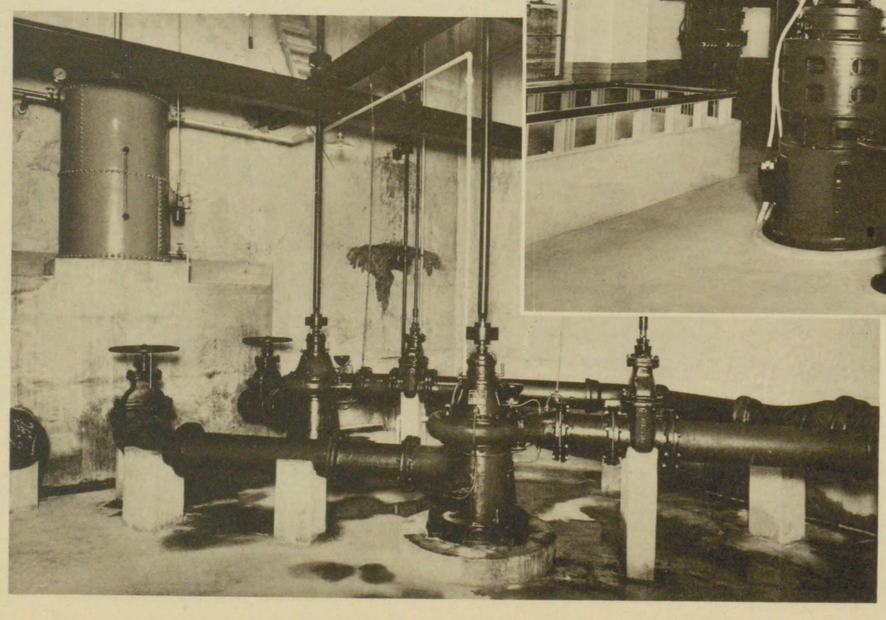
櫻物念記然天ノ近附室筒喞源水　右下



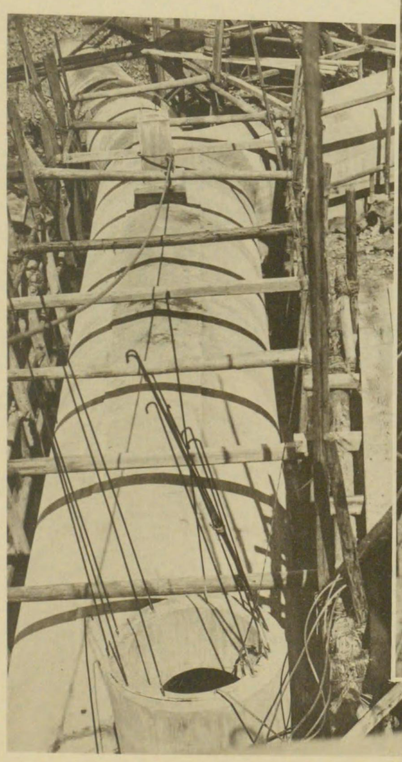


上　水源取水喞筒直結三十馬力堅軸電動機附並機械盤電配及

下　同上電動機直結二百五十五百二耗十ータビンゝ喞筒並附「ンホイ」用眞空槽及附屬機械

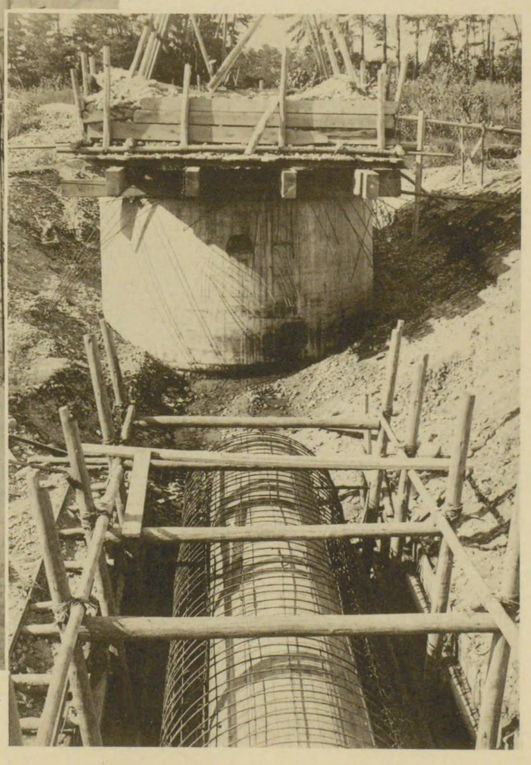


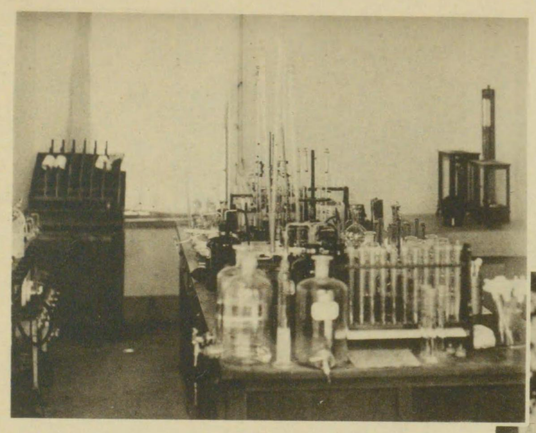
鐵「ンホイサ」ルス續接ヲ井筒喞ト井水集ノ箇二　下
渠暗遣トーリクンコ筋鐵ルム納ヲ管



耗十五百三徑內）管「ンホイサ」上
管通壓鑄鐵管）ト暗渠ノ鐵筋

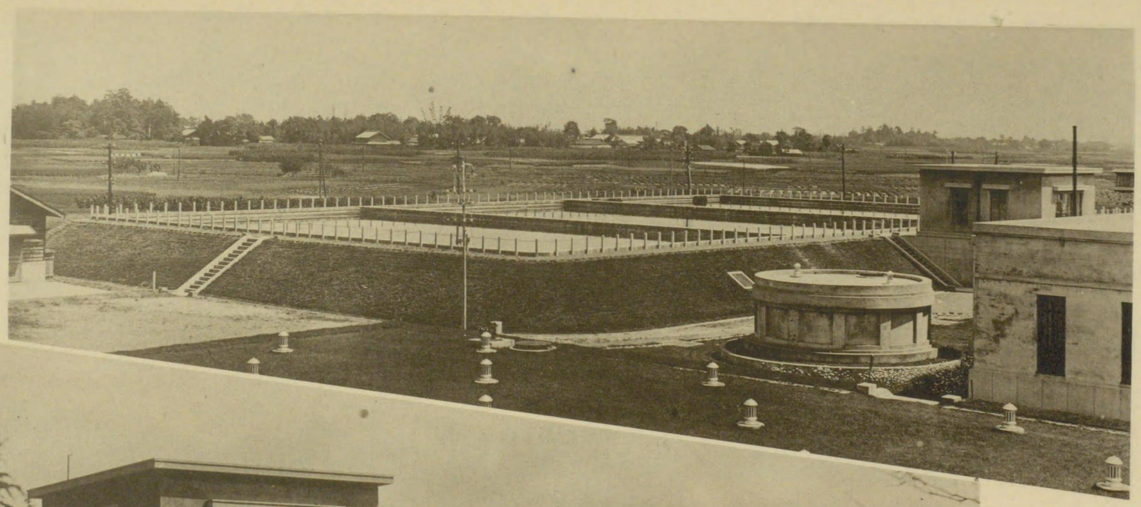
中遣築渠暗用管「ンホイサ」ト況狀下沈井水集　下
景光ノ



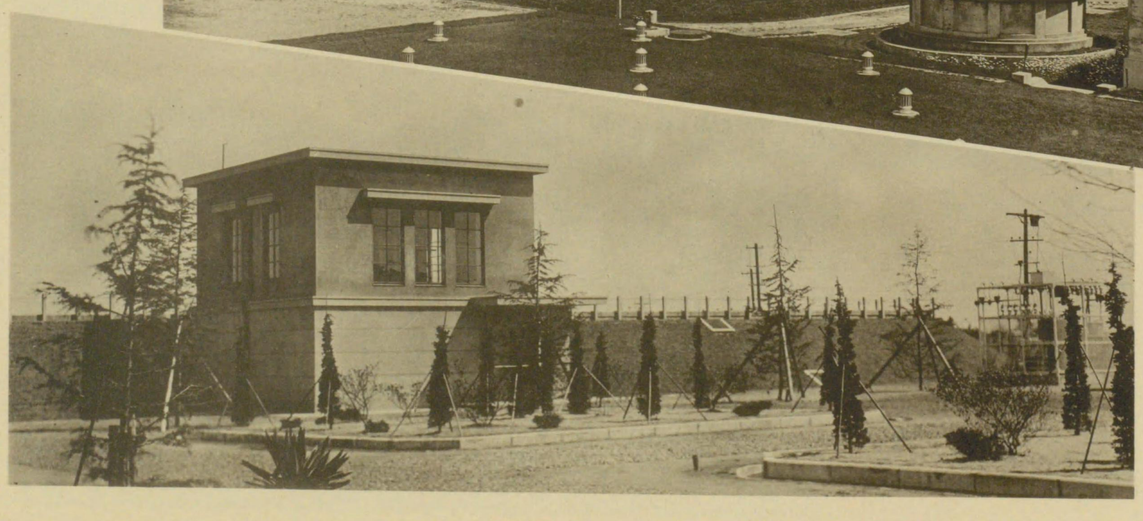


右　淨水場事務所及水質試驗室ノ建物

上　水質試驗室ノ一部



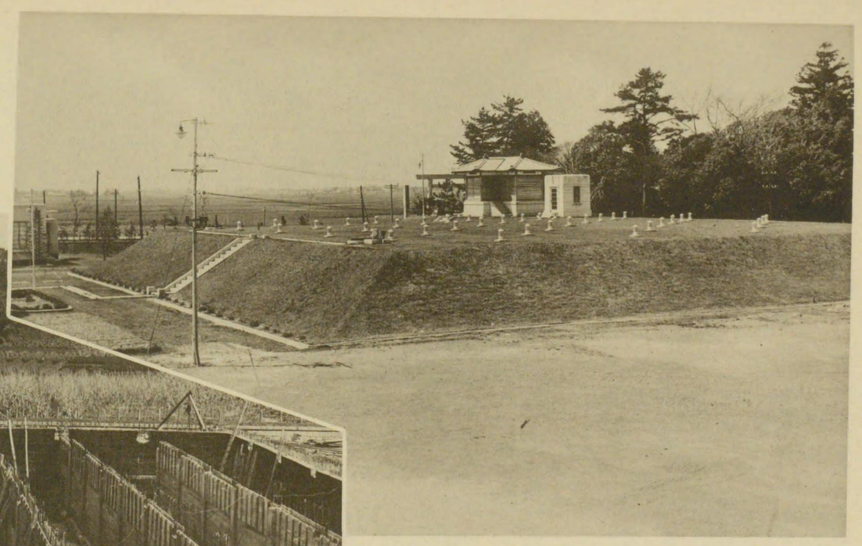
右　濾過池

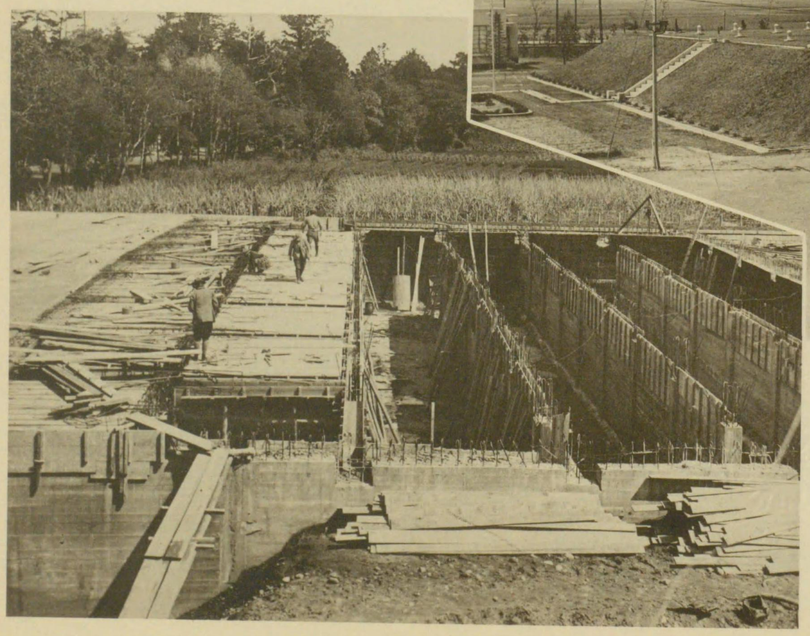


左　濾過池側面ト濾過池ニ附屬セル量水井ト鹽素滅菌機室
右端ハ屋外變壓所

景況ノ中筑樋床濾内池過濾　右上

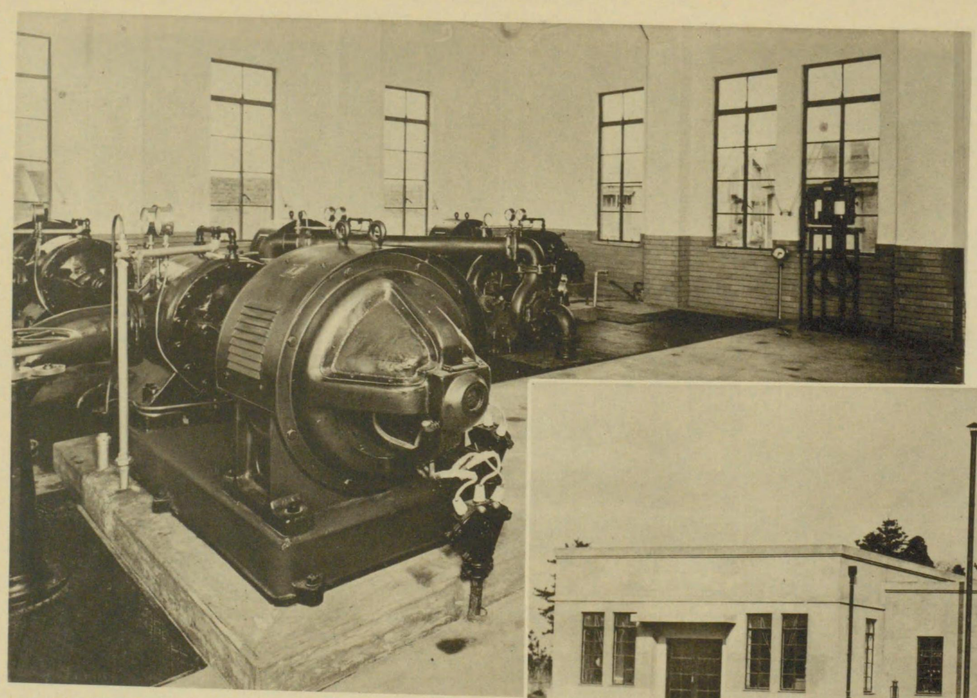
況狀ノ筋配池過濾ニ共下上　左





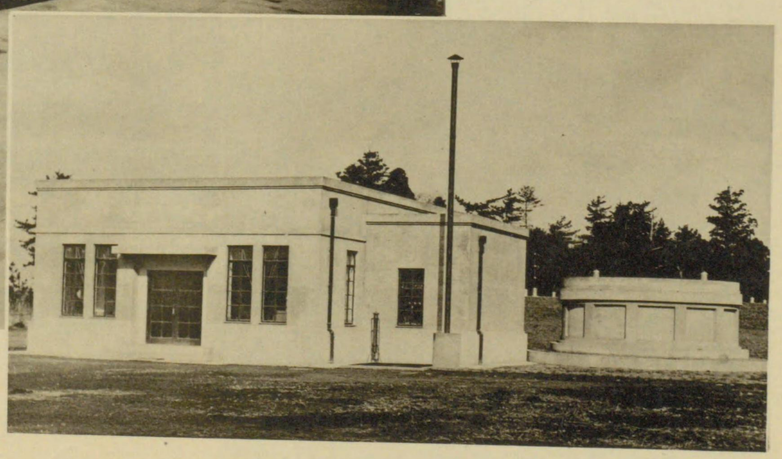
上　淨水池着水井及鹽素滅菌機室

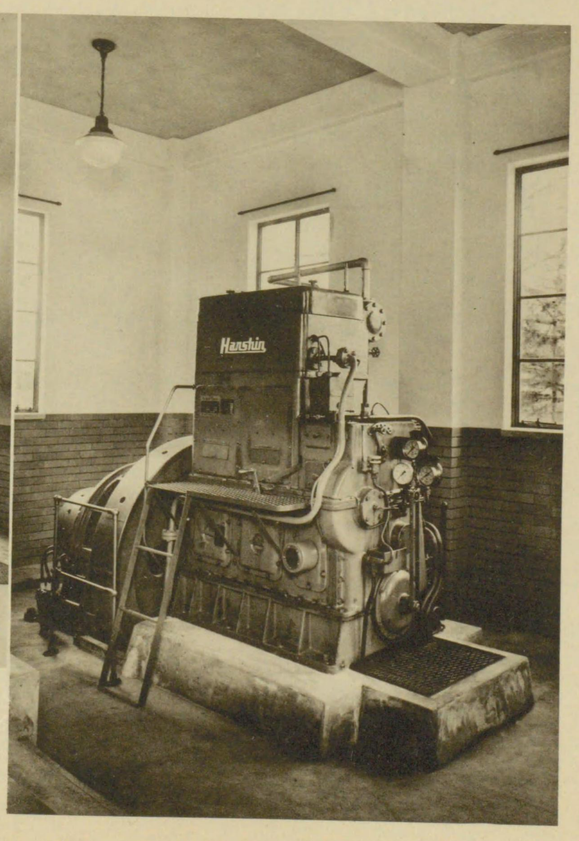
下　同上工事中ノ光景



上　淨水場配水用口徑二百耗ダーピンプ筒喞ト直徑五十
　　馬力電動機四臺

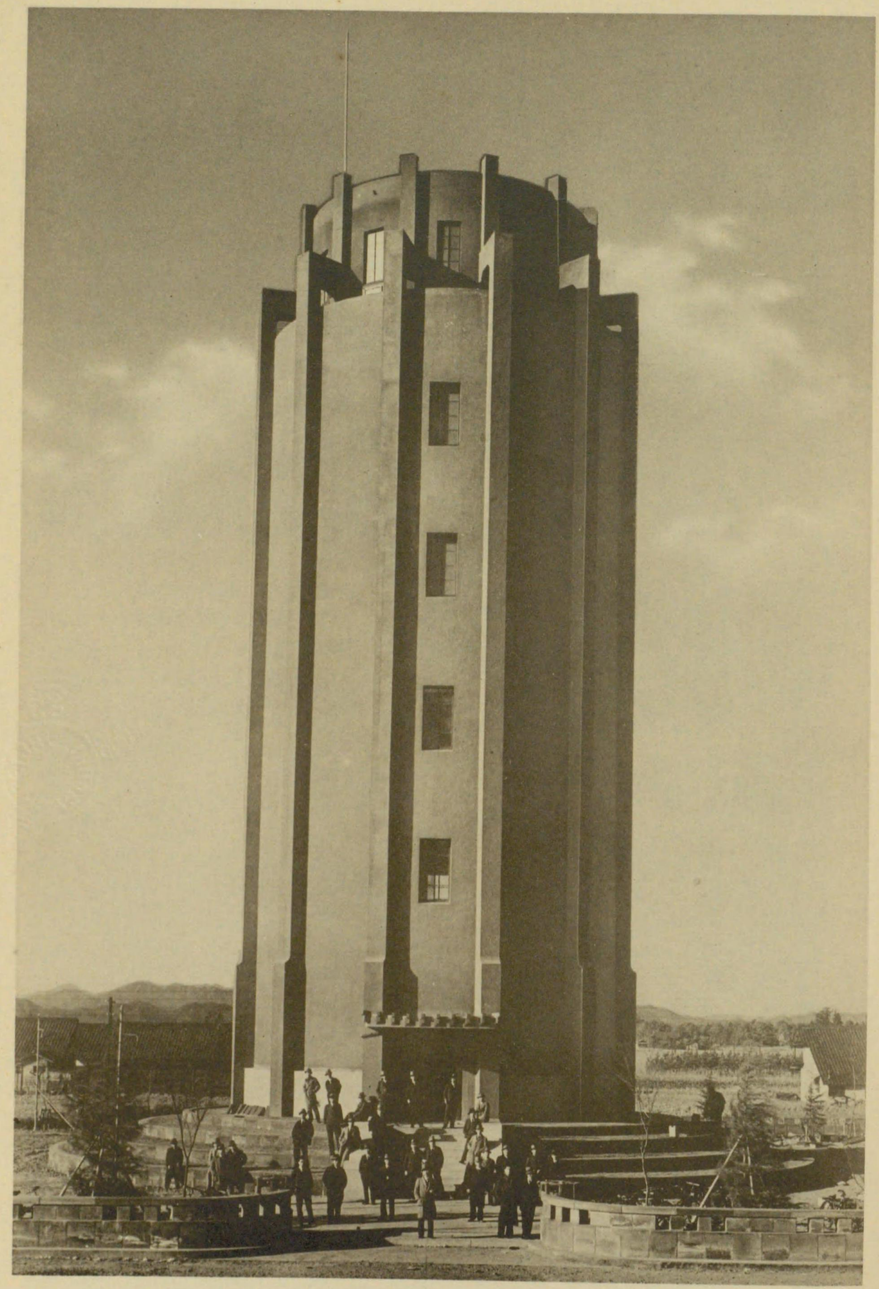
右　淨水場喞筒室發電機及電盤配電室備豫ノ物建ノ用
　　戸井筒喞ルセ接隣ニ物建ト面



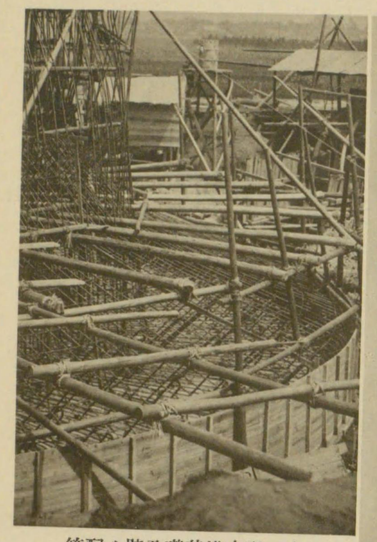


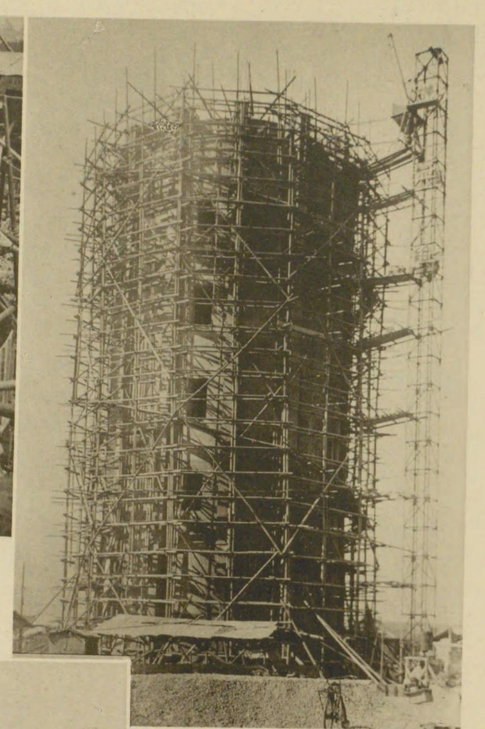
上　淨水場備豫發電機（78K.V.A）用動原其ト百馬力ンヂンエルゼーデ

右　水源備豫發電機（50K.V.A）用動原其ト五十六馬力ンヂンエルゼーデ

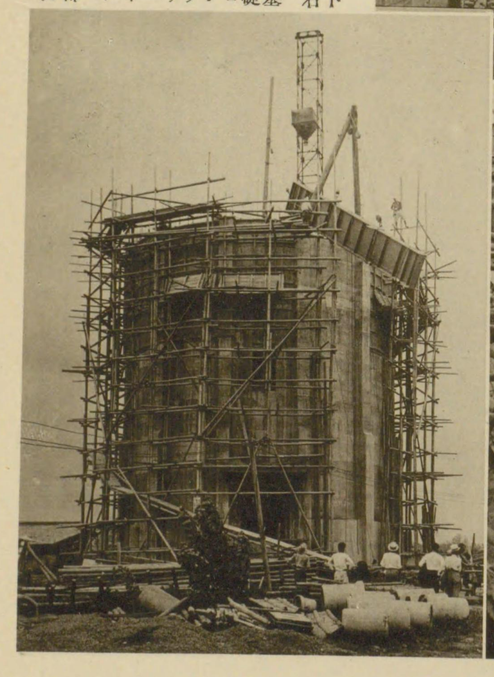


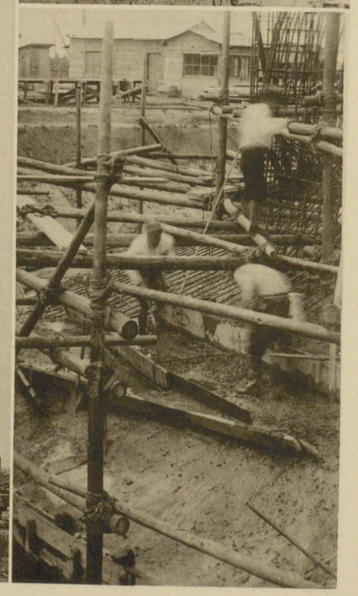
配水塔ノ外觀（地盤上屋蓋天端迄三十四米三十糎）





筋配ノ壁及礎基塔水配　左上
場足ノ中築建上同　右上
景光ノ上吊桁鈑床置設槽水　左下
分部一ノトーリクンコ礎基　右下





市會議員水源工事視察

昭和十年五月二十三日水道委員水源工事視察

昭和十三年七月五日午後五時出水狀況午後九時ニハ水面ニ浮ブ桑
株ヲ水中ニ沒シ流築シ流堤ヲ上溢流ス
上　本堤ヨリ喞筒室ヲ望ム　下　築流堤ヨリ集水井ヲ望ム

第一章　市　勢　一　班

第一節　市勢竝沿革

一宮市は愛知縣の西北部に位し、尾濃平野の中央を占め、四圍豁達として拓け沃野數里に亘る、而して木曾の清流は市域を貫る一里餘の地を北より西に繞り、之より引用する用水は常に市域を縱横に疏通灌漑し、農工業を裨益する所極めて大なり。

地勢　平坦にして起伏尠く、東北より西南に向つて纔に傾斜せり。

氣候　概ね溫暖にして寒暑共に峻烈ならず、啻に農耕、産業上好適の地たるのみならず、又商工業の發達上無限の源泉をなせり。

廣袤　東西三十五町餘、南北一里五町餘、面積僅か〇・五三五平方里餘に過ぎず。

戸口　昭和十三年十月一日現在に於ける戸數一萬一千二百五十六戸、人口六萬百六十八人なり。之を大正十年市制實施當時の戸數六千二百八十三戸、人口三萬七十五人に比すれば實に隔世の感あり。

交通　運輸交通機關としては東海道省線市街の中央部を貫通し、名古屋鐵道は本市を樞軸として各地に通ず。卽ち鐵道省線に連絡して尾西線は津島及彌富、桑名方面に、蘇東線は起町に、木曾川線は奥町を經て木曾川町に、名岐線は名古屋及笠松、岐阜方面へ連絡し、東一宮線は名古屋、小牧、犬山、高山地方に通ず。又一宮市營乘合自動車は市

の内外を疾走し、國縣道も亦市街を縱横に貫通し、運輸交通の至便なること實に稀に見る所なり。尙郊外に在りては耕地整理事業に伴ひ開通したる道路は大小井然として整ひ、家屋の建築を促し市街區域年と共に擴大せり。

産業　位置、氣候、風土、交通竝に地勢は共に産業の發展に適し、古來より本市附近一帶の地は尾州織物の生産地として其の名あり。明治維新以來文化の進歩と共に高級織物を始め、各種織物の産出を見就中大正年間には織物工場大に機械化し又此の頃には既に一部毛織物の産出を見るに至り歐州大戰の勃發するや當地の事業界は一段の振興を加へ殊に同戰後著しく科學の進歩發展をなし撚絲、紡績、織物、染色、整理加工業等亦目覺しき發達を遂げ今日の殷賑をなすに至れり、されば近郷尾西織物組合内に於ける年産額は年々增加の一途を辿り既に二億圓に垂んとし、今や國家的重要産業の一に數へられ、又本邦唯一の毛織物産地として他の追隨を許さざる域に達し實に工業都市として其の面目躍如たるものあり。

沿革　抑も本市の起原は極めて古く幾何の年代を經たるや詳かならざれども、崇神天皇の御宇今の國幣中社眞清田神社を此地に鎭座せられたりしを以て見るも既に夫以前より大和民族居住し開發をなしたるものの如し。由來本市は妙興寺村と共に眞清田莊をなし、壽永の頃平賴盛の領する所となりしも、其後其一族久我氏の家領となり戰國時代に及べり。又一宮の名も古くより稱へられ東鑑、十六夜日記等に見え、鎌倉時代より此名ありたり。戰國時代關十郎右衞門此地に城を築き之を一宮城と稱し、居城とせり。其子小十郎右衞門尉長安森武藏守に屬し天正十二年四月九日長久手の役に戰死し其の後本城は一時豐臣秀吉の戰略に使用され、或は織田信雄の家臣不破源六廣綱の入城せしことありしも遂に廢城となれり。德川時代に至り寛永十二年御藏地と稱し、尾州侯の直轄となり、草高四千三百六十石、眞清田神社々領を加へ俗に五千石と呼べり。正保年間には町割をなし、町名を設け大に市街地たるの面目を整へ、其後寛保年間には諸般の事務刷新を圖り、住民をして尠からず利便を感ぜしめたり。又享保十一年乃至十二年には村民の有力者相謀り村繁昌並に村民救助の爲市場の開始を、再三代官に出願し、近郷農産物の物々交換取引の因を作り、常に市場の統制に努めたりし結果逐次殷盛を極め、寛政三年月六齋三ノ日、八ノ日を市立と定め茲に三八市の起原をなし遂に今日の盛大なる集散市場を形成するに至れり。斯くて明治維新となり、幾多行政制度の變遷を經、明治二十二年十月町村制施行に當り隣村一色村を合併し一宮町と改稱せり。同二十四年濃尾大地震には激震圏内にあり、人蓄家屋の被害莫大なりしも、克く官民一致し、鋭意復舊に努めたるを以て幾何もなく舊觀以上に復興せり。續て官公衙、各種會社、工場續々新設せられ、殖産興業日を遂ふて隆盛となり、大正十年九月には市制を實施し、爾來益〻商工業の殷盛を來せり。殊に近時毛織物の生産頓に勃興し、愈〻地域の狹隘を來したるを以て、更に進んで隣接町村併合の必要を叫ぶに至れり。されば大一宮市出現は遠からず實現さるべく市勢の進運駸々乎として、停止する所を知らず。

第二節　市　政　機　關

本市水道布設調査竝に竣工に參與せられたる市主腦部及市會議員左の如し。

市	長	
小島太左工門	昭和八年十二月十九日退任	
森林右工門	〔昭和九年五月三日就任 〔同十三年五月三日再選就任	

市長代理

市長代理助役 前島次郎 昭和八年十二月十九日就任 同九年五月三日解任

助役

前島次郎 昭和九年七月九日退任

小濱元夫 昭和九年八月六日就任 同十三年八月五日退任

小川淺治郎 昭和十三年十一月十日就任

收入役

佐分薫 昭和七年五月一日再薦就任 同十一年五月一日三薦就任

市會議長

森林右工門 昭和九年五月三日辭任

田中利左衛門 昭和九年五月三日當選 同十二年十一月四日滿期

吉田萬次 昭和十二年十二月三日當選

市會副議長

田中利左衛門 昭和九年五月三日辭任

小島克實 昭和九年五月三日當選 同十二年十一月四日滿期

小島克實 昭和十二年十二月三日當選

水道布設調査期間に於ける市會議員

森幾松 昭和八年二月二十七日迄

小島克實 昭和八年十一月四日滿期

田中利左衛門 昭和八年十一月四日滿期

山内源七 昭和八年二月二十七日迄

福井英一 昭和八年二月二十七日迄

粟田竹治郎 昭和八年十一月四日滿期

舟橋愛十郎 昭和八年十一月四日滿期

瀧多賀男 昭和八年十一月四日滿期

加藤源一 昭和八年十一月四日滿期

伴寅三郎 昭和八年十一月四日滿期

伊藤彦三郎 昭和七年九月四日死亡

今井末之信 昭和八年十一月四日滿期

淺井藤三郎 昭和八年十一月四日滿期

吉田萬次 昭和八年十一月四日滿期

豐島豐七 昭和八年十一月四日滿期

舟橋松治郎 昭和八年十一月四日滿期

伴利三郎 昭和八年十一月四日滿期

鈴木亀治郎 昭和八年十一月四日滿期

森文左工門 昭和八年十一月四日滿期

中井代次郎 昭和八年十一月四日滿期

松本森治 昭和八年五月十一日死亡

山口民三郎 昭和八年十一月四日滿期

脇田市太郎 昭和八年十一月四日滿期

大竹梅次郎 昭和八年十一月四日滿期

田中安逸　昭和八年十一月四日滿期
宮木彦八郎　昭和八年十一月四日滿期
林利雄　昭和八年十一月四日滿期
岩田孫六　昭和八年十一月四日滿期
森林右工門　昭和八年十一月四日滿期

水道布設實施期間に於ける市會議員

岩田孫六　昭和十一年三月二十五日辭任
舟橋松治郎　昭和十二年十一月四日滿期
日野常太郎　昭和十二年十一月四日滿期
吉田萬次　昭和十二年十一月四日滿期
淺井藤三郎　昭和十二年十一月四日滿期
舟橋愛十郎　昭和十一年十二月九日逝
後藤宗市　昭和十二年十一月四日滿期
冨板淺吉　昭和十二年十一月四日滿期
脇田市太郎　昭和十二年十一月四日滿期
森鋤三郎　昭和十一年十月十一日死亡
横井六三郎　昭和十二年十一月四日滿期
佐藤次郎　昭和十一年三月二十六日辭任
太田藤吉　昭和十二年十一月四日滿期
原田要市　昭和十一年七月十三日辭任
平山文次　昭和十二年十一月四日滿期
今井末之信　昭和十二年十一月四日滿期
宮木彦八郎　昭和十二年十一月四日滿期
丹菊仁三郎　昭和十二年四月二十九日死亡
加藤源一　昭和十二年十一月四日滿期
小島克實　昭和十二年十一月四日滿期
酒井秋太郎　昭和九年一月十五日死亡
後藤幸三郎　昭和十二年十一月四日滿期
林利雄　昭和十二年十一月四日滿期
前田米三　昭和十一年三月二十六日辭任
森逸郎　昭和十二年十一月四日滿期
鵜飼猶市　昭和十二年十一月四日滿期
伴寅三郎　昭和十二年十一月四日滿期
尾關德次　昭和十二年十一月四日滿期
田中安逸　昭和十二年十一月四日滿期
中井代次郎　昭和十二年十一月四日滿期
岩井藤九郎　昭和十二年十一月四日滿期

現市會議員

伊藤吉兵衛　昭和十二年十一月五日當選
日野常太郎　昭和十二年十一月五日當選
荻本一郎　昭和十二年十一月五日當選
後藤宗市　昭和十二年十一月五日當選
淺井藤三郎　昭和十二年十一月五日當選
冨坂淺吉　昭和十二年十一月五日當選
宮木彦八郎　昭和十二年十一月五日當選
黑田正隆　昭和十二年十一月五日當選
加藤源一　昭和十二年十一月五日當選
磯貝惠寛　昭和十二年十一月五日當選
尾關德次　昭和十二年十一月五日當選
坂川新吾　昭和十二年十一月四日滿期
伴利晴　昭和十二年十一月四日滿期
森林右工門　昭和十二年十一月四日滿期
田中利左衛門　昭和十二年十一月四日滿期
鈴木亀治郎　昭和十二年十一月四日滿期
舟橋松治郎　昭和十二年十一月五日當選
小笠原末太郎　昭和十二年十一月五日當選
伴寅三郎　昭和十二年十一月五日當選
杉本爲一郎　昭和十二年十一月五日當選
小島克實　昭和十二年十一月五日當選
加藤鐵藏　昭和十二年十一月五日當選
神戸甚一郎　昭和十二年十一月五日當選
古澤嘉造　昭和十二年十一月五日當選
大野勝三郎　昭和十二年十一月五日當選
川合岡平　昭和十二年十一月五日當選
田中安逸　昭和十二年十一月五日當選

中井捨吉　昭和十二年十一月五日當選
鈴木亀治郎　昭和十二年十一月五日當選
後藤幸三郎　昭和十二年十一月五日當選
鵜飼猶市　昭和十二年十一月五日當選
横井六三郎　昭和十二年十一月五日當選
吉田萬次　昭和十二年十一月五日當選
田中正太郎　昭和十二年十一月五日當選
田中利左衛門　昭和十二年十一月五日當選
林利雄　昭和十二年十一月五日當選
北川喜市　昭和十二年十一月五日當選
伴利晴　昭和十二年十一月五日當選
澤木明一　昭和十二年十一月五日當選
中村義雄　昭和十二年十一月五日當選
坂川新吾　昭和十二年十一月五日當選

水道布設調査期間に於ける臨時上下水道委員

（定員九名）

中井代次郎　昭和八年十一月四日滿期
脇田市太郎　昭和八年十一月四日滿期
山口民三郎　昭和八年十一月四日滿期
森文左工門　昭和八年十一月四日滿期
鈴木亀治郎　昭和八年十一月四日滿期
粟田竹治郎　昭和八年十一月四日滿期
今井末之信　昭和八年十一月四日滿期
林利雄　昭和八年十一月四日滿期
瀧多賀男　昭和八年六月十六日辭任
淺井藤三郎　昭和八年十一月四日滿期

水道布設實施期間に於ける臨時水道委員

（定員九名）

淺井藤三郎　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十二年十一月四日滿期
冨板淺吉　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十二年十一月四日滿期
佐藤次郎　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十一年三月二十六日辭任
原田要市　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十一年七月十三日辭任
加藤源一　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十二年十一月四日滿期
鵜飼猶市　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十年十一月十八日辭任
中井代次郎　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十二年十一月四日滿期
坂川新吾　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十二年十一月四日滿期
伴利晴　昭和八年十一月二十一日推薦
　同　十二年十一月四日滿期
岩田孫六　昭和十年十一月十八日推薦
　同　十一年三月二十五日辭任
鈴木亀治郎　昭和十一年四月二十四日推薦
　同　年十二月二十六日辭任
後藤宗市　昭和十一年四月二十四日推薦
　同　年十一月四日滿期
今井末之信　昭和十一年七月二十四日推薦
　同　年十二月二十六日辭任
森逸郎　昭和十一年十二月二十六日推薦
　同　十二年十一月四日滿期
横井六三郎　昭和十一年十二月二十六日推薦
　同　十二年十一月四日滿期

現水道委員

（定員九名）

荻本一郎　昭和十二年十二月三日推薦
浅井藤三郎　昭和十二年十二月三日推薦
　同　十四年三月二十七日辭任
宮木彦八郎　昭和十二年十二月三日推薦
加藤源一　昭和十二年十二月三日推薦
磯貝惠寛　昭和十二年十二月三日推薦

伴　寅三郎　昭和十二年十二月三日推薦　横井六三郎　昭和十二年十二月三日推薦
神戸甚一郎　昭和十二年十二月三日推薦　中村義雄　昭和十四年三月二十七日推薦
鵜飼猶市　昭和十二年十二月三日推薦

第二章　水道布設計畫

第一節　沿革

本市は往古木曾川の氾濫流域にして、地質沖積層より成り井水は概ね色濁、臭味を有し甚しきに至りては之に浮游物を混するもの、或は「アンモニヤイオン」を檢出するものさへありて水質極めて劣惡不良なり。之を別表大正五年二月市内井水檢査成績に徴するに檢査總戸數二千九百九十一戸の内飲用適僅々二二・パーセント弱にして其の他は不良に屬せり。降つて昭和七年六月健康週間市内有志の希望に依り井水檢査を施行したることあり、此際に於ても略〻同樣の結果となれり。斯る飲用不適の井水を市民の使用する儘に放任し置くことは保健衞生上惡果を來し延ては產業の振興を阻害し本市の發展上頗る寒心に耐へざるものあり。されば本市民は夙に水道布設の實現を饒望し、市當局又其の必要を認めたるも本市は地勢上、復著しく排水の不良にも惱まされ逐年惡水停滯或は豪雨時毎の家屋浸水に苦慮せし際なるを以て財政上兩者の企畫を許さざるところとなり、先以て下水工事の實施を急務とし工事費百五十萬圓を支出し、昭和元年より同十年に至る十箇年計畫の下水工事に着手せり。斯る際なるを以て水道事業企畫は一時中斷するの止むなきに至り、其の後荏苒歲月を經過したりしも、工業の異數なる發展と人口の增加は最早水道布設に躊躇を許さず、仍て昭和四年に至り下水擔當葛山技師をして水道布設の計畫を策てしめたり。本案は給水豫定人口を六萬人とし水源を愛知縣葉栗郡草井村大字鹿子地先木曾川畔寄洲に設け潛流を集水し市内九品町四丁目市立高等女學校北接

地に引水し濾過清淨し市内一圓に給水する計畫なりしも書類不備の爲認可未了の儘數年間を經過せり。然れども事態は之を許さず下水工事の完成するに伴ひ、市内の井水に涸渴を來す部分をさへ生じ、且一方人家稠密の度を加ふるに從ひ防火上に於ても一日も忽諸に附すべからざるに至り、市當局或は委員各位の各都市視察の結果、適切に水道急施の必要を痛感し遂に昭和七年七月十二日市會に水道調査費當該年度分四千圓の支出を提案することとなり、即日決議さる。次で下水道顧問米元晋一氏に水道顧問を併囑し主任技師足立藤一氏を始め技術者四名を囑託し同年九月より之が調査に着手せり。次で翌八年度に於て調査費六千圓の支出を決議さる。爾來囑託技術員一同の熱心なる努力に依り、調査事務大に進捗し同年八月には之が完了を告げ爰に本市水道布設計畫の大綱を得ることとなりたり。左に調査の概要を示さん。

井水檢査成績表

大正五年二月檢査

區別	適 員數	適 %	濾過適 員數	濾過適 %	不適 員數	不適 %	計
杉戸區	五〇	三二・七	一六	一〇・四	八七	五六・九	一五三
禰宜町區	五三	二三・六	二〇	八・八	一五二	六七・六	二二五
大門區	一四	六・五	一〇	四・六	一九三	八八・九	二一七
中町區	二七	七・七	二五	七・一	二九六	八五・二	三四八
傳馬町區	三〇	九・九	五	一・六	二六七	八八・五	三〇二
中之町區	九六	二七・九	一四	四・〇	二三三	六八・一	三四三
下町區	三六	二一・〇	五	二・九	一三〇	七六・一	一七一
松降區	六一	二〇・八	三四	一一・五	一九九	六七・七	二九四
神明津區	五二	二二・九	四九	二一・五	一二六	五五・六	二二七
石野區	三一	二四・〇	二八	二一・七	七〇	五四・三	一二九
須ケ崎區	三八	二二・二	三八	二二・七	九五	五五・六	一七一
印田區	一二	一五・〇	三	三・七	六五	八一・三	八〇
兩郷寺區	五一	六七・二	五	六・五	二〇	二六・三	七六
東小島區	一五	四七・〇	一一	三四・三	六	一八・七	三二
西小島區	五四	四八・七	一八	一六・二	三九	三五・一	一一一
牛野區	一七	四八・五	八	二二・九	一〇	二八・六	三五
一色區	一五	一九・七	一〇	一二・九	五二	六七・四	七七
計	六五二	二一・八	二九九	一〇・〇	二、〇四〇	六八・二	二、九九一

昭和七年六月健康週間市内各地有志の希望に依り調査せし井水檢査表

種別	適	濾過適	煮沸適	不適	水量不足ノ爲檢査未了	計
飲料水	二〇	六	三四	四二	一	一〇三

第二節　水源の比較

水源地決定に當り、之が候補地として五ヶ所を選定し、其の適否に付比較調査をなせり。其の結果を略記すれば左の如し。

案	取水位置	概算工費
山那	丹羽郡扶桑村大字山那	市ノ中心ヨリ水源ニ至ル距離 約一二、九〇〇米
小淵	同　大字小淵	一、七五〇、〇〇〇圓
		〃一一、三〇〇
		一、六八〇、〇〇〇

草井	葉栗郡草井村大字草井	〃一〇、三〇〇	一、六五〇、〇〇〇
極樂寺	同郡淺井町大字極樂寺	〃五、二三〇	一、五〇〇、〇〇〇
鑿井	市内		一、二八〇、〇〇〇

一、山那、小淵並に草井案

山那、小淵並に草井の各案に於ては何れも同地木曾川本流低水位と本市平均地盤面との間の高低差約一三米乃至二〇米の間にあると雖も之を伏流水集水面より自然匂配の鐵管路に依り本市に流下せしめんとするときは地形の關係上堀鑿大となり、其の深山那案に於ては五米乃至九米の堀鑿を要する區間全長の約三分の一に達し、小淵案に於ては五米餘の堀鑿延長約一、五〇〇米、草井案に於ても之に準じ相當の延長となり加ふるに此の通過地點は總て地下水面高く鐵管布設作業頗る困難なるのみならず布設後一旦事故發生を想へば維持管理上頗る寒心すべきものあり、故に之等の地點は經濟上の見地よりすれば寧ろ水源に喞筒を設置し管の埋設深を減ずるを妥當とするものにして猶叙上地點に對する送水鐵管路延長は一二、六〇〇餘米乃至一〇、三〇〇餘米の長距離にして用地費、鐵管費及布設費を加算するときは相當莫大となる等種々の缺點を有せり。

二、極樂寺案

極樂寺案に於ては同地木曾川の低水面は本市平均地盤面より高きこと僅々三米餘に過ざるを以て本地點に於ては送水に喞筒を要することは必然的なれども管の布設容易にして其の延長は前記三地點の内最短距離の二分の一にも達せず、然も之が用地は大部分道路占用に依り得る便益あり、而して水源は木曾川の低水流路に最も接近し附近の廣濶なる一帶の地域は以下章を逐ふて述ぶる如く伏流水豐富なり。猶本地點附近は林野大部分を占め其の間所々に耕地點在するの狀況にして堤外地内の村落にも亦最も克く遠ざかり取水上他に累を及ぼすが如き虞なく且從來の出水に際しても嘗て被害を受けたることなき安全なる地域なり。

三、鑿井案

本市の今次水道計畫に於て鑿井を以て水源とする案は送水工事費を減少し、濾過池築造費を要せざる等新設工事費に於て幾分節減をなし得る利點あり、されば本案は相當考慮を要するものとし、先ず市の内外に現存する鑿井に就て調査を行へり。

當市内に於ては既に大日本紡績、東洋紡績を始め各工場其の他個人に於て多數の鑿井を穿ち、取水するものあり、概ね地下三十米内外の深度に於ける砂、礫層の水脈より湧出する水を喞筒に依り汲み上ぐるものにして水質良好なりと雖も從來鑿井の湧水面は年を經るに從ひ低下し其の量も亦減少し、井相互の干渉甚しき實狀なるを以て各工場に於ても屢〻井の增加を行ふものさへあり、又市外に於ては鑿井點在し相互間の距離も大にして市内に於けるものの如く的確なる事實を知ることを得ざれども年を經るに從ひ湧水面の低下及湧水量の減少する事實は避くべからざるものなり。

爰に於て仮に當市水道實施に當り如上の實例に於ける鑿井の深度を更に相當深むるとするも水脈水量は未知のものにて果して一定の取水量を持續し得るやの疑問を多分に有するものにして將來益〻商工業の發展並に市の膨脹を期し更に猶水道施設に於ても逐次擴張を豫想する本市水道の水源を鑿井に求むるは頗る不安とする所なり。

以上各列記する利點に因り極樂寺提外地を以て最良の水源地と認め本市水道水源地と決定せり。

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

一、水道布設認可申請

昭和八年十月四日水道布設に關する關係議案を市會に提出卽日原案可決されたるを以て直に水道條例第三條に依り本縣知事を經て認可申請をなしたり。

六第七八八號

一宮市水道布設認可申請書

本市ハ濃尾平野ノ中央ニ位シ本邦第一ノ毛織物産地トシテ名聲内外ニ遍ク、年ト共ニ股賑ヲ極メ、交通機關四通八達シ道路交通亦能ク啓ケ、商取引ノ徂徠頗ル頻繁ナリ、近年毛織工業ノ振興隆盛ニ伴ヒ人口亦逐年增加シ現時人口四萬五千餘ヲ算ス、既往年々人口ノ增加率ハ全國中屈指ノ高率ヲ示シ將來益ミ發達セントスルノ狀勢ニアリ、サレバ市民ノ保健衞生ハ勿論産業ノ發展竝ニ防火ノ施設上水道布設ノ必要ハ焦眉ノ急ニ迫レリ、加之本市井水ノ大部分ハ渴色惡臭ヲ有シ或ハ混濁ヲナスアリ、甚シキニ至リテハ地層ノ關係上堀井戸ニ依リ井水ヲ求メ得サル地方サヘアリ、近來下水工事ノ着々進行スルニ伴ヒ井水涸渴スルモノ多ク市民ハ衞生、防火上更ニ脅威ヲ增シ水道ノ急施ヲ絕叫シ歇マサル狀態ニアリ、爰ニ市會一致ノ議決ヲ經、關係書類相添認可申請候條至急御認可相成度候

昭和八年十月六日

愛知縣一宮市長　小　島　太　左　工　門印

内務大臣　男爵　山　本　達　雄　殿

イ　水道布設目論見書

第一　水道事務所ノ所在地

一宮市役所内

第二　水源ノ位置及水量ノ概算

一、水源ノ位置

愛知縣葉栗郡淺井町大字極樂寺地内木曾川堤外地ニ集水井ヲ穿チ伏流水ヲ湧出セシメ、取水使用スルモノニシテ別紙計畫說明書ノ通リ

二、水量ノ概算

渴水時本川表面流量毎秒七七四・九立方尺（二一・五六三立方米）ニシテ以下取水量決定理由書中水量ノ項ニ於テ記載ノ通リ

三、水　　質

別紙試驗成績表ノ通リ

第三　水道線路及水道線路ニ沿ヒタル地名淨水場、喞筒場ノ位置

一、水道線路

葉栗郡淺井町大字極樂寺字池木曾川堤外地ニ設置スル送水喞筒室ヲ起點トシ以下同郡葉栗村大字佐千原淨水場内着水井ニ至ル延長三、二九五・一五米ノ間ヲ送水線路トシ内徑四五〇耗鐵管ヲ使用ス。

二、水道線路ニ沿ヒタル地名

葉栗郡淺井町大字極樂寺

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

葉栗郡葉栗村大字笹野、大字島村、大字富塚、大字佐千原

三、淨　水　場

葉栗郡葉栗村大字佐千原ニ在リテ場内主要工作物ハ着水井、濾過池、量水井並ニ殺菌室、淨水池及配水喞筒室等ナリ。

第四　給水區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

一、給水區域

一宮市全部

將來隣接地域ノ發展ニ伴ヒ必要ニ應シ市外給水ヲ行ハントス

二、人　口

現住人口四四、九八七人（昭和七年十月一日調査）

第一期給水計畫人口六〇、〇〇〇人（別紙計畫說明書ノ通リ）

三、一人一日ニ對スル給水量

一人一日ニ對スル最大給水量一三〇立但總人口一人當リトス

一人一日ニ對スル年平均給水量八五立　同

第五　人口增殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量增加ノ見込

一、人口增殖

大正九年（國勢調査ノ年）ヨリ昭和七年十月一日ニ至ル既往十二箇年間ノ人口統計表ニ依リ推算スルトキハ別紙說明書ニ記ス如ク一箇年約一、五〇〇人宛增殖スル割合トナル、之ニ依レハ第一期計畫六〇、〇〇〇人ニ增殖スルハ昭和十七年十月以降トナル。

二、多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量增加ノ見込

市内屈指ノ大工場タル大日本紡績及東洋紡績等ニ於テハ既ニ夫々大規模ノ水道設備ヲナシタルヲ以テ市ノ水道ヲ多ク利用セサルヘク其他工場ニ對スル給水量ハ前記給水量ニ含ムモノナリ

第六　水壓ノ概算

配水管ノ有効最大水壓ハ（鐵管中心ニ於テ）喞筒壓送時喞筒場ニ於テ三六・〇八一米（人口六萬時）四二・四一三米（人口十萬時）市界ニ於テ三七・〇〇二（人口六萬時）四一・四〇四（人口十萬時）ヲ有シ配水塔ヲ基準トスルトキハ三二・一七八米（人口十萬時）ヲ有スルコトトナル、而シテ管末ニ於ケル有効最小水壓ハ一六米ヲ標準トセリ、猶配水管ノ最大靜水壓ハ三三、四八五米（管徑二〇〇耗以上ニ付）ナリ

第七　工事方法

別紙說明書ノ通リ

第八　起工竝竣工期限

昭和九年四月起工シ同十二年三月竣工スルモノトス

第九　工費ノ總額其收入支出方法及其豫算ハ別紙ノ通リトス

第十　水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算ハ別紙水道給水條例及別表ノ通リトス

口　水　質

本市水道ニ使用セントスル原水ハ廣濶ナル木曾川河敷地ニ於テ自然ノ濾過作用ヲ受ケタル伏流水ナルヲ以テ其水質淸淨ニシテ汚濁物ノ混入スル憂ナシ、水質試驗ニ當リ水源地取水豫定地ニ於テ地表下一二・一二米ノ深迄徑一吋四分ノ一ノ鐵管打込井戸ヲ穿チ手押喞筒ヲ取付ケ伏流水ノ汲ミ出シヲ容易ニナシ別ニ地質調査ニ使用シタル徑三吋鐵管地表下一〇米餘ヲ沈下セルモノ二ケ所ニ手押汲上ゲ喞筒ヲ設ケ之ガ水質試驗ヲ愛知縣警察部衞生課ニ依賴シタリ、其結果ハ次表ノ通リニシテ檢査書寫ヲ添付セリ

（本書ニハ檢査書寫ヲ省略ス）

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

水質試驗成績表

位置　愛知縣葉栗郡淺井町大字極樂寺

種別	成績又ハ其他ノ事項		備考
地番	一、〇九八	一、一〇二	一、一四八ノ二
採酌位置	一二米一二〇	一〇米〇〇〇	九米八五〇
地表ヨリノ深	三米四八〇	六米四〇四	六米四二八
同　標高	一四六米〇〇〇	四八米〇〇〇	五二米〇〇〇
派流河岸ヨリノ距離			標高ハ參謀本部陸地測量部標高ニ準據ス
地質調査番號	第五號	第二號	第一號
水質試驗番號	第一號	第二號	第三號
一、色及清濁	無色澄明	無色澄明	無色澄明
二、臭味	無臭無味	無臭無味	無臭ナレドモ僅微ノ異味ヲ感ズ
三、沈淀	無シ	僅微	僅微
四、反應	中性	中性	中性
五、亞硝酸	檢出セズ	檢出セズ	檢出セズ
六、アンモニヤ	檢出セズ	檢出セズ	檢出セズ
七、過マンガン酸カリウム消費量	二、三七〇	三、三〇二	二、三三八
八、クロール	三、八九五	六、三八〇	六、七三五
九、硝酸	痕跡	痕跡	本行番號ヲ附シタル欄ニ相當スル成績ハ地質調査ニ使用シタル鐵管内ヨリ試驗水ヲ採酌シタル結果、但シ第五號ハ砂粒試驗ノミヲ行フ
一〇、硬度	微量	一、九	異味ハ鐵管ヨリ來ルモノト思料ス
一一、蒸發殘査	一、八	二、〇	獨乙法
一二、細菌集落數	七五、三八一	七六、三三二	七五、二七二

以上成績ハ千立方センチメートル中ノミリグラム量ヲ示ス

發見シ得ズ　九　個　七　個　可檢水一CC中ノ量

ハ　施設概要

注、本施設概要ハ水道布設認可後實施ニ當リ當初計畫ヲ幾分變更シタリシモノニ付テハ竣工セシモノヲ記スコトヽセリ

(一)　計畫人口

本市人口ハ年々異數ノ率ヲ以テ增加シ、本事業調査ニ着手セシ昭和七年十月一日ノ實施調査ニ依レバ既ニ四萬四千九百八十七人ニ達セリ過去三回ノ國勢調査其ノ他年々ノ戸口調査ノ結果ニ徵スルニ增加ノ平均ハ年約千五百人内外ナリ、之ニ依レバ本市人口六萬人ヲ算スルハ凡ソ九箇年後ノ昭和十七年ニシテ又人口十萬人ヲ算スルハ凡ソ三十六年後ノ昭和四十四年ノ頃トナルベシ、然リト雖モ今後下水完成シ水道普及シ道路其他諸般ノ文化的施設ノ逐次行ハルヽニ於テハ本市人口ノ增加ハ從前ノ比ニ非ザルベク必ズシモ昭和四十四年頃ヲ待タズシテ人口十萬ニ達スベキモノナルベシ

今回ノ計畫ニ於テハ第一期基本計畫給水人口ヲ六萬人ト定メ本書ニ述ブル如ク各施設ヲ施シタルモノナレド人口六萬タルヤ本水道工事竣成後永年ナラズシテ此ノ人口ニ到達スルモノナレバ玆ニ至リ莫大ノ費用ヲ投ジ再ビ大擴張ヲ行フハ非常ニ不經濟ナルヲ慮リ、將來ノ人口增加ニ際シ擴張ヲ容易ナラシムベク水源及淨水場ニ於ケル各施設ヲ始メ送配水管其ノ他各細部ノ設計ニ至ル迄之ガ考慮ヲ加味セリ、就中配水本管竝ニ準幹線ノ如キハ人口增加ニ對シ直ニ給水ニ支障ヲ來シ爲ニ多額ノ費用ヲ損失シ布設替ヲ要スル如キ不利ヲ招クヲ以テ此ノ際將來ノ計ヲ立ツルヲ妥當ナリト信ジ人口十萬ニ達スルモ聊カノ不便ヲ感ゼシメザル方針ヲ

執レリ上記配水幹線布設ノ計畫ハ本市道路ノ形態ト地域的戸口增加ノ趨勢トニ相俟ツテ最有効ニ鐵管布設ノ計畫ヲナシ得タルモノニシテ、人口增加ニ際シテハ幹線ヨリ給水用細管ヲ分岐スレバ直チニ十萬人給水ヲナシ得ル配管ヲナセリ

戸數及人口調査表

（各年十月一日現在實地調査）

年次	戸數	人口	增加 戸數	增加 人口	備考
大正九年	五、八一四	二七、二六三			
同　十年	五、九三三	二八、七〇一	一一九	一、四三八	國勢調査ノ結果
同　十一年	六、〇五二	三〇、一四一	一一九	一、四四〇	
同　十二年	六、五六四	三一、六八七	五一二	一、五四六	
同　十三年	六、七八七	三三、〇九六	二二三	一、四〇九	
同　十四年	六、九八三	三四、七四六	一九六	一、六五〇	國勢調査ノ結果
同　十五年	七、二八〇	三六、一二九	二九七	一、三八三	
昭和二年	七、四六三	三七、一三五	一八三	一、〇〇六	
同　三年	七、八一五	三八、三五七	三五二	一、二二二	
同　四年	八、〇三七	四〇、二九七	二二二	一、九四〇	
同　五年	八、五一三	四二、二二九	四七六	一、九三二	國勢調査ノ結果
同　六年	八、七〇三	四三、二四六	一九〇	一、〇一七	
同　七年	八、八八七	四四、九八七	一八四	一、七四一	
同　八年	九、三六三	四六、五九〇	四七六	一、六〇三	
同　九年	九、六二六	四八、一六五	二六三	一、五七五	
水道布設調査當時平均			二七二强	一、四九三	
昭和十年	一〇、〇〇九	五三、三七六	三八三	五、二一一	國勢調査ノ結果
同　十一年	一〇、八九八	五四、五六七	八八九	一、一九一	
同　十二年	一一、〇九〇	五八、九七〇	一九二	四、四〇三	
大正九年以降ノ平均			三一〇强	一、八六五强	

國勢調査ノ結果ニ依ル戸口ノ增加年次戸數人口增加

年次	戸數	人口	增加 戸數	增加 人口	備考
大正九年	五、八一四	二七、二六三			
大正十四年	六、九八三	三四、七四六	一、一六九	七、四八三	右側ハ五ヶ年ノ合計
昭和五年	八、五一三	四二、二二九	二、三四	一、四九七	左側ハ年平均
計			一、五三〇	七、四八三	
水道布設調査當時平均			三〇六	一、四九七	
昭和十年	一〇、〇〇九	五三、三七六	二、六九九	一四、九六六	
大正九年以降四回平均			二七〇	一、四九七	
			一、四九六	一一、一四七	
			二九九	二、二二九	
			二七九强	一、七四一	

(二)　給水量及消火用水量

給水量ノ決定ニ當リ全國中類似各都市ノ實例ヲ參考トシ猶本市ハ工業都市ナルヲ以テ工業用水其他防火用水等ヲ加算シ一人一日最大給水量ヲ一三〇立トス

然レドモ年内最多量ニ水ヲ使用スル夏季ニ於テ屢々起ル一日中ノ或時間内ノ最大給水量ニ對シテハ其四割增卽一八二立ヲ以テ時間的最大給水量ト定ム又消火用水量ハ前記一時間ニ對スル最大給水量ノ外ニ内徑二〇〇粍以上ノ配水管ニハ毎秒三〇立ノ流量ヲ内徑一五〇粍管ニハ毎秒一五立ヲ供給シ得ルモノトス

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

(三)　取水量決定

(イ)　水源ノ選定理由竝ニ其狀態

水道ノ生命タル水源ノ選定ハ最モ重大ナルモノニシテ水量ノ豐富ニシテ水質ノ優良ナルハ其最大要素タルベシ本市ハ濃尾平原ノ中央ニ位シ水道ノ原水ヲ求ムルニハ地形上惠マレザルモノナリサレバ水量ノ豐富ニシテ水質ノ優良ナル水源地ヲ得ンニハ勢ヒ木曾川ニ之ヲ求メザルベカラズ

抑モ木曾川ノ流路タルヤ市ノ東北約十六粁ヲ距ル犬山町地内ニテ山間部ヲ離レ平地部ニ出テ之ヨリ西ニ流レ市ノ遙カ北部ヨリ西部ニ迂曲シ漸次南下シ四時滔々トシテ清洌ナル流レヲナシ以テ濃尾平野ヲ潤セリ

而シテ本川ハ犬山町以下市ノ北部ニ至ル間ハ亂流部分ニ屬シ市ノ北部ニ於テ河積著シク擴大セリ此間本川流路ノ地質上流部ニ於テ一部河床ニ岩盤アルヲ認ムルモ殆ンド全部砂礫層ヨリ成リ滲透性ニ富ミ河敷内何レノ部分ヲ掘鑿スルモ伏流水豐富ニシテ能ク清澄シ其質純良ナリ其流量ノ豐富ヲ示ス著例トシテハ本堤ノ内外ニ沿ヒ點在スル村落ノ井戸水位ハ常ニ本川ノ流水面ト共ニ時々上下シツツアル現象ヲ以テモ明カナルモノナリ

然レバ木曾川ニ倚リ水道ノ源水ヲ表面水ニ求メントセバ地形ノ關係上犬山橋ヨリ上流ニ遡ラザルベカラザルモノニシテ本市ノ如キ小都市ノ水道用水ヲ斯クノ如キ遠距離ヨリ引水スルハ送水線路工事ニ莫大ノ經費ヲ要スル缺點アリ依テ當市水源ハ工費ノ膨大ヲ避クルガタメ調査ノ結果比較的本市ニ近キ平地部ヲ流下スル木曾川ノ伏流水ニ求ムルコトトセリ

(ロ)　水量

水源地域ヲ廣範圍ニ亘リ伏流水ノ測定ヲナスコトハ頗ル至難ノモノニ付湧水量試驗井戸一箇所ヲ掘鑿シ湧水ヲ調査シタル外之ガ調査ヲナサザリシモ最大渇水時ニ於ケル附近木曾川ノ表面流水ハ本地點ヨリ約四、九〇〇米下流卽チ國道十二號線木曾川橋上流一〇四米ノ地點ニ於テ昭和四年七月一日内務省名古屋土木出張所ニ於テ測水サレタル流量ハ毎秒七七四・九立方尺（二一・五六三立方米）ニシテ近年ノ最渇水流量トサルルモノナリ、然ルニ本地點上流ニ於テハ名古屋市水道用水一三〇個（毎秒三・六一七立方米）木津用水六〇〇個（毎秒一六・六九七立方米）宮田用水八五〇個（毎秒二三・六五三立方米）羽島用水一五〇個（毎秒四・一七四立方米）等多量ノ水量ヲ引用セルモノニシテ其ノ後ニ於テモ猶斯ノ如キ表面流量アルヲ以テ見ルモ以上記述ノ如ク伏流水モ亦豐富ナルモノト推定スルコトヲ得

内務省名古屋土木出張所ニ於テ水位觀測ヲ行ハレタル結果ヨリ算出スルニ最渇水時ニ於ケル木曾川本流ノ水面勾配ハ本地點ヨリ上流犬山ニ至ル間ハ約五〇〇分ノ一ニシテ下流笠松ニ至ル間ハ約八〇〇分ノ一ナリ

次表ハ以上述ブルトコロノ結果ヲ綜合表記シタルモノニシテ之ヨリ推定スルトキハ上流ノ高キ位置ニ於テ豐富ナル水量ヲ有シ伏流水ヲ多カラシムル源泉ヲナスモノト思考セラル

量水標地名	各量水標間ノ距離（米）	昭和七年最渇水位（標高米）	同上水面勾配	流量（毎秒立方米）	備考
犬山量水標	七、六六三・二	三六・一四〇	約五二三分ノ一	六六・〇八七	標高ハ參謀本部陸地測量部水準標ニ據ルモノトス
松本量水標	三、四八七・三	三一・一八八	約四八五分ノ一	四九・三九〇	
笠田量水標	五、六一三・六	一四・〇〇〇	約八〇〇分ノ一	二一・五六三	本市水源ハ笠田量水標ノ對岸ニ在リ
笠松量水標		六・九九二		二一・五六三	

(ハ)　既設水利事業又ハ灌漑ニ必要ナル分水量

本市水源地以下ニ於テ本市水道取水ニ依リ既設水利事業ニ影響ヲ及ボス如キモノナク唯約九里下流ニ於テ佐屋川用水アルノミニシテ其他分水量ナシ

(ニ)　取水量

水源地ニ於ケル取水量ハ最大給水量決定ノ部分ニ於テ述ブル如ク一人一日當最大給水量一三〇立トシ之ニ洗滌用其他ノ使用水量漏水及井戸相互ノ干渉損失等ヲ見込ミ取水場ニ於テハ二割ヲ增シ人口六萬ノ際一本ノ集水井ニ付五四立ヲ集水セシムル計畫トス之ニ依リ二本ノ井戸ヨリ同人口時一人一日最大給水量一三〇立ノ一割增卽毎秒九九・三一立ヲ取水スルモノトス本地點ニ於テ

ハ伏流水豐富ナルヲ以テ將來人口增加ニ際シテハ其都度集水井ヲ增設スルコトニヨリ取水量ヲ增加シ得ルニ充分ナル餘裕ヲ存スルモノトス

(四)　水源地ノ狀況及地質

本市水道水源地ハ目論見書ニ記ス如ク淺井町ノ西北隅ニ位シ本市ノ眞北ニ當レル木曾川堤外地トス此附近一帶ノ堤塘ニハ櫻ノ老樹無數相竝ビ生茂シ隣村葉栗村大字光明寺ト相連リ古來ヨリ櫻ノ名勝地ニシテ櫻樹ハ近年內務省ヨリ名勝及天然記念物ニ指定セラレ櫻花爛漫ノ季節ノミナラズ四時風光明媚ナリ、附近ハ木曾川ノ遊水地ヲナシ河敷廣濶ニシテ其間數條ノ流路亂流セリ左右本堤ノ間隔實ニ三粁內外ノ長キニ達シ其大部分ハ岐阜縣ノ地籍ニ屬シ川島村ノ村落遠ク相距リ點在ス木曾川上流改修ニ依リ築堤護岸或ハ掘鑿等ノ工事ヲ施シ流路ヲ整理サレ其結果低水流路（本流）ハ左岸ニ偏シ本堤ヲ距ル七二五米餘ノ處ヲ流ルルコトトナル此低水流路ノ兩側ニハ古來ヨリ存在スル各派流アリ左岸ノ派流ハ上流約五粁愛知縣葉栗郡草井村渡船場附近ニテ本流ヨリ分岐シ愛知、岐阜ノ兩縣界ヲ劃シ本流ト竝ビ西ニ流レ約二・五粁ノ下流ニ於テ再ビ本流ト合ス現在ニ於テ此派流々路ハ一萬二千六百八十餘町歩ヲ灌漑スル宮田用水ノ取水路ニ當リ將來宮田用水水路改修ノ後ハ同用水ノ制水門前ニ於ケル餘水ノ放水流路トナス計畫ナリ右岸ノ派流ハ左岸ノ派流ノ分派口ヨリ約三粁下流ニ於テ分ルルモノニシテ改修計畫ニ依リ專ラ洪水流路ニ充テラレ分派口ニ石堤ヲ築造シ其天端高ヲ計畫洪水位面以下一米トサレタリ又本縣側ニハ本堤ト約一六〇米ヲ距テテ一條ノ築流シ堤ヲ存セリ、

水源地集水井ハ築流シ堤ト派川トノ間ニ設クルモノニシテ附近一圓松樹密生ノ林野ヲナシ此間耕地所々ニ散在スルノ狀況ニシテ地面起伏ナク河流ノ勾配ニ從ヒ傾斜ス供水時ニハ河敷內一帶水面トナルコトアルモ水源地ハ比較的地盤高ク古老ノ言ニ依レバ從來此附近全般洪水ノ被害ヲ受ケタルコトナキ安全ノ土地ナリト而シテ又最モ克ク村落ト離レ將來取水上ノ惡影響ヲ來ス虞ナキモノト認ム

水源地附近ノ地質ハ表面厚一尺乃至二尺ノ土砂層ヲ以テ覆ハレ以下ハ全部砂礫ノ層ナリ今回水道布設調査ノ當初猶又工事實施中數ケ所ニ於テ行ヘル地質調査ノ結果ニ徵スルニ表面ノ土砂ハ其ノ乾燥セルモノハ强風ニ飛散スル如キ極メテ微細ナル粒ニシテ又砂礫層中ノ礫ハ徑三〇粍乃至三〇〇粍ノ細粗相混ジ砂ハ其有効大サ平均〇・三乃至〇・四粍程度ナリ而シテ偶ミ此砂礫層ノ空隙內ニ粘土ノ微粒ヲ充サレタル層ヲ交ヘタルコトアリ斯ル部分ニテハ水ノ滲透ヲ妨ゲ層ノ厚薄ニ依リ湧水量ニ多大ノ關係ヲ有シ甚シキニ至リテハ絕對ニ水ノ湧出ヲ斷ツ部分ヲサヘアルコトヲ經驗セリ

(五)　水源ニ於ケル施設

水源ニ於ケル主ナル構造物ハ集水井、導水暗渠、導水管、喞筒井、喞筒室等ニシテ其ノ機構左ノ如シ

(イ)　集水井

集水井ハ內徑五・五米壁厚四五〇粍ノ鐵筋混凝土造ニシテ派流ヨリ一四二米餘ヲ距テテ流路ニ略竝行シ一三四・四米ヲ距テ二個ヲ設ク井ハ計畫洪水位以下ニ沈設スル目的ノ爲全部地表面下ニ設置ス各井ノ地表以下沈設深ハ地層ノ關係上上流ニ位スルモノハ一五・六米（井底標高〇米）下流ニ位スルモノハ一三・六米（井底標高二米）トセリ而シテ其地質ハ玉石ニ礫及砂ヲ混ジタル地層ナルヲ以テ伏流水ノ湧出ニハ極メテ適セリ集水井ノ頂部ハ洪水ノ流入ヲ妨グ爲鐵筋混凝土造ノ蓋ヲ以テ被覆シ蓋ニハ人孔ヲ設ケ井內ノ監視ノ用ニ供シ換氣筒ヲ附シ井內ノ換氣ヲ計リ猶井內水位ノ昇降ヲ喞筒室內ニ於テ觀測シ得ル電動水位計ヲ設置セリ

(ロ)　導水管

集水井ニ湧出シタル伏流水ハ內徑三五〇粍普通壓鑄鐵製導水管ヲ用ヒ「サイホン」ノ理ニ依リ一四五・四五米ヲ距ル喞筒井ニ導水ス而シテ管ハ渴水時地下水面以下ニ敷設シ其接續ハ熔鉛ヲ以テ密ニ「コーキング」ヲ施スコトトセリ又管中ノ空氣排除ハ喞筒室ニ設ケタル眞空喞筒ニ依ルモノニシテ導水管ハ集水井基部ニ於テ中心標高一一・二五米トシ其ヨリ喞筒室ニ向ヒ千分ノ一ノ勾配ヲ以テ上昇シ其頂部ヨリ氣管ニ依リ眞空槽ヲ徑テ眞空喞筒ニ連續ス眞空槽ニハ壓力計竝ニ硝子製水管ヲ附シ管內排氣ノ程度及通水狀態ノ測定ヲナスコトヲ得

導水管ハ維持修繕ノ便ヲ計リ集水井每ニ一條トシ鐵筋混凝土造ノ管渠內ニ布置スルコトトナシタルモ築流シ堤橫斷部分ニ於テハ之ヲ一條ノ管渠ニ集メ將來ノ擴張ヲモ考慮シテ管渠ノ斷面ヲ計畫セリ管渠ニハ人孔竝換氣筒ヲ設置シ管ノ監視竝ニ修繕ヲ便ニ

セリ

(ハ)　喞筒井

喞筒井ハ導水管ニ依リ集水井ヨリ導水シタル水量ヲ一時貯水スルト同時ニ本井ヨリ湧出スル水量ヲモ併セテ集水シ得ル所謂集水ト送水トノ接合點ナリ喞筒井ハ内徑三・五米厚四〇〇粍深一六・九米（井底標高一・八米）ノ鐵筋混凝土造ニシテ井ノ上端ハ木曾川上流改修計畫洪水位上四八〇粍ニアリテ鐵蓋ヲ以テ之ヲ覆フ

(ニ)　喞筒室

喞筒室ノ位置ハ導水管長ヲ短縮スル必要上ト送水管布設ノ爲メ木曾川本堤ニ毫モ危險ヲ及サシメザル工法ヲ撰擇シタル理由トニヨリ河敷内築流シ堤ノ南側ニ設置セリ喞筒井ノ附近ハ洪水時一時湛水地トナルコトアルモ流勢ナク工作物ヲ破壞スル憂ナキモノトス

喞筒室ハ長一一・四米、幅一〇・一五米ノ鐵筋混凝土造ニシテ地下室ト上家トヨリ成ル、喞筒ハ「サクション」水頭ノ關係ヨリ地下室内ニ設ケ竪軸トナシ電動機ハ計畫洪水面上ニ設ケタル床上ニ設置シ竪軸直結トナス

地下室ノ壁ハ洪水時ノ滲透ヲ防グ爲メ特ニ厚ヲ增シ其ノ外面ニハ更ニ防水劑ヲ塗リ且其周圍ニハ盛土築立ヲナシ喞筒室ヘノ出入ノ便ニ供ス

(ホ)　喞筒及電動機

喞筒ハ口徑二五〇粍タービン喞筒ニシテ最大揚程一四・六米最大使用水量毎秒九九・三一立ヲ送水シ得ル能力ヲ有スルモノニシテ電動機ハ三〇馬力三相交流誘導電動機ニシテ右二臺ヲ据付ケ一臺ヲ常時運轉シ一臺ヲ豫備トス、將來人口十萬ノ計畫ニ對シ一臺增設スベク鐵管ノ配置ヨリ構造物ニ至ル迄充分ノ計畫ヲ施セリ

電力ハ會社ヨリ二回線受電ノ設備ヲナス

(ヘ)　豫備發電設備

風水害非常時變等不時ノ停電ニ備フル爲豫備發電設備ヲナス卽チ喞筒運轉用電動機三〇馬力及附屬機械運轉其他電燈ニ供スル爲五〇K・V・Aノ發電機ト之ニ要スル原動力トシテ軸馬力六五ノ重油機關一臺ヲ設置ス

(六)　送水管

送水管路ハ水源喞筒室ト淨水場着水井間トヲ繼グモノニシテ葉栗郡淺井町大字極樂寺、同郡葉栗村大字笹野、大字島村、大字富塚、大字佐千原ヲ經過ス送水管ノ延長ハ三、二八一・五五米ニシテ内徑四五〇粍管ヲ使用シ延長ノ三分ノ二ハ道路堤塘其他ノ占用ニ依リ布設ヲナス、送水管路中ニハ四ヶ所ニ制水弁及排氣弁ヲ設置シ維持管理ニ供ス

(イ)　木曾川本堤横斷

管頂ヲ堤防ノ地表ヨリ深〇・九米標準トシテ埋設横斷スルモノニシテ管ノ周圍ニハ厚三〇〇粍ノ混凝土ヲ設置シ又堤防内三ケ所ニ混凝土止水壁ヲ設置ス

(ロ)　伏越

送水管路中奥村井筋、上ノ島井筋ノ二ヶ所ノ用水ヲ横斷スルヲ以テ之ヲ伏越トシテ管ヲ布設ス

(七)　淨水場

淨水場ハ葉栗郡葉栗村大字佐千原地内坂手神社ニ隣接スル東南ノ地ニ設ク附近一帶畑地ニシテ標高水源喞筒高ト略同高ナリ地質ハ地表以下一米乃至二米ハ能ク締リタル土砂ニシテ之ニ次テ礫ヲ交ヘタル土質トナル其ノ構内ニハ着水井濾過池、量水井竝ニ鹽素滅菌機室、淨水池、喞筒井、喞筒室及淨水場事務室等ヲ設置セリ將來之等構造物擴張ノ余地ヲ併セ約四、五六五坪余ノ地域ヲ有ス

(イ)　着水井

着水井ハ四室ヨリ成ル送水管ニ依リ喞筒壓送サレタル源水ハ着水井第一室ニ噴出ス之ヨリ多孔隔壁ヲ通過シ第二室ニ入リ水面ノ動搖ヲ止メ次テ量水堰ニヨリ水量ヲ測リ第三室ニ入ル茲ニ於テ源水ハ鹽素滅菌ヲ行ヒ淨水池ニ送ル施設ト沈澄池或ハ各濾

過池ニ流水セシムル施設トノ二樣ノ取扱ヲナスコトヲ得而シテ着水井ノ第二室ニハ余水吐ヲ設ケ使用水量ニヨリ着水井水面ヲ定メ同水面以上ノ余水ヲ第四室タル余水井ニ放流セシムベク余水吐ノ堰板ヲ加減スル計畫ナリ其構造長七・八七米幅最廣部ニ於テ四・四米深三・五五米ノ鐵筋混凝土造ニシテ井底ハ標高一〇・〇五米着水面一四・三米笠石天端面ハ一四・八五米ニシテ四周ハ標高一三・六七米迄盛土ヲナシ法面張芝ヲナス而シテ着水井築造箇所ノ地質ハ表被土多ク礫層ニ至ル深相當大ナルヲ以テ地表四五〇粍ヲ掘鑿シ之ヲ能ク搗キ固メ基礎松杭末口一八糎長二・八米ヲ一米間隔ニ打チ礫層ニ入レ之ヲ基礎トシテ築造セリ

(ロ)　濾過池竝ニ沈澄池

濾過池ハ速度六米ノ緩速砂濾過式トス濾過池ハ三池ヲ築造シ常時二池ヲ使用シ一池ハ豫備トスル計畫ナリ然ルニ水源ノ關係上平時ハ原水清淨ニシテ濾過ノ要ナキモノナレドモ年内數回大雨出水ニ際シ集水井ニ湧水スル原水ノ濁リヲ來スコトアリ依テ監督官廳ノ指示ヲ受ケ三池ノ内一池ヲ沈澄用ニ供スル施設トナシ濁度ノ程度ニ應ジ使用スルコトセリ池ノ構造ハ總テ鐵筋混凝土造ニシテ周壁及底面ハ漏水ニ對シ完全ナル防水アスハルト押ヘ混凝土及モルタル上塗等ノ諸工事ヲ施シ且側壁ニハ銅板製伸縮目地二ケ所宛ヲ配置セリ各池ノ大キサハ内法長三五米幅二〇米深サ二・二二米ヲ有ス而シテ其ノ水面ハ標高一三・五米周壁ノ天端高ハ水面上四〇糎ノ余裕ヲ附シ周壁外ハ高一三・五九米迄盛土ヲ施シ法面張芝ヲナス、池底ハ中央ニ一條ノ集水渠ヲ設ケ渠ハ濾過水引出口ニ向ツテ二百分ノ一ノ傾斜ヲ附シ且側壁ヨリ中央ノ集水渠ニ向ツテ五百分ノ一勾配ヲ以テ降ル、源水ハ着水井ヨリ鐵管ニ依リ導水シ池ノ東側ニ噴出セシム而シテ之ガ一定ノ速度ヲ保チ厚九〇糎ノ砂層厚二七糎ノ礫層及細孔ヲ有スル混凝土塊ノ各層ヲ通過スル間ニ濾過膜ノ作用ニ依リ完全ニ濾過清淨サルルモノナリ又池ノ四隅ニハ餘水吐鐵管ヲ附シ池ノ水面ヲ一定ニ保タシメ餘水ヲ放流スルト共ニ塵埃ヲ流下シ水面ヲ清淨ニ保タシム、沈澄池ハ其構造竝ニ大サ濾過池ト其深サヲ異ニスルノミニシテ他ハ同一トス其水面ハ濾過池水面ヨリ二〇糎ヲ高メ周壁ノ天端ハ水面上二五糎ノ余裕ヲ附シ且西側ニ沿ヒ原水溢流開渠ヲ設ク而シテ原水ヲ此開渠ニ噴出セシムルト同時ニ之ニ沈澄劑ヲ噴出セシメ沈澄池ニ溢流入セシメ沈澱ヲ終リタル水ハ東端ニ設置セル二個ノ浮動管ニヨリ引出シ次テ濾過池ニ送ル施設ナリ猶沈澄池ノ四隅ニハ濾過池ノ如ク餘水吐ヲ設ケタリ以上各池築造箇所ノ地表ハ土壌ニシテ砂礫層ノ位置相當深キヲ以テ地表ヲ所定ノ深三〇糎内外鋤取リ之ニ時期ヲ距テ三回毎回十回以上輾壓ヲ行ヒ然ル後基礎混凝土ヲ設置シ濾過池軀體ヲ築造セリ

(ハ)　量水井竝ニ鹽素滅菌機室

量水井ハ濾過速度ヲ調節シ又濾過量ヲ量リ之ニ依リ液化鹽素ヲ注入シ滅菌ヲ行フ目的ヲ以テ濾過池ノ西側ニ設クルモノトス其構造ハ鐵筋混凝土造ニシテ長七・三七米幅五・七九米ニシテ井底ハ標高一〇・一九米水面ハ一三・五米床面ハ一三・七九米トス而シテ量水井ノ工法ハ現地盤ヲ一・六米内外堀鑿シ土壌ヲ充分搗固メノ上末口一八糎長二・七米ノ松杭ヲ間隔六〇糎標準ニ礫層内ニ打込之ヲ基礎トシテ底及軀體鐵筋混凝土ヲ築造ス

濾過清淨サレタル淨水ハ内徑三五〇粍鐵管ニ依リ本量水井ニ導水シ量水井内ニ於テ各池毎ニ設ケタル第一室ニ噴出セシメ多孔隔壁ヲ通過シテ第二室ニ入ラシメ水面ノ動搖ヲ止メ次テ量水堰ニヨリ水量ヲ量リ第三室ニ流下セシムルモノニシテ量水堰ハ濾過池ニ於ケル水面標高一三・一米迄ヲ量水シ得ルヨウ上下ニ移動セシムルコトヲ得ル構造トス而シテ量水堰ノ流下量ハ量水井上ニ設ケタル水頭計ニ依リ之ヲ觀測スルコトヲ得ルモノトス量水井上部ニハ各計器其他ヲ保護スベク鐵筋混凝土造上屋ヲ設ク上屋ハ間口六・六四米奥行七・一七米トス鹽素滅菌機室ハ前記上屋ノ一部ヲ區劃シテ之ニ充テ鹽素滅菌機ヲ裝置シ液化サレタル鹽素ヲ量水井ノ第三室ニ導キ水量ニ依リ加減注入スルモノトス

本市水道原水ハ前述ノ如ク平素ハ清淨ナルヲ以テ濾過ヲ行ハズ着水井ニ於テ液化鹽素ヲ注入スル設備ヲナシ滅菌ヲ施シタル淨水ヲ直ニ淨水池ニ貯水スルコトトシ別ニ鹽素滅菌ノ設備ヲ有ス

(二)　淨水池

濾過ヲ行ヒ更ニ鹽素滅菌ヲ施シタル淨水ヲ貯水スルトコロトス本池ハ人口六萬人ニ對シ一人一日最大使用水量一三〇立ノ八時間分卽チ二、六〇〇立方米ノ水量ヲ貯水スルモノニシテ内法一邊三〇・三六米ノ正方形ニシテ水深三米トス而シテ池ノ底面ハ標

高九・三九米貯水滿水面ハ一二・三九米トス淨水池ハ鐵筋混凝土造トス其工法現地盤ヲ側壁基礎ニ於テハ深二・三三米卽チ標高八・六七五米迄隔壁及支桂基礎ニ於テハ深二・一三米卽チ標高八・八七米迄堀鑿シ礫層ノ地盤ニ達セシメ且一部地盤ノ軟弱ト認メタル箇所ニハ末口一八糎ノ松杭八九本ヲ打込ミ之ヲ補足シ之ニ捨混凝土一〇〇粍乃至一五〇粍ヲ設置シ其上ニ各軀體ヲ設クルモノニシテ周壁ノ內部ハ壁心間隔三・四米ヲ有スル九條ノ導流梁ニ分割シ貯水ノ循環ヲ計ル導流壁ハ厚一七〇粍トシ兩面ヨリ厚一五粍宛モルタル上塗ヲ施シ壁ノ兩端ハ覆蓋床版ノ支柱ニ連結ス支柱ハ三三〇粍角ニシテ其上ニ高四二〇粍幅三三〇粍ノ鐵筋混凝土梁ヲ縱橫ニ架渡シ梁間ハ厚一七〇粍ノ鐵筋混凝土床版ヲ以テ全部ヲ覆フモノトス床版ハ中央ノ嶺ヲ界トシ兩側ニ向テ五十分ノ一ノ勾配ヲ以テ傾斜セシム床版上ニハ防水モルタル工ヲ施シ雨水ノ浸入ヲ防ク同混凝土面上ニハ濕拔砂利厚一〇〇粍ヲ敷竝ベ滲透水ノ疏通ヲ良クシ濕拔溝ニ導キ更ニ之ヲ排水土管ニヨリ放水スル設備トス濕拔砂利上ニハ厚五〇〇粍ノ盛土ヲナシ盛土全面ニ張芝ヲ行ヒ溫度影響ヲ少ナカラシメ且ツ四〇個ノ換氣筒ヲ取付ケ通風ヲ計リ人孔二個ヲ設置シ池ノ監視及修繕時ノ用ニ供セリ導流渠終端ノ一隅ニ水位計ヲ設置シ池內水位ノ昇降ヲ測リ猶之ヲ喞筒室ヘ電動セシムル計畫ナリ

擴張ニ對スル計畫トシテ將來人口十萬人ニ供フベキ淨水池增設用地ハ隣接シテ豫備地ヲ存セリ

(ホ)　喞筒井

喞筒井ハ淨水池ト喞筒室トノ間ニ在リテ喞筒ノ運轉ヲ完全ナラシムルノミナラズ次ノ場合ニ備フル爲メ接合井ノ用ヲモナス

(1)　淨水池修繕及掃除ヲ要スル際制水弁切換ニ依リ量水井ニ於テ滅菌セル淨水ヲ直ニ喞筒井ニ導水シ得ルコト

(2)　非常時變其他多量ノ水ヲ要シ濾過ノ遑ナキトキハ制水弁切換ヲ行ヒ淨水池ノ迂廻ヲ省キ着水井ヨリ直チニ五〇〇粍ノ鐵管ニヨリ量水井ニ導水シ此處ニテ鹽素滅菌ヲ施シ喞筒井ニ直送スルコトヲ得

喞筒井ハ內徑五米深サ七・九一米ノ有蓋圓筒形鐵筋混凝土造井筒ニ厚一・三米ノ底混凝土ヲ施シタルモノニシテ最高水位ハ淨水池ノ水面ト同ジク標高一二・三九米ニシテ底面ハ七・三九米トス井戸側ノ厚サハ地下ニ沒スル部分ハ四五〇粍トシ專ラ漏水ヲ防ギ地表部ハ三〇〇粍トシ更ニ其ノ外部ニ化粧壁ヲ設ク喞筒井項部ニハ人孔ヲ設ケ井內ノ監視其他修繕ニ備ヘ更ニ換氣筒ヲ設置シ井內換氣ヲ計ル

(ヘ)　喞筒室

喞筒室ハ間口一六・五米奧行一〇・一米（最大一三・六米）ノ鐵筋混凝土造ニシテ內部ヲ分チテ喞筒室配電盤室及重油機關ノ原動力ニ依ル豫備發電機室トシ各室ニハ本計畫ノ各機械器具ヲ設置シ將來人口十萬ニ增加シタル場合ノ擴張ニ對シ餘地ヲ存ス喞筒室築造ケ所ノ地質ハ表面土壤ニシテ礫層トノ間相當距離アリ、爲ニ末口二一〇粍長二乃至三米ノ杭三四三本ヲ打込ミ喞筒室竝「デーゼル」機關ノ基礎ヲ鞏固ニシ之ニ基礎混凝土ヲ施セリ

(ト)　喞筒及電動機

喞筒ノ計畫ハ人口六萬人ニ對シ一人一日最大使用水量一三〇立ノ外ニ時間的最大使用量四〇「パーセント」ノ增加ヲ見込ミ平時每秒一二六・四立ヲ送水スルモノニシテ口徑二〇〇粍橫軸タービン喞筒四臺ヲ設置ス若シ大火災時ニ遭遇シタル際ハ豫備喞筒ヲ運轉シ潤澤ナル消火用水量ヲ送水セントス

常時二臺運轉時最大送水量每秒　〇・一二六四立方米

火災時三臺運轉時最大送水量每秒　〇・一七一四立方米

電動機ハ五〇馬力橫軸直結三、〇〇〇「ボルト」三相交流誘導電動機四臺ヲ設置シ電力會社ヨリ二回線受電ノ設置ヲナス

(チ)　豫備發電設備

風水害非常時變等不時ノ停電ニ供フル爲豫備發電設備ヲナス卽チ喞筒運轉用電動機五〇馬力及附屬機械運轉其他電燈ニ供スル爲七八・K・V・Aノ發電機ト之ニ要スル原動力トシテ軸馬力一〇〇ノ重油機關一臺ヲ設置ス

(リ)　淨水場事務所水質試驗室

淨水場管理事務執行ノ爲淨水場事務所ヲ設ケ其ノ一部分ニ水質試驗室ヲ設置ス本建物ハ間口一一米奧行最大七米最小五米建坪七七・四二平方米一階建鐵筋混凝土造ニシテ周圍及主要壁ニ當ル基礎ニハ生松末口一五糎長三米ノ基礎杭ヲ使用セリ

(八)　配　水　方　法

本市ハ四圍ノ土地平坦ナルガ爲ニ配水上天惠ノ地利ヲ得ズ總テ高所ニ配水池ヲ設ケ多量ノ水ヲ貯溜シ配水管ニ一定ノ水壓ヲ維持セシムルコトハ頗ル至難ノ業ナリサレバ勢ヒ喞筒ニ依リ絶エズ配水ヲ壓送セザルベカラザル不利アルノミナラズ喞筒運轉ノ原動力ヲ會社ノ供給電力ニ依ラントセバ市内及市ノ近郊ニハ工場多數ナルが故ニ送電ノ故障多ク給水上頗ル不安ノ感ナキニアラズ

故ニ本市水道配水方法ニハ特ニ最善ノ方法ヲ講シ萬遺漏ナカラシメントスルモノニシテ先ヅ市ノ中央部ニ人口六萬人ニ對シ最大使用水量二時間分ヲ貯水シ得ル配水塔ヲ築造シ之ニ淨水場構内喞筒室ヨリ淨水ヲ壓送シ配水塔ヨリ更ニ市内ニ配水ヲナサントスル計畫ニシテ之ニヨリ短時間ノ停電ニ供フルト共ニ火災時ノ水壓ト水量トニ不足ナカラシメントス

(イ)　配　水　塔

配水塔ハ市内松降通六丁目志久自宮ノ北ニ隣接シ設置ス地質表面一米ハ土壤以下一米ハ堅ク締リタル砂層ニシテ以下ハ堅キ砂礫ノ層ナリ塔ノ基礎ハ此砂礫ノ層ニ設クルモノニシテ當市ノ地質トシテハ蓋シ最良ノ地層ト認メラル塔ノ構造ハ鐵筋混凝土造ノ圓筒形ニシテ内部階上ニ鋼板製水槽ヲ設置ス卽チ水槽ノ外部ハ鐵筋混凝土造リノ上屋ヲ以テ之ヲ被覆サレ寒暑ノ温度影響及大氣ノ塵埃ヲ完全ニ防禦ス、塔ハ基礎底面ニ於テ直徑二二・四米圓筒部ニ於テ外壁直徑一三米地盤ヨリ塔頂迄ノ高サ三四・三米又水槽底面迄一八米ヲ有シ此ノ間ヲ三階ニ區劃シ各階ニハ鐵筋混凝土造ノ桁及床版ヲ以テ圓筒部ヲ補强ス水槽ノ大サ内徑八米水深一三米ニシテ貯水容量六五三・四五立方米餘ヲ有ス故ニ人口六萬ニ對シ一人一日最大使用量一三〇立ノ二時間餘ヲ貯水シ得ルモノナリ

水槽ノ水面ハ地盤上三一米標高四〇・二七米ノ高サニ在リテ淨水場喞筒ニヨリ壓送サレタル水量ハ配水塔水槽ニ噴出シ市内配水壓ヲ調節シ更ニ市内ニ配水サルルモノニシテ水槽水面ハ常ニ一定ノ水位ヲ保タシムベク喞筒運轉用電動機トノ間ニ電氣的連絡設備ヲナシ喞筒ヲ自動的ニ運轉或ハ停止セシム

(九)　配　水　鐵　管

(イ)　人口ノ分布狀況

昭和七年ノ人口分布狀況ヲ圖上調査ノ結果一小區域ニ於テ毎「ヘクター」二五四人餘ノ多數密集部分アリ之レ蓋シ省線ノ驛ニ接近シ昔時ヨリ特ニ人口ノ密集居住ヲナシ街衢ト共ニ舊態ノ儘ヲ存スルニ因ルモノナレドモ將來道路改修其他ニ依リ逐次家屋ノ改築サルルニ伴ヒ此密度ハ漸次減少スルモノト想像サルモノニシテ當市現狀ノ趨勢ハ圖面ノ示ストコロニ依レバ毎「ヘクター」二〇〇人餘ノ密度ヲ以テ最高トナスモノノ如ク既ニ此ノ密度ノ地方ニ於テハ已上人口著シキ增加ヲ認メズ逐年市ノ增加人口ハ殆ンド四周ニ膨脹ヲナシツヽアル狀勢ニアリ

(ロ)　飽和人口ノ決定

叙上人口密度分布狀況ヲ調査スルニ本市ニ於ケル飽和人口ハ毎「ヘクター」二〇〇人トスルヲ妥當ナリト認メラル蓋シ文化ノ發達ニ伴ヒ新開地ニ於ケル居住ニハ舊套ヲ脫シ建築ト敷地トノ比率ニ重キヲ置キツツアル狀況ナルヲ以テ本市ニ於ケル人口密度ハ此飽和狀態ヲ超過セザルモノト信ズ

(ハ)　配水幹線ノ決定

當市人口增加ノ狀勢ヲ考慮シ第一期基本計畫人口ハ六萬人トナシタリシモ人口增加ノ項ニ記ス如ク竣功後永年ナラズシテ計畫人口ヲ突破スルモノナレバ配水本管竝ニ準幹線ノ如キ增設ニ多大ノ工費ヲ要スルモノハ結局人口十萬人ニ給水シ得ル方針ヲ以テ別紙參考書ニ添付スル人口十萬人ニ對スル分布圖（添付省略）ヲ作製シ之ヲ基トシ配水幹線及同準幹線ノ管徑ヲ算定セリ

配水管ノ大キサハ別紙圖面ニ示ス如ク各幹線及準幹線ニ對スル給水受持區域ヲ定メ當市人口十萬人時ニ於ケル各受持區域内ノ人口密度ニ依リ給水人口ヲ算出シ之ニ前記時間的最大給水量一八二立ヲ乘シ更ニ管徑ニヨリ三〇立乃至一五立ノ消火用水量ヲ加ヘタル水量ヲ一定ノ水壓ヲ持シテ送水シ得ルヨウ管徑ヲ定メタリ、而シテ之ガ計算ニ用ヒタル算式ハ次ノ「ヘーゼン及ウイリアムス」氏ノ公式ヲ用ヒ係數Cハ一〇〇ヲ採用セリ

$$V=0.84935\cdot C\cdot r^{0.63}\cdot S^{0.54}$$

(ニ)　市内ノ地質

市内ノ地形ハ平坦ニシテ起伏ナク市ノ南端地域ニ於ケル僅少區域ノ低地ヲ除ケバ最高最低ノ地盤高ノ差概ネ一米内外ニアリ地質ハ一小部分ニ粘土質ノ土地ヲ存スルモ概ネ砂質ノ土壌ヲ以テ形成サレ地方ニ依リ此層ニ厚薄アリテ其下層ハ殆ンド砂層ニシテ配水管ノ布設サルル大部分ノ地質ハ前記砂質ノ土壌ナリ市内全般概シテ地下水位面高ク殊ニ水田其他用水路ニ近キ地方ニ在リテハ夏季灌漑時期ニハ更ニ地下水位面昇リ埋管相當困難ナリ

(ホ)　配　管

配水主幹線ハ内徑四五〇粍ニシテ淨水場喞筒室ヨリ出デ配水塔ニ連リ更ニ市ノ中央部ヲ南北ニ貫通ス之ヨリ四〇〇粍三〇〇粍二五〇粍二〇〇粍等ノ準幹線ヲ分岐シ環狀道路幹線ニ倣ヒ布設ヲナシ此等ノ準幹線ヨリ更ニ一五〇粍一〇〇粍七五粍等漸次分岐シ市内ニ洽ク給水ヲ計ル

市内本支管ノ延長ハ各々次表ノ通リニシテ合計一〇五、九九六米余（二十七里弱）ニ達ス

公稱内徑	延長	公稱内徑	延長
四五〇粍	二、八九八・三八米	二〇〇粍	九、八五〇・一八米
四〇〇粍	一、七五三・一三米	一五〇粍	一一、一九四・三四米
三〇〇粍	二、三六七・六四米	一〇〇粍	四三、三〇四・七四米
二五〇粍	六、四七八・四〇米	七五粍	二八、一五〇・一七米
合計	一〇五、九九六・九八米		

(ヘ)　水　壓

市内配水幹線ノ動水壓ハ喞筒壓送時喞筒室ヨリ配水塔ニ至ル間及之ガ直接影響ヲ受クル區間大ナリト雖モ其ノ他ノ大部分ノ場所ニ於ケル動水壓ハ皆配水塔ノ影響ヲ受ケ同水槽水面ヲ基トシテ定マルモノナルヲ以テ以下記ストコロノ水壓ハ安全ノ爲配水塔滿水面ヲ基準トシテ算出シタルモノトス其最大動水壓ハ三二、一七八米（管ノ中心ニ於テ）ニシテ市界ニ近キ管末ニ於テハ實用上及經濟上ノ見地ヨリ動水壓一六米ヲ標準トシテ管徑ヲ定メタリ之ニヨリ市内配水幹線竝ニ準幹線ニ沿ヘル市内主要地點ノ有効水頭ヲ算出シタルモノハ次表ノ如シ

市内主要地點ニ於ケル有効水頭竝ニ靜水壓表

圖面對照符號	動水位高	地盤高	有効水頭	鐵管中心ニ於ケル靜水壓	位置
	米	米	米	米	
C	四〇・一〇〇	九・一〇〇	三一・〇〇〇	三二・二〇〇	松降通リ五丁目地内
I	三八・二九八	八・五七八	二九・七二〇	三二・七四七	松降通リ大正通リ角
K	三七・二九一	八・二七一	二九・〇二〇	三三・〇二九	松降通リ城崎通リ角
B	三六・四九九	八・一七一	二八・三二八	三三・一二九	公園通リ北園通リ角
X	三七・五一〇	九・三九〇	二八・一二〇	三一・八三五	本町通上本町通角
J	三二・六〇四	九・一六一	二三・四四三	三二・〇三九	本町通傳馬通角
G 1	三七・五八三	九・〇九一	二八・四九二	三二・一三四	貴船町第二小學校附近
C 2	三八・九九四	八・七五一	三〇・二四三	三二・五四九	宮西通六丁目高等女學校横
C 3	三八・四八五	八・四三一	三〇・〇五四	三二・八六九	宮西通大正通角
G 4	三三・九五一	九・〇九一	二四・八六〇	三二・一三四	石野町三丁目地内
T	三三・二七六	八・六七一	二四・六〇五	三二・五七九	上本町通三丁目一宮井筋附近
D	三三・〇七五	九・〇九一	二三・九八四	三二・一三四	傳馬通一丁目地内
E 1	三二・〇三三	七・九九一	二四・〇四二	三三・二五九	稻荷町一丁目地内
E 2	二九・三三二	八・五九一	二〇・七四一	三二・六三四	八幡通三丁目地内

(十)　消　火　栓

消火栓ハ主トシテ單口地下式消火栓ヲ使用スルコトトシ布設當時歩車道ノ區別ノ設ケアリシ數條ノ道路ニ限リ地上式消火栓ヲ歩道内車道寄ニ之ヲ設置スルコトトセリ其位置ハ普通道路ノ交叉點附近ニ置クヲ原則トシ市内人口稠密ノ程度主要構造物其他出

火シ易キ場所等ヲ攻究斟酌シ地下式三六四箇、地上式三四箇所ヲ撰定設置スヽガタメ消火栓相互ノ最短距離五〇米内外ノモノ數箇所ヲ有スルコトトナリタリシモ概ネ八〇米内外ニシテ人家ノ閑散ナル地方ニ在リテハ一五〇米内外ノモノヲ存セリ而シテ消火栓ハ何レモ内徑一〇〇粍以上ノ配水管ヨリ消火丁字管ヲ分岐設置ヲナセリ

本市消火栓設置箇所ノ調査ニ當リテハ多年消防事務ニ從事サレ其施設ニ關シ造詣深キ當市消防組頭淺井藤三郎氏ヲ始メ消防小頭竝ニ常備員諸氏ノ多大ナル援助ヲ受ケタリ

(十一)　斷水區域

各幹線ニ依リ區劃サレタル市内ヲ人口稠密ノ程度其ノ他道路用水等ノ地形ヲ考慮シ二十三區ノ斷水區域ニ分割シ制水弁ヲ取付ケ大火災時制水弁ノ遮斷ニ依リ配水ノ統制ヲ計ルコトヲ得セシメ其他修繕擴張ノ便ニ供ス

(十二)　河川横斷

四五〇粍配水管ノ内市界ニ在ル水路古川ハ之ヲ伏越トス其他市内ニ於ケル大江川ハ灌漑時期ニ於テ用水滿水シ伏越工事不可能ニシテ其他ノ時期ト雖モ用水路ハ到ル處ニ於テ染色業者ニ水面ノ占用ヲ許可シ染絲ノ水洗場トナリ一日タリトモ流水ヲ阻止或ハ濁水トナスヲ許サザル狀態ノ爲之亦伏越工事ノ困難トスルヲ以テ市内ヲ貫流スル部分ハ全部I形鐵桁ノ水管橋ヲ架設シ最近架替ヲ行ヘル堅牢ナル橋梁ニハ之ニ配水管ヲ添架スルコトトセリ卽チ大江川ニ於テ四橋架設一橋添架トセリ一宮井筋ニ於テモ用水狀態大江川ト同樣ナレドモ下水管伏越工事ト併行シ伏越トナシタルモノ二ケ所ヲ設ケ他ハ水管橋トセリ

(十三)　鐵道及電車線路横斷

省線鐵道横斷ノ爲名古屋鐵道局ニ委托シ鐵道線路用地内ニ二〇〇粍鐵管横斷用鐵管渠ヲ築造セリ管渠ハ内法方一米長一七米ノ鐵筋混凝土造リニシテ兩端ハ床版ノ代リニ鐵筋混凝土ブロックヲ用ヒ管修繕ノ便ニ供シタリ又名古屋鐵道株式會社線ノ内尾西線路横斷箇所ハ其單線ナルヲ以テ内徑六〇〇粍鐵筋混凝土管ヲ布設シ之ニ鋼鐵管ヲ納ムルコトトシ接合ヲ線路外ニ置キ名岐線ノ復線箇所ニ於テハ各線路下ヲ前記鐵筋混凝土管ヲ布設シ線路ノ兩側ニ方一米深一・四米ノ鐵筋混凝土桝ヲ設ケ鐵管接合箇所トセリ而シテ之等横斷箇所ニ於ケル振動ヨリ來ル漏水防止ノ目的ヲ以テ管ノ接續ニハ上記各線ノ内尾西線ヲ除ク他ハ「ビクトリックジヨイント」ヲ使用セリ、市内道路上ニ布設サレタル電車線路其他之ニ準スル電車線路ノ横斷箇所ニ於テハ鐵管ノ徑ニ應ジ適當ナル管徑ノ「ヒユーム」管ヲ布設シ之ニ鐵管ヲ納ムルコトトシ且鐵管ニ對シテハ「アスハルト」及麻布ヲ以テ之ヲ被覆シ充分漏電防禦工事ヲ施シタリ

(十四)　公舍及倉庫

水源竝ニ淨水場ニ於ケル喞筒デーゼル機關電氣設備ノ運轉操作及各機能運用上ノ迅速ト完璧ヲ期スル目的ニ依リ之ニ從事スル吏員傭人ヲ居住セシムル公舍ヲ建設ス公舍ハ木造瓦葺平家建トセリ猶各所ニ於ケル器具機械豫備材料油類等ノ貯藏ノ爲木造或ハ鐵骨鐵網モルタル塗平家建ノ倉庫ヲ建築セリ水源ニ於テハ河敷地内ニ喞筒室ヲ設ケタレドモ河川法ノ關係上隣接シテ公舍倉庫等ノ建築ヲ許サレズ附近堤内地ニ傭人公舍一棟二戸倉庫二棟ヲ建設シ淨水場ニ於テハ構内ノ一隅ニ公舍三棟四戸倉庫二棟納屋一棟ヲ建築セリ而シテ配水塔構内ニハ材料檢査所ヲ併設シタル結果此處ニ公舍二戸（内一戸ハ新築一戸ハ前檢査所警備用公舍移轉改造）材料倉庫水壓試驗所事務所等ヲ新築或ハ移築ヲ行ヒタリ此等ヲ總括スレバ左表ノ通リトス

公舍及倉庫一覽表

位置	名稱	建築種別	棟數	建坪	摘要
水源	水源傭人公舍	木造瓦葺平家建	一	三五・四六四	一棟二戸建
同　水源	倉庫	同　鐵骨鐵網モルタル塗	一	一三・五〇〇	
同　水源重油倉庫			一	二・七二二	
淨水場	淨水場吏員公舍	木造瓦葺平家建	二	四一・一八二	
同　淨水場傭人公舍		同	一	三四・四六四	一棟二戸建
同　淨水場公舍用納屋		同	一	七・〇〇〇	
同　淨水場倉庫		木造瓦葺平家建	一	二七・〇〇〇	

淨水場	淨水場重油倉庫	鐵骨鐵網モルタル塗	一
材料檢査所	材料檢査所公舍	木造瓦葺平家建	二
同	材料檢査所倉庫	同	一
同	水壓試驗機上屋	同	一

二　水道布設工事費豫算

一金百五拾萬圓也

內

金七萬四千九百圓	水源工事費	二・七二二
金七萬五千五拾圓	送水工事費	三二・六二〇
金拾八萬八百圓	淨水場工事費	五四・七五二
金八萬六千圓	配水塔工事費	六〇・〇〇〇
金六拾八萬貳千圓	配水工事費	
金六萬參千八百圓	機械器具費	
金四萬九千參百圓	用地買收賠償費	
金九千圓	運搬費	
金四萬四千六百參拾圓	建築費	
金壹萬九拾圓	檢査費	
金貳萬參千圓	電氣設備費	
金五千圓	測量及製圖費	

金四千圓
金五萬五千四百參拾圓
金拾參萬七千圓

水源工事費

一金七萬四千九百圓也

內

金壹萬五千八百四拾圓	集水井築造工事費	二ヶ所分
金參萬貳千參百圓	導水管渠築造工事費	
金參千七百貳拾圓	喞筒井築造工事費	
金八千參百圓	喞筒室下部築造工事費	
金七千圓	鐵管弁類其他附屬品費	
金八百五拾圓	鐵管布設及弁類其他附屬品設置費	
金參千百參拾圓	土工費	
金參千七百六拾圓	附帶工事費	
	雜工事費	
	雜費	
	事務費	

集水井築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲コンクリート工	立米	三二一・九〇	一九・七〇〇圓	六、三四一・四三〇圓	

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
鐵筋工	瓲	一四・四八四	一七五・五〇〇	二、五四一・九四二	
沈井工	立米	九五九・〇〇〇	六・〇〇〇	五、七五四・〇〇〇	一立方米ニ付三五瓲遣ヒ深一三・六米分
防水モルタル上塗工	平米	一一八・八四	・六七〇	七九・六二二	上部表面
諸金物	瓲	三、〇〇二・五四	・二三〇	六九〇・五八四	昇降金物、鐵蓋、フレ止、鐵沓等一切
換氣筒	ヶ所	四・〇	三〇・〇〇〇	一二〇・〇〇〇	
砂利塡充工	立米	七一・二四	三・三〇〇	二三五・〇九二	
雜費				七七・三三〇	
計				一五、八四〇・〇〇〇	

道水管渠築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
乙掘鑿工	立米	五、八七九・八〇	四六〇	二、七〇四・七〇八	
甲掘鑿工	〃	三、〇〇六・六八	・七二〇	二、一六四・八〇九	
乙埋戻工	〃	七、三二八・九三	・二五〇	一、八三二・二三二	
殘土處理工	〃	六四九・六六	・七〇〇	四五四・七六二	土工盛土ニ流用
甲コンクリート工	〃	六三九・八五	一九・七〇〇	一二、六〇五・〇四五	
鐵筋工	瓲	四四・七九〇	一七五・五〇〇	七、八六〇・六四五	
乙コンクリート工	立米	一九四・八〇	一五・三〇〇	二、九八〇・四四〇	
諸金物	瓲	六〇一・〇〇	・二三〇	一三八・二三〇	鐵管受臺及人孔管渠基礎等
換氣筒	ヶ所	三・〇	三〇・〇〇〇	九〇・〇〇〇	人孔蓋、昇降金物、人孔二ヶ所ハ特種鐵蓋トス
山園工	米	二三・一〇	八・八三六	二〇四・一一一	複堤掘鑿個所及集水井附近掘鑿終點ニ使用

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲排水工	月	三・〇〇	三七〇・〇〇〇	一、一一〇・〇〇〇	
雜費				一五五・〇一八	
計				三二、三〇〇・〇〇〇	

喞筒井築造工事費

一ヶ所分

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲コンクリート工	立米	八三・八五〇	一九・七〇〇	一、六五一・八四五	井周圍及蓋用
鐵筋工	瓲	二・五八〇	一七五・五〇〇	四五二・七九〇	
乙コンクリート工	立米	四・八一〇	一五・三〇〇	七三・五九三	井底塡充用
沈井工	〃	一八七・三三〇	六・〇〇〇	一、一二三・九八〇	鐵蓋、昇降金物、フレ止、鐵沓一切
諸金物	瓲	一、四八〇・〇〇〇	・二三〇	三四〇・四〇〇	井底、甲コンクリート施行後水替乙コンクリート施工其他雜費一式
雜費				七七・三九二	
計				三、七二〇・〇〇〇	

喞筒室下部築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲コンクリート工	立米	二四四・二四	一九・七〇〇	四、八一一・五二八	喞筒室周圍、基礎、床版桁、喞筒臺階段持出シ等
鐵筋工	瓲	一三・四三三	一七五・五〇〇	二、三五七・四九一	
乙コンクリート工	立米	七・八五	一五・三〇〇	一二〇・一〇五	鐵管受臺其他
防水モルタル上塗工	平米	二四二・七五	・六七〇	一六二・六四二	喞筒室外廻リ部

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

甲モルタル上塗工	平米	二八八・二〇	・五七〇	一六四・二七四	地下室内面全部
乙モルタル上塗工	〃	一四三・四四	・四七〇	六七・四一六	喞筒室床、地下室共
雜金物	瓩	一、三三五・一九〇	・二三〇	三〇七・〇九三	階段、鐵蓋、手摺等全部
乙排水工				二七〇・〇〇〇	
雜費				三九・四五一	
計				八、三〇〇・〇〇〇	

鐵管弁類其他附屬品費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
低壓三五〇粍直管	瓩	三二・二五六	八〇・〇〇〇圓	二、五八〇・四八〇圓	導水管用
異形管	〃	一〇・二五八	一四〇・〇〇〇	一、四三六・一二〇	
三五〇粍制水弁	個	二・〇〇	一八〇・〇〇〇	三六〇・〇〇〇	導水管
二五〇粍制水弁	〃	五・〇〇	九〇・〇〇〇	四五〇・〇〇〇	喞筒室
二五〇粍フート弁	〃	二・〇〇	一〇〇・〇〇〇	二〇〇・〇〇〇	喞筒井
壓力記錄計	〃	一・〇〇		一五〇・〇〇〇	
壓力警報器	〃	一・〇〇		三〇〇・〇〇〇	
電氣的水位指示計	〃	二・〇〇	五五〇・〇〇〇	一、一〇〇・〇〇〇	集水井二ヶ所分
水位計	〃			一八〇・〇〇〇	喞筒井
雜具	〃	一・〇〇		二四三・四〇〇	制水弁スピンドル四本分其他雜具一式
計				七、〇〇〇・〇〇〇	

鐵管布設及弁類其他附屬品設置費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
三五〇粍直管布設工	本	六三・〇	五・八〇〇圓	三六五・四〇〇圓	
五〇〇粍異形管布設工	〃	六・〇	九・四〇〇	五六・四〇〇	
三五〇粍異形管布設工	〃	二三・〇	五・八〇〇	一三三・四〇〇	
二五〇粍異形管布設工	〃	二七・〇	三・五〇〇	九四・五〇〇	
三五〇粍制水弁据付工	〃	二・〇	一一・八〇〇	二三・六〇〇	
二五〇粍制水弁据付工	〃	五・〇	七・一〇〇	三五・五〇〇	
雜具取付工				一四一・二〇〇	
計				八五〇・〇〇〇	

土工費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
乙掘鑿工	立米	八八二・四三	・四六〇圓	四〇五・九一七圓	喞筒室下部八〇五・二一立米
乙埋戻工	〃	五四四・五五	・二五〇	一三六・一三七	石垣根掘七七・二二立米
乙盛土工	〃	二、三九二・一〇	・四五〇	一、〇七六・四四五	〃
土羽工	平米	六五五・〇〇	・二五〇	一六三・七五〇	喞筒室下部集水井二ヶ所喞筒井及管渠殘土轉用
砂利敷工	立米	三三九・五七	三・五〇〇	一、一八八・四九五	喞筒室附近盛土ヶ所、道路其他水源用地内
雜工事費				一五九・二五六	敷地々均シ其他

計　三、一三〇・〇〇〇

附帶工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
照明燈	個	四・〇	四〇・〇〇〇圓	一六〇・〇〇〇圓	
柵工	米	七五・〇	二・四〇〇	一八〇・〇〇〇	喞筒室周圍
乙コンクリート工	立米	七・五〇	一五・三〇〇	一一四・七五〇	
野面石垣工	平米	三三三・二六	八・七〇〇	二、八九九・三六一	階段一ヶ所
植樹費				一〇〇・〇〇〇	
雜工事費				三〇五・八八九	
計				三、七六〇・〇〇〇	

送水工事費

一金七萬五千五拾圓也

內

金五萬貳千五百貳拾圓　鐵管弁類其他附屬品費

金壹萬六千九百四拾圓　鐵管布設及弁類其他附屬品設置費

金壹千七百六拾圓　木曾川本堤橫斷工事費

金壹千參百五拾圓　水路伏越工事費

金貳千四百八拾圓　鐵管布設跡路面復舊費

鐵管弁類其他附屬品費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
直管	疋	六一〇・九五〇	八〇・〇〇〇圓	四八、八七六・〇〇〇圓	
異形管	〃	一二・二二〇	一四〇・〇〇〇	一、七一〇・八〇〇	
四五〇粍制水弁	個	三・〇	三〇〇・〇〇〇	九〇〇・〇〇〇	
〃	〃	一・〇	四五〇・〇〇〇	四五〇・〇〇〇	內徑四五〇粍低壓管及附屬管
一〇〇粍〃	〃	三・〇	二五・〇〇〇	七五・〇〇〇	
排氣弁	〃	三・〇	二五・〇〇〇	七五・〇〇〇	バイパス付
制水弁鐵蓋	〃	八・〇	九・二〇〇	七三・六〇〇	
排氣弁鐵蓋	〃	三・〇	二〇・〇〇〇	六〇・〇〇〇	
雜品				二九九・六〇〇	
計				五二、五二〇・〇〇〇	

鐵管布設及弁類其他附屬品設置費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
四五〇粍鐵管布設工	本	八〇三・〇	一七・八五〇圓	一四、三三三・五五〇圓	
四五〇粍曲管布設工	ヶ所	二九・〇	五八・二〇〇	一、六八七・八〇〇	
四五〇粍分岐管布設工	〃	六・〇	一九・八〇〇	一一八・八〇〇	
四五〇粍承口接合	〃	一九・〇	七・三〇〇	一三八・七〇〇	
四五〇粍突緣接合	〃	二・〇	八・五〇〇	一七・〇〇〇	

四五〇粍接輪接合	ヶ所	一〇・〇	一四・六〇〇	一四六・〇〇〇
四五〇粍制水弁据付工	〃	三・〇	六一・七五〇	一八五・二五〇
四五〇粍バイパス付制水弁据付工	〃	一・〇	九一・〇〇〇	九一・〇〇〇
七五粍排氣弁据付工	〃	三・〇	一〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇
一〇〇粍曲管布設工	〃	九・〇	三・八〇〇	三四・二〇〇
一〇〇粍承口接合	ヶ所	三・〇	一・三〇〇	三・九〇〇
一〇〇粍制水弁据付工	〃	三・〇	一五・一〇〇	四五・三〇〇
七五粍突縁接合	〃	四・〇	・九〇〇	三・六〇〇
七五粍鐵管布設工	〃	二・〇	四・九五〇	九・九〇〇
七五粍曲管布設工	〃	四・〇	三・五〇〇	一四・〇〇〇
雜費				八一・〇〇〇
計				一六、九四〇・〇〇〇

木曾川本堤横斷工事費

管徑四五〇粍　長四一、一五米

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
乙掘鑿工	立米	二五一・七〇	圓 ・四六〇	一一五・七八二	
甲埋戻工	〃	一七六・九〇	・六五〇	一一四・九八五	
殘土處理工	〃	七四・八〇	・七〇〇	五二・三六〇	
乙混凝土工	〃	六一・〇〇	一五・三〇〇	九三三・三〇〇	
土羽工	平米	一九〇・八〇	・二五〇	四七・七〇〇	
石垣復舊工	〃	一五・四〇	六・七〇〇	一〇三・一八〇	
鐵管埋設跡路面復舊	平米	四・〇〇	三・五〇〇	一四・〇〇〇	
山園工	米	四一・二〇	六・八五六	二八二・四六七	
雜工事費				八三・〇〇〇	假道其他附帶雜工事
計				一、七六〇・〇〇〇	

水路伏越工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
奥村井筋伏越工事費	ヶ所	一・〇	圓 七二〇・〇〇〇	七二〇・〇〇〇	
上之島井筋伏越工事費	〃	一・〇	六三〇・〇〇〇	六三〇・〇〇〇	
計				一、三五〇・〇〇〇	

內譯

奥村井筋伏越工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲掘鑿工	立米	六五・五〇	圓 ・七二〇	四七・一六〇	

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

乙埋戻工	立米	四三・九〇	・二五〇	一〇・九七五	
殘土處理工	〃	二一・六〇	・七〇〇	一五・一二〇	
乙混凝土工	〃	一四・四〇	一五・三〇〇	二二〇・三二〇	
生松枕木	〃	・三〇	五五・〇〇〇	一六・五〇〇	
〃胴木	〃	・〇六	二五・〇〇〇	一・五〇〇	
石垣復舊工	平米	七・二〇	六・七〇〇	四八・二四〇	
山圍費	米	一八・八〇		一一八・二六二	
混凝土ブロック工	立米	一・二〇	二一・〇〇〇	二五・二〇〇	
同敷並工	〃	一・二〇	一・七〇〇	二・〇四〇	
丙排水工	月	・五〇	二一五・〇〇〇	一〇七・五〇〇	
雜工事費				一〇五・〇〇〇	二〇〇粍×一五〇粍×五〇〇粍角 末口一五〇粍
計				二・一八三	
				七二〇・〇〇〇	

上之島井筋伏越工事

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲掘鑿工	立米	五〇・六〇	・七二〇	三六・四三二	
乙埋戻工	〃	三二・三〇	・二五〇	八・〇七五	
殘土處理工	〃	一八・三〇	・七〇〇	一二・八一〇	
乙混凝土工	〃	一二・一〇	一五・三〇〇	一八五・一三〇	
生松枕木	〃	・三〇	五五・〇〇〇	一六・五〇〇	
生松胴木	〃	・〇六	二五・〇〇〇	一・五〇〇	
石垣復舊工	平米	六・〇〇	六・七〇〇	四〇・二〇〇	二〇〇粍×一五〇粍×五〇〇粍角 末口一五〇粍
混凝土ブロック工	立米	一・二〇	二一・〇〇〇	二五・二〇〇	
同敷並工	〃	一・二〇	一・七〇〇	二・〇四〇	
山圍費	米	一五・五〇	一五・三〇〇	九四・〇〇〇	工事中通水工事其他雜工事一切
丙排水工	月	・五〇	二一五・〇〇〇	二・五一七	
雜工事費				六三〇・〇〇〇	
計					

鐵管埋設跡路面復舊費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
縣道	立米	三八九・一四	三・五〇〇	一、三六一・九九〇	延長一、七九四米巾二・四一米厚九〇粍
町村道及專用鐵管路內	〃	三七二・九〇	三・五〇〇	九五五・一五〇	
雜工事費				一六二・八六〇	送水線路內町村道橫斷排水土管繼足シ內徑四五〇粍管長一八米內徑三〇〇粍管長九米、〃二三〇粍〃三〃一五〇〃一五〃其他雜工事一切
計				二、四八〇・〇〇〇	

淨水場工事費

一金拾八萬五千六百八拾圓也

內

金貳千九百拾圓　着水井築造工事費

金六萬七千參拾圓　濾過池築造工事費

金參千五百四拾四圓　量水井並ニ鹽素滅菌機室下部築造工事費

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

金四萬五千八百圓
金五千八百四拾貳圓
金四千五百貳拾圓
金貳萬七千六百圓
金貳千五百五拾圓
金壹萬貳千百參拾五圓
金壹萬參千七百四拾九圓

着水井築造工事費

種別	單位	數量	單價（圓）	金額（圓）	摘要
栗石工	立米	九・一二	三・五〇〇	三一・九二〇	
乙混凝土工	〃	二・六八	一五・三〇〇	四一・〇〇四	
甲混凝土工	〃	六一・六四	一九・七〇〇	一、二一四・三〇八	
鐵筋工	瓲	四・八〇	一七五・五〇〇	八四二・四〇〇	
平塗防水用アスファルト工	平米	一〇・八七	二・〇〇〇	二一・七四〇	
立塗防水用アスファルト工	〃	七六・三二	三・一〇〇	二三六・五九二	
乙モルタル上塗工	〃	一〇・八七	・四七〇	五・一〇八	
甲モルタル上塗工	〃	七六・三二	・五七〇	四三・五〇二	
混凝土ブロック工	立米	二・二七	二一・〇〇〇	四七・六七〇	制水弁二ケ所設置ニ要スル分
掘付工	〃	二・二七	四・五〇〇	一〇・二一五	
波除壁煉瓦積工	丁	三二一・〇〇	百丁ニツキ六・六〇〇	二一・一八六	
鋼材工	瓲	一・六四八	二三〇・〇〇〇	三七九・〇四〇	
雜費				一五・三一五	
計				二、九一〇・〇〇〇	

濾過池築造工事費（三池分）

種別	單位	數量	單價（圓）	金額（圓）	摘要
栗石工	立米	二四八・五四	三・五〇〇	八六九・八九〇	
乙混凝土工	〃	二四七・三八	一五・三〇〇	三、七八四・九一四	
甲混凝土工	〃	一、一二七・九八	一九・七〇〇	二二、二二一・二〇六	
鐵筋工	瓲	六二・〇四	一七五・五〇〇	一〇、八八八・〇二〇	
平塗防水用アスファルト工	平米	二、一三三・四七	二・〇〇〇	四、二六六・九四〇	
立塗防水用アスファルト工	〃	八四三・二〇	三・一〇〇	二、六一三・九二〇	
伸縮目地用アスファルト工	立米	・七一	一三〇・〇〇〇	九二・三〇〇	
銅板伸縮目地用工	瓲	三・八九八	一、〇五〇・〇〇〇	四、〇九二・九〇〇	
乙モルタル上塗工	平米	二、一四〇・八七	・四七〇	一、〇〇六・二〇八	
甲モルタル上塗工	〃	七九二・二三	・五七〇	四五一・五七一	
煉瓦	丁	一三八、七五九・〇〇	百丁ニ付二・五〇〇	三、四六八・九七五	

混凝土ブロック工	立米	三五・六四	二一・〇〇〇	七四八・四四〇	笠石、水叩ブロック及階段工	
鐵筋入混凝土ブロック工	〃	七・八三	三六・六〇〇	二八六・五七八		
煉瓦敷並工	丁	一三八、七五九・〇〇	百丁ニ付 一・〇〇〇	一、三八七・五九〇		
混凝土ブロック据付工	立米	三二・四八	四・五〇〇	一四六・一六〇		
同敷並工	〃	一〇・九九	一・七〇〇	一八・六八三	笠石及階段ブロック	
濾過床砂利工	〃	六三五・四〇	四・五〇〇	二、八五九・三〇〇	水叩混凝土ブロック及集水渠蓋用	
濾過床砂工	〃	一、八五四・五二	四・〇〇〇	七、四一八・〇八〇	鐵筋混凝土ブロック	
甲排水土管布設工	〃	四・〇	一七・一〇〇	六八・四〇〇		
乙排水土管布設工	〃	四・〇	四・一〇〇	一六・四〇〇		
雜費				三二三・五二五		
計				六七、〇三〇・〇〇〇		

量水井並ニ鹽素滅菌機室下部築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
栗石工	立米	一〇・二二	三・五〇〇圓	三五・七七〇	
乙混凝土工	〃	二・一八	一五・三〇〇	三三・三五四	制水弁用
甲混凝土工	〃	七九・九〇	一九・七〇〇	一、五七四・〇三〇	
平塗防水用アスファルト工	平米	二七・三五	二・〇〇〇	五四・七〇〇	
立塗防水用アスファルト工	〃	六六・一六	三・一〇〇	二〇五・〇九六	
波煉瓦除壁積工	丁	四〇五・〇〇	百丁ニ付 六・六〇〇	二六・七三〇	
甲モルタル塗工	平米	一四四・五六	五七〇	八二・三九九	
乙モルタル塗工	〃	五八・八一	四七〇	二七・六四〇	
鐵筋工	瓲	五・九九	一七五・五〇〇	一、〇五一・二四五	
切石工	立米	一・四一	一四三・〇〇〇	五八・六三〇	
切石据付工	〃	一・四一	六・七〇〇	二・七四七	
人孔其他鐵蓋	瓲	六〇二・七八	二三〇	一三八・六三九	厚九粍縞鋼板周圍山形鋼三〇×三〇×五取付
昇降金物	〃	九三・六六	二三〇	二一・五四一	徑一九粍長一米四二本
丙排水工				二一五・〇〇〇	
雜費				一六・四七九	可動式ウエヤー開閉臺其他附屬品取付一切
計				三、五四四・〇〇〇	

淨水池築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
乙混凝土工	立米	七〇・四七	一五・三〇〇圓	一、〇七八・一九一	
甲混凝土工	〃	一、〇六一・八五	一九・七〇〇	二〇、九一八・四四五	
鐵筋工	瓲	七四・三三	一七五・五〇〇	一三、〇四四・九一五	
平塗防水用アスファルト工	平米	一、八六九・五八	二・〇〇〇	三、七三九・一六〇	

立塗防水用アスファルト工	平米	四一六・三〇	三・一〇〇	一、二九〇・五三〇	
乙モルタル上塗工	〃	八九一・三三	・四七〇	四一八・九二五	
甲モルタル上塗工	〃	二、〇四五・七五	・五七〇	一、一六六・〇七七	
混凝土ブロック工	立米	一二・五〇	二一・〇〇〇	二六二・五〇〇	濕抜溝及階段
混凝土ブロック据付工	〃	一二・五〇	四・五〇〇	五六・二五〇	
盛土濕砂利敷工	〃	一一〇・〇四	三・五〇〇	三八五・一四〇	
水抜土管布設工	ケ所	六・〇〇〇	六・七〇〇	四〇・二〇〇	
換氣筒	個	四〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一、二〇〇・〇〇〇	取付費共
人孔金物	瓩	三五〇・〇〇〇	瓩ニ付キ二〇〇・〇〇〇	七〇・〇〇〇	
昇降金物	〃	七五・八二	〃二三〇・〇〇〇	一七・四三八	
切石工	平米	・二二	一四三・〇〇〇	三一・四六〇	
切石据付工	〃	・二二	六・七〇〇	一・四七四	
甲排水工	月	五・〇〇	三七〇・〇〇〇	一、八五〇・〇〇〇	動力代器具損料共一切一五馬力二臺二ケ月半
雜費				二二九・二九五	
計				計四五、八〇〇・〇〇〇	

喞筒井築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
栗石工	立米	二・二六	三・五〇〇	七・九一〇	
甲混凝土工	〃	一二九・五五	一九・七〇〇	二、五五二・一三五	內喞筒井底ニ屬スル分二八・〇七立米
乙混凝土工	〃	一二・一九	一五・三〇〇	一八六・五〇七	
防水モルタル上塗工	平米	一四一・三七	・六七〇	九四・七一七	喞筒井內底及側面塗用
甲モルタル上塗工	〃	九三・二九	・五七〇	五三・一七五	〃
乙モルタル上塗工	〃	三二・一七	・四七〇	一五・一一九	
鐵筋工	瓩	一一・一六	一七五・五〇〇	一、九五八・五八〇	
餘水吐口金物	個	八・〇〇	二〇・〇〇〇	一六〇・〇〇〇	
換氣筒	ケ所	二・〇〇	三〇・〇〇〇	六〇・〇〇〇	
丙排水工	月	・五〇	二一五・〇〇〇	一〇七・五〇〇	一式
沈井工	立米	一〇二・九五	六・〇〇〇	六一七・七〇〇	喞筒井底混凝土及防水モルタル施工中
雜費				二八・六五七	基面上九・五米地下水下ニ屬スル部分ノ沈井工事費
計				五、八四二・〇〇〇	

喞筒室下部築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
栗石工	立米	一・二〇	三・五〇〇	四・二〇〇	喞筒及モーター臺基礎ニ使用
甲混凝土工	〃	七八・七二	一九・七〇〇	一、五五〇・七八四	
乙混凝土工	〃	三八・四一	一五・三〇〇	五八七・六七三	建物周圍基礎喞筒及モーター臺基礎床等ニ使用

丙　混凝土工	立米	五三・九六	一四・〇〇〇	七五五・四四〇
鐵筋工	瓲	三・九四	一七五・五〇〇	六九一・四七〇
乙　モルタル工	平米	一七〇・〇〇	・四七〇	七九・九〇〇
上塗工				八〇・〇〇〇
亞鉛鍍管手摺工				七四〇・〇〇〇
甲　排水工	月	二・〇〇	三七〇・〇〇〇	三〇・五三三
雜費				四、五二〇・〇〇〇
計				一五馬力電動機使用一臺分

鐵管弁類其他附屬品費

種別	單位	數量	單價 圓	金額	摘要
內徑六〇〇粍直管	瓲	一・一二〇			
內徑五〇〇粍直管	〃	四六・二七八			
內徑三五〇粍直管	〃	一三・三一二			
內徑三〇〇粍直管	〃	二・〇八〇			
小計	〃	六二・七九〇	八〇・〇〇〇	五、〇二三・二〇〇	
異形管	〃	二七・五七二	一四〇・〇〇〇	三、八六〇・〇八〇	
五〇〇粍制水弁	個	五・〇〇	四〇〇・〇〇〇	二、〇〇〇・〇〇〇	
三五〇粍制水弁	〃	六・〇〇	一八〇・〇〇〇	一、〇八〇・〇〇〇	
三〇〇粍制水弁	〃	四・〇〇	一二〇・〇〇〇	四八〇・〇〇〇	
二〇〇粍制水弁	〃	五・〇〇	六〇・〇〇〇	三〇〇・〇〇〇	
一五〇粍制水弁	〃	二・〇〇	四〇・〇〇〇	八〇・〇〇〇	
四五〇粍安全弁	個	一・〇〇		四五〇・〇〇〇	
二〇〇粍逆止弁	〃	三・〇〇	七〇・〇〇〇	二一〇・〇〇〇	
六〇〇粍フートバルブ	〃	一・〇〇		四〇〇・〇〇〇	
可動式ウエーヤ	〃	三・〇〇	二五〇・〇〇〇	七五〇・〇〇〇	量水井用
五〇〇粍制水弁開閉臺	〃	二・〇〇	一〇〇・〇〇〇	二〇〇・〇〇〇	
三五〇粍制水弁開閉臺	〃	三・〇〇	八〇・〇〇〇	二四〇・〇〇〇	
二〇〇粍制水弁開閉臺	〃	六・〇〇	六〇・〇〇〇	三六〇・〇〇〇	
可動式ウエーヤ開閉臺	〃	三・〇〇	八〇・〇〇〇	二四〇・〇〇〇	
電氣的水位指示計	〃	三・〇〇	五五〇・〇〇〇	一、六五〇・〇〇〇	着水井淨水池喞筒井ト喞筒室ト連絡水位指示トス
水頭計	〃	三・〇〇	二四〇・〇〇〇	七二〇・〇〇〇	量水井用
電動水位指示計	〃	一・〇〇		一八〇・〇〇〇	淨水場事務室用
トランスミッター指示開閉器	〃	一・〇〇		一、〇〇〇・〇〇〇	配水塔水位ノ昇降ニ依リ喞筒運轉用電動機電流ノ開閉用銅線附屬品共
量水器	〃	一・〇〇		六、〇〇〇・〇〇〇	
鹽素滅菌機	〃	一・〇〇		一、八〇〇・〇〇〇	
衒器	〃	一・〇〇		四〇・〇〇〇	鹽素滅菌機室用
壓力記錄計	〃	二・〇〇	一五〇・〇〇〇	三〇〇・〇〇〇	配水管水壓記錄用喞筒室及淨水場事務室ニ設置
雜具				二三六・七二〇	
計				二七、六〇〇・〇〇〇	

鐵管布設及弁類其他附屬品設置費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
六〇〇粍直管布設工	本	一・〇	一二・四〇〇圓	一二・四〇〇圓	
五〇〇粍直管布設工	〃	五四・〇	九・四〇〇	五〇七・六〇〇	
三五〇粍直管布設工	〃	二六・〇	五・八〇〇	一五〇・八〇〇	
三〇〇粍直管布設工	〃	五・〇	四・五〇〇	二二・五〇〇	
六〇〇粍異形管布設工	本	七・〇	一二・四〇〇	八六・八〇〇	
五〇〇粍異形管布設工	〃	二五・〇	九・四〇〇	二三五・〇〇〇	
四〇〇粍異形管布設工	〃	二・〇	六・六五〇	一三・三〇〇	
三五〇粍異形管布設工	〃	四九・〇	五・八〇〇	二八四・二〇〇	
三〇〇粍異形管布設工	〃	五・〇	四・五〇〇	二二・五〇〇	
二五〇粍異形管布設工	〃	四四・〇	三・五〇〇	一五四・〇〇〇	
二〇〇粍異形管布設工	〃	三九・〇	二・五〇〇	九七・五〇〇	
一五〇粍異形管布設工	〃	二・〇	一・八〇〇	三・六〇〇	
五〇〇粍制水弁付据工	ケ所	五・〇	一九・一〇〇	九五・五〇〇	
三五〇粍制水弁付据工	〃	六・〇	一一・八〇〇	七〇・八〇〇	
三〇〇粍制水弁付据工	〃	四・〇	九・二〇〇	三六・八〇〇	
二〇〇粍制水弁付据工	〃	五・〇	五・一五〇	二五・七五〇	
一五〇粍制水弁付据工	〃	二・〇	三・八〇〇	七・六〇〇	
四五〇粍安全弁付据工	〃	一・〇	—	五〇・〇〇〇	弁室築造弁据付迄一切
六〇〇粍フート弁付取工	〃	一・〇	—	一五・〇〇〇	
開閉臺据付工	〃	一四・〇	一〇・〇〇〇	一四〇・〇〇〇	
水位付水頭計取付工	〃	六・〇	二〇・〇〇〇	一二〇・〇〇〇	
トランスミッター設置工	〃	一・〇		一〇〇・〇〇〇	電線架設器具設置迄一切
量水機据付工	〃	一・〇		一五〇・〇〇〇	地下室築造量水機据付迄一切
鹽素滅菌機据付工				一〇〇・〇〇〇	
雜具取付工				四八・三五〇	
計				二、五五〇・〇〇〇	

土工費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲掘鑿工	立米	五一二・九八	圓・七二〇	三六九・三四五圓	淨水池及喞筒井水中掘鑿ノ分
乙同	〃	四、六〇五・一九	・四六〇	二、一一八・三八七	
乙埋戻工	〃	一、二八五・八四	・二五〇	三二一・四六〇	

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲盛土工	立米	七八〇・三三	一・三〇〇	一、〇一四・四二九	盛土五、九一九・二五立米ヨリ轉用盛土五、一三九・一九立米ヲ控除シタル殘ハ被覆用トシテ賄土使用
乙盛土工	〃	四、二五六・一五	・四五〇	一、九一五・二六七	轉用盛土
殘土處理流用土工	〃	八八三・〇四	—	—	附近鐵管布設殘土處理ニ依ル土砂ヲ流用ニ付キ金額ヲ計上セス
砂利敷工	〃	八七・二七	三・五〇〇	三〇五・四四五	鐵管埋設跡路面復舊工單價ニヨル厚五〇粍
張芝工	平米	三、八八一・八八	一・〇〇〇	三、八八一・八八〇	
甲筋芝工	〃	三、五七三・八四	・五八〇	二、〇七二・八二七	
雜費				一三五・九六〇	
計				一二、一三五・〇〇〇	

附帶工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
照明燈	基	一〇・〇	四〇〇・〇〇〇	四〇〇・〇〇〇	附屬品一式
柵及門				一、〇四九・〇〇〇	
內徑一五〇粍排水土管布設工	米	三三・〇〇	二・七五〇	九〇・七五〇	
內徑三〇〇粍排水土管布設工	〃	二六三・〇〇	五・八〇〇	一、五二五・四〇〇	
內徑三八〇粍排水土管布設工	〃	五六〇・〇〇	六・八三〇	三、八二四・八〇〇	淨水場構內一四三米縣道四一六・三米
排水桝工	ヶ所	二〇・〇	六九・〇〇〇	一、三八〇・〇〇〇	淨水場構內四縣道五ヶ所
人孔工	〃	九・〇	一二八・〇〇〇	一、一五二・〇〇〇	
砂洗場	〃	一・〇		五〇〇・〇〇〇	
砂置場工	〃	一・〇		七六三・〇〇〇	
排水渠築造工	內構米	三三二・〇	二・四〇〇	七九六・八〇〇	
敷地周圍側溝築造工	〃	四四二・〇	三・七四〇	一、六五三・〇八〇	
植樹費				二〇〇・〇〇〇	
排水土管布設跡路面復舊費	立米	九三・六七	三・五〇〇	三二七・八四五	延長四一六米三巾二・五米厚九〇粍
雜工				八六・三二五	耕作道附替其他雜工事
計				一三、七四九・〇〇〇	

一金　八萬六千圓也

內

金七萬七千八百圓　配水塔築造工事費
金五　千　圓　鐵管弁類其他附屬品費
金八百貳拾圓　鐵管布設及弁類其他附屬品設置費
金貳千參百八拾圓　附帶工事費

配水塔工事費

配水塔築造工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲掘鑿工	立米	一、〇五七・〇〇	圓・七二〇	金七六一・〇四〇圓	

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

乙堀鑿工	立米	一、〇四四・三八	四八〇・四六〇	四八〇・四一四	
乙埋戻工	〃	一、〇七三・八五	二・二五〇	二六八・四六二	
乙盛土工	〃	八九七・八五	四五〇	四〇四・〇三二	
殘土引均工	〃	一二九・六八	二五〇	三二・四二〇	
乙混凝土工	〃	二四九・一一	一五・三〇〇	三、八一一・三八三	
甲同上	〃	一、七四三・二八	一九・七〇〇	三四、三四二・六一六	
甲モルタル塗上工	平米	六五五・二四	五七〇	三七三・四八六	
乙モルタル上同	〃	三九四・五八	四七〇	一八五・四五二	
鐵筋工	瓲	七九・二一	一七五・五〇〇	一三、九〇一・三五五	
白漆喰壁工	平米	一、〇七四・九〇	八〇〇	八五九・九二〇	
切石工	立米	七・三一	一四三・〇〇〇	一、〇四五・三三〇	
切石据付工	〃	七・三一	六・七〇〇	四八・九七七	
混凝土ブロック工	〃	五二・二〇	二一・〇〇〇	一、〇九六・二〇〇	
混凝土付据付工	〃	五二・二一	四・五〇〇	二三四・九四五	
窓枠工	平米	二六・〇四	二〇・〇〇〇	五二〇・八〇〇	
鋼材工	瓲	四八・〇〇	二三〇・〇〇〇	一一、〇四〇・〇〇〇	
鋼材運搬費	〃	四〇・一四	五・〇〇〇	二〇〇・七〇〇	
鋼材現場組建費	〃	四〇・一四	五〇・〇〇〇	二、〇〇七・〇〇〇	
上屋々根葺工	平米	一七六・九〇	一〇・八五〇	一、九一九・三六五	
銅樋工				四〇〇・〇〇〇	
避雷針工事				五五〇・〇〇〇	
雜工事				一、二〇〇・〇〇〇	

塔ノ周圍ニ引均シ單價ハ乙埋戻工ニ依ル

基礎二一八・五九立米外鐵管臺、一階床及入口等ニ使用

上屋壁塗用

床面塗用

荷造及汽車運搬費

間仕切電燈其ノ他雜工事一切

足場費			
甲排水工	月	二・〇	三七〇・〇〇〇
雜費			
計			一、〇〇〇・〇〇〇
			七四〇・〇〇〇
			三七六・一〇三
			七七、八〇〇・〇〇〇

鐵管弁類其他附屬品費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
四五〇粍鑄鐵直管	瓲	一一・〇一〇	八〇・〇〇〇圓	八八〇・八〇〇圓	
四〇〇粍同上	〃	四・九六〇	八〇・〇〇〇	三九六・八〇〇	
二五〇粍同上	〃	・六五八	八〇・〇〇〇	五二・六四〇	
鑄鐵異形管	〃	五・三三二	一四〇・〇〇〇	七四六・四八〇	
四〇〇粍鋼直管	〃	二・六八七	二三〇・〇〇〇	六一八・〇一〇	
二五〇粍鋼直管	〃	一・一二八	二三〇・〇〇〇	二五九・四四〇	
四〇〇粍伸縮管	個	二・〇	三〇〇・〇〇〇	六〇〇・〇〇〇	
二五〇粍同上	〃	一・〇		二五〇・〇〇〇	
四〇〇粍制水弁	〃	二・〇	二五〇・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇	
七五粍同上	〃	一・〇		二〇・〇〇〇	
電氣的水位指示計	〃	一・〇		五五〇・〇〇〇	警報ベル付
雜具				一二五・八三〇	
計				五、〇〇〇・〇〇〇	

鐵管布設弁類其他附屬品設置費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
四〇〇粍管承口接合	個所	二四・〇	六・〇〇〇圓	一四四・〇〇〇圓	
四〇〇〇粍管突緣接合	〃	七・〇	六・六〇〇	四六・二〇〇	
二五〇粍管承口接合	〃	八・〇	三・五〇〇	二八・〇〇〇	
二五〇粍管突緣接合	〃	二・〇	三・〇〇〇	六・〇〇〇	
四五〇粍直管布設工	本	一五・〇	一七・八五〇	二六七・七五〇	制水弁以外ノ部分
四五〇粍曲管布設工	〃	二・〇	五八・二〇〇	一一六・四〇〇	
四五〇粍異形管布設工	個所	三・〇	一九・八〇〇	五九・四〇〇	枝管二本　片落管一本
四〇〇粍制水弁付工	〃	二・〇	五四・一〇〇	一〇八・二〇〇	
七五粍制水弁付工	〃	一・〇	一四・〇五〇	一四・〇五〇	
雜具取付工				三〇・〇〇〇	水位指示計其他雜具取付工
計				八二〇・〇〇〇	

附帶工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
柵及門			圓	四〇〇・〇〇〇圓	
電燈及各信號設備費				二〇〇・〇〇〇	
照明燈	基	四・〇〇	四〇・〇〇〇	一六〇・〇〇〇	構內照明用
三〇〇粍排水土管布設工	米	一三・〇〇	五・八〇〇	七五・四〇〇	
植樹費				一〇〇・〇〇〇	
張芝工	平米	一、一〇九・八〇	一・〇〇〇	一、一〇九・八〇〇	內配水塔根元小段分四二四・八平米
砂利敷工	立米	三二・八〇	三・五〇〇	一一四・八〇〇	
雜工				二二〇・〇〇〇	餘水吐出便所其他雜工一切
計				二、三八〇・〇〇〇	

配水工事費

一金六拾八萬貳千圓也

內

金參拾九萬貳千九百圓	鐵管弁類其他附屬品費
金貳拾參萬八千八百圓	鐵管布設及弁類其他附屬品設置費
金七百八拾八圓	水路伏越工事費
金九千參百七拾八圓	水管橋架設工事費
金壹萬參百參拾四圓	鐵道線路橫斷工事費
金貳萬九千八百圓	鐵管布設跡路面復舊費

第三節　水道布設認可申請及認可指令

鐵管弁類其他附屬品費

種別	單位	數量	單價 圓	金額 圓	摘要
四五〇粍直管	疋	五〇一・三二			
四〇〇粍同上	〃	二五七・九二			
三〇〇粍同上	〃	一四八・一〇			
二五〇粍同上	〃	五二五・四一			
二〇〇粍同上	〃	五九一・四八			
一五〇粍同上	〃	五〇八・五一			
一〇〇粍同上	〃	一、二四二・一〇			
七五粍同上	〃	四九一・〇六			
小計	〃	四、二六五・九〇			
異形管	〃	一三一・八〇	八〇・〇〇〇	一、四五二・〇〇〇	六八三本ノ内豫備六本
四五〇粍制水弁	個	一・〇	四五〇・〇〇〇	四五〇・〇〇〇	四一六本ノ内同　四本
同上	〃	五・〇	三〇〇・〇〇〇	一、五〇〇・〇〇〇	三五六本ノ内同　七本
四〇〇粍同上	〃	二・〇	三五〇・〇〇〇	七〇〇・〇〇〇	一、九九七本ノ内同　三一本
三〇〇粍同上	〃	三・〇	一二〇・〇〇〇	三六〇・〇〇〇	二、三八五本ノ内同　五三本
二五〇粍同上	〃	一九・〇	九〇・〇〇〇	一、七一〇・〇〇〇	三、七三九本ノ内同　八三本
二〇〇粍同上	〃	一三・〇	六〇・〇〇〇	七八〇・〇〇〇	一四、三四三本ノ内同　三一九本
一五〇粍同上	〃	一二・〇	四〇・〇〇〇	四八〇・〇〇〇	七、五八三本ノ内同　一六九本
一〇〇粍同上	〃	五七・〇	二五・〇〇〇	一、四二五・〇〇〇	バイパス付
七五粍同上	〃	二〇・〇	二〇・〇〇〇	四〇〇・〇〇〇	一九個ノ内豫備二個
地上式	〃	四〇・〇	九八・〇〇〇	三、九二〇・〇〇〇	一三個ノ内同　二個
單口消火栓					一二個ノ内同　四個
					五七個ノ内同　一四個
					二〇個ノ内同　七個

種別	單位	數量	單價 圓	金額 圓	摘要
地下式	〃	三一四・〇	三五・〇〇〇	一〇、九九〇・〇〇〇	
單口消火栓	〃	一五・〇	二五・〇〇〇	三七五・〇〇〇	
單口排氣弁	〃	五〇・〇	一八・〇〇〇	九〇〇・〇〇〇	
公設共用栓	個	一〇二・〇	九・二〇〇	九三八・四〇〇	
水栓柱	〃	三一四・〇	二〇・〇〇〇	六、二八〇・〇〇〇	
制水弁鐵蓋	〃	一・〇		二〇・〇〇〇	
消火栓室鐵蓋	〃			一、九四七・六〇〇	
排氣弁室鐵蓋	〃			五一、六二八・〇〇〇	
雜品				三九二、九〇〇・〇〇〇	
小計					

鐵管布設及弁類其他附屬品設置費

種別	單位	數量	單價 圓	金額 圓	摘要
四五〇粍鐵管布設工	本	六七三・〇	一七・八五〇	一二、〇一三・〇五〇	
四〇〇粍同上	〃	四一二・〇	一六・〇〇〇	六、五九二・〇〇〇	
三〇〇粍同上	〃	三四〇・〇	一三・〇〇〇	四、四二〇・〇〇〇	
二五〇粍同上	〃	一、五四九・〇	一一・一〇〇	一七、一九三・九〇〇	
二〇〇粍同上	〃	二、三一五・〇	九・七〇〇	二二、四五五・五〇〇	
一五〇粍同上	〃	三、六四八・〇	六・四五〇	二三、五二九・六〇〇	
一〇〇粍同上	〃	一四、〇一五・〇	五・三〇〇	七四、二七九・五〇〇	
七五粍同上	〃	七、四一三・〇	四・九五〇	三六、六九四・三五〇	
四五〇粍曲管布設工	〃	二九・〇	五八・二〇〇	一、六八七・八〇〇	

四〇〇粍同上	本	八・〇	四七・二五〇	三七八・〇〇〇	
三〇〇粍同上	〃	一六・〇	二四・三〇〇	三八八・八〇〇	
二五〇粍同上	〃	四八・〇	一六・二〇〇	七七七・六〇〇	
二〇〇粍同上	〃	四五・〇	一一・七〇〇	五二六・五〇〇	
一五〇粍同上	〃	九三・〇	六・九〇〇	六四一・七〇〇	
一〇〇粍同上	〃	四〇九・〇	三・八〇〇	一、五五四・二〇〇	
七五粍同上	〃	一五九・〇	三・五〇〇	五五六・五〇〇	
四五〇粍分岐管布設	〃	一〇・〇	一九・八〇〇	一九八・〇〇〇	
四〇〇粍同上	〃	七・〇	一七・四〇〇	一二一・八〇〇	
三〇〇粍同上	〃	二九・〇	一三・四〇〇	三八八・六〇〇	
二五〇粍同上	〃	一一一・〇	一〇・五〇〇	一、一六五・五〇〇	
二〇〇粍同上	〃	一一六・〇	八・二五〇	九五七・〇〇〇	
一五〇粍同上	〃	一四四・〇	六・二五〇	九〇〇・〇〇〇	
一〇〇粍同上	〃	五二五・〇	四・八三〇	二、五三五・七五〇	
七五粍同上	〃	五八・〇	四・〇五〇	二三四・九〇〇	
四五〇粍承口接合個所	〃	一三・〇	七・三〇〇	九四・九〇〇	
四〇〇粍同上	〃	八・〇	六・〇〇〇	四八・〇〇〇	
三〇〇粍同上	〃	二七・〇	四・六〇〇	一二四・二〇〇	
二五〇粍同上	〃	八五・〇	三・五〇〇	二九七・五〇〇	
二〇〇粍同上	〃	一一一・〇	二・五五〇	二八三・〇五〇	
一五〇粍同上	〃	一六〇・〇	一・八五〇	二九六・〇〇〇	
一〇〇粍同上	〃	五七一・〇	一・三〇〇	七四二・三〇〇	
七五粍同上	〃	二九五・〇	一・〇〇〇	二九五・〇〇〇	

四五〇粍制水弁設置工	〃	一・〇	九一・〇〇〇	九一・〇〇〇	バイパス付
四五〇粍同上	〃	五・〇	六一・七五〇	三〇八・七五〇	
四〇〇粍同上	〃	二・〇	八一・五〇〇	一六三・〇〇〇	バイパス付
三〇〇粍同上	〃	三・〇	三三・〇五〇	九九・一五〇	
二五〇粍同上	〃	一七・〇	二八・七〇〇	四八七・九〇〇	
二〇〇粍同上	〃	一一・〇	二二・四〇〇	二四六・四〇〇	
一五〇粍同上	〃	八・〇	一八・三五〇	一四六・八〇〇	
一〇〇粍同上	〃	四三・〇	一五・一〇〇	六四九・三〇〇	
七五粍同上	〃	一三・〇	一四・〇五〇	一八二・六五〇	
地上式消火栓据付工	〃	四〇・〇	一六・一〇〇	六四四・〇〇〇	
地下式同上	〃	三一四・〇	一〇・〇〇〇	三、一四〇・〇〇〇	
単口排氣弁据付工	〃	一四・〇	・九〇〇	一二・六〇〇	突縁接合單價ニ依ル
同　上	〃	一・〇	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	
公設共用栓設置工	〃	五〇・〇	一七・〇〇〇	八五〇・〇〇〇	
公道部分給水管布設工	〃	一、六五三・〇	一一・〇〇〇	一八、一八三・〇〇〇	
雜費				一、二一三・九五〇	
計				二三八、八〇〇・〇〇〇	

古川配水管伏越工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
甲堀鑿工	立米	四二・六〇	圓 ・七二〇	三〇・六七二	四五〇粍管

乙埋戻工	立米	三二・二二	・二五〇	八・〇五五
殘土處理工	〃	一〇・三八	・七〇〇	七・二六六
乙混凝土工	〃	八・七〇	一五・三〇〇	一三三・一一〇
枕木	〃	・一八	五五・〇〇〇	九・九〇〇
胴木	〃	・二八	二五・〇〇〇	七・〇〇〇
石垣工	平米	三三・六〇	六・七〇〇	二二五・一二〇
山圍費	〃	一〇・〇〇		六八・八八八
丙排水工	月	・五〇	二一五・〇〇〇	一〇七・五〇〇
混凝土ブロック	立米	三・三六	二一・〇〇〇	七〇・五六〇
混凝土ブロック敷並工	〃	三・三六	一・七〇〇	五・七一二
雜工事費				一一〇・〇〇〇
雜費				四・二一七
計				七八八・〇〇〇

石垣復舊工單價ニ依ル

水管橋架設工事費

種別	管徑	桁尻兩壁間內法長	徑間	金額	摘要
大江川一號水管橋	二五〇粍	一二・一〇米	一一・五〇米	一、一九五・〇〇〇圓	別紙內譯書ノ通リ
同二號同	二五〇〃	一〇・九〇	一〇・三〇	一、一五〇・〇〇〇	〃
同三號同	二〇〇〃	一一・五〇	一〇・九〇	一、〇六五・〇〇〇	〃
同四號同	二五〇〃	一一・一〇	一〇・五〇	一、一六〇・〇〇〇	〃
一宮井筋一號水管橋	一五〇〃	六・〇〇	五・五〇	五一八・〇〇〇	〃
同二號同	四五〇〃	五・一〇	四・五〇	九三三・〇〇〇	
同三號同	一〇〇〃	五・四〇	五・〇〇	四三七・〇〇〇	
同四號同	一〇〇〃	五・五〇	五・〇〇	五一八・〇〇〇	
同五號同	三〇〇〃	五・六〇	五・〇〇	八〇〇・〇〇〇	
同六號同	一〇〇〃	五・四〇	五・〇〇	四三三・〇〇〇	
一宮井筋七號水管橋	一〇〇〃	四・四〇	四・〇〇	九七・〇〇〇	別紙內譯書ノ通リ
同八號同	三〇〇〃	四・八〇	四・二〇	六一八・〇〇〇	〃
同九號同	一五〇〃	四・五〇	四・〇〇	四五四・〇〇〇	〃
計				九、三七八・〇〇〇	

鐵道線路橫斷工事費

種別	單位	橫斷個所延長	單價	金額	軌條受假架桁工	計	摘要
徑二〇〇粍管甲東海道本線橫斷工費	米	一八・〇〇	圓	圓	圓	二、二五六・〇〇〇圓	別紙內譯書ノ通リ
徑二五〇粍管乙東海道本線橫斷工費	〃	一八・九〇				二、七〇二・〇〇〇	〃
徑二〇〇粍管甲名岐鐵道線橫斷工費	〃	一〇・一五				一、二六一・〇〇〇	〃
徑二〇〇粍管乙同上	〃	八・四〇				四四七・〇〇〇	〃
徑一五〇粍管名岐鐵道線橫斷工費	〃	六・〇〇		一五・七〇〇〇		九四・二〇〇〇	〃
						一二〇・〇〇	〃

徑七五粍管	米	三・〇〇	九・〇〇〇	二七・〇〇〇	一五〇・〇〇〇	一七七・〇〇〇
名岐鐵道線橫斷工費						
徑二五〇粍管	〃	三・〇〇	一九・〇〇〇	五七・〇〇〇	一五〇・〇〇〇	二〇七・〇〇〇
同徑一〇〇粍管	〃	三・〇〇	九・五〇〇	二八・五〇〇	一五〇・〇〇〇	一七八・五〇〇
同徑一〇〇粍管	〃	三・〇〇	九・五〇〇	二八・五〇〇	一五〇・〇〇〇	一七八・五〇〇
同徑一〇〇粍管	〃	三・〇〇	九・五〇〇	二八・五〇〇	一五〇・〇〇〇	一七八・五〇〇
同徑七五粍管	〃	三・〇〇	九・〇〇〇	二七・〇〇〇	一五〇・〇〇〇	一七七・〇〇〇
同徑二五〇粍管	〃	六・〇〇	一九・〇〇〇	一一四・〇〇〇	一五〇・〇〇〇	二六四・〇〇〇
同徑二〇〇粍管	〃	六・〇〇	一七・三〇〇	一〇三・八〇〇	一五〇・〇〇〇	二五三・八〇〇
同徑一五〇粍管	〃	六・五〇	一五・七〇〇	一〇二・〇五〇	五〇〇・〇〇〇	六〇二・〇五〇
同徑一〇〇粍管	〃	一〇・〇〇	九・五〇〇	九五・〇〇〇	五〇〇・〇〇〇	五九五・〇〇〇
同徑二〇〇粍管	〃	六・五〇	一七・三〇〇	一一二・四五〇	五〇〇・〇〇〇	六一二・四五〇
計						一〇、三三四・〇〇〇

別紙內譯書ノ通リ

鐵管布設跡路面復舊工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
砂利敷工	立米	四三二・七〇	三・五〇〇圓	一、五一四・四五〇圓	國道布設延長二、八六六米
同	〃	二、二三八・九〇	三・五〇〇	七、八三六・一五〇	徑三〇〇粍管外四種砂利厚九〇粍
同	上	〃	五、五五一・四〇	三・五〇〇	一九、四二九・九〇〇	府縣道同延長一三、七八四・二米
雜費	〃				一、〇一九・五〇〇	徑四五〇粍管外七種厚同上
計					二九、八〇〇・〇〇〇	市道同延長七九、二三三米
						徑四五〇粍管外七種厚同上
						特殊道路其ノ他工作物復舊費其ノ他

機械器具費

一金六萬參千八百圓也

內

金六萬參千八百圓

機械器具費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
水源喞筒	臺	二・〇	二、〇六五・〇〇〇圓	四、一三〇・〇〇〇圓	口徑二五〇粍竪軸電動機直結渦卷喞筒常時一臺運轉豫備一臺附屬品一切據付共
同電動機	〃	二・〇	七六〇・〇〇〇	一、五二〇・〇〇〇	三〇馬力三相交流誘導電動機同上喞筒直結用附屬品一切據付共
同眞空喞筒	〃	一・〇		一三八・〇〇〇	始動用電動ロータリー眞空喞筒附屬品一切據付共
同電動機	〃	一・〇		七七・〇〇〇	二馬力三相交流誘導電動機、眞空喞筒直結用附屬品一切據付共

機械器具費

第三節　水道布設認可申請及認可指令

排水喞筒	〃	一・〇	四五〇・〇〇〇	口徑六四粍竪軸電動機、直結渦卷喞筒附屬品一切据付共
同電動機	〃	一・〇	一五〇・〇〇〇	二馬力三相交流誘導電動機同上喞筒運轉用附屬品一切据付共
變壓器	〃	三・〇	四一一・〇〇〇	油入自冷式變壓器三臺、二臺常用豫備一臺附屬品共据付迄
配電盤	式	一・〇	二、四三〇・〇〇〇	電力會社側淨水場變電側、變壓器高壓側用及低壓電動機側用配電盤其他附屬品一切取付迄
眞空槽	個	一・〇	一、一〇〇・〇〇〇	接續管、壓力計、水位計等附屬品一切取付迄
小計			一〇、四〇六・〇〇〇	
淨水場喞筒	臺	三・〇	四、二三〇・〇〇〇	口徑二〇〇粍電動機直結横軸タービン喞筒常用二臺運轉豫備一臺附屬品据付迄一切
同電動機	〃	三・〇	三、七二〇・〇〇〇	五〇馬力三相交流誘導電動機同上喞筒直結用附屬品据付迄一切
同眞空喞筒	〃	一・〇	一三八・〇〇〇	始動用ロータリー眞空喞筒附屬品共据付迄一切
同電動機	〃	一・〇	七七・〇〇〇	二馬力同上喞筒直結三相交流誘導電動機附屬品共据付迄一切
變壓機	〃	三・〇	九三・〇〇〇	一KVA單相柱上用型油入自冷式附屬品共据付迄一切
配電盤	式	一・〇	二、四四五・〇〇〇	電力會社側自家發電側高壓電動機用、變壓器用器具一切各組立迄一切
ディゼル機關	臺	一・〇	一三、〇〇〇・〇〇〇	一三〇馬力ディゼル機關附屬品共据付迄一切
ディゼル機關附屬品	式	一・〇	二、六〇〇・〇〇〇	重油小出槽、空氣壓搾器、石油發動機冷却水槽、排氣管、小配管及重油ポンプ其他取付迄一切

重油貯藏槽	個	一・〇	八〇〇・〇〇〇	六立方米容量
發電機	臺	一・〇	六、五〇〇・〇〇〇	一〇三KVA三相交流發電機、ディゼル機關直結、一臺及七五馬力勵磁機、界磁抵抗器發電機用界磁抵抗機其他附屬品据付迄
配電盤	式		一、三八五・〇〇〇	
小計			三四、九八八・〇〇〇	
鐵管及セメント檢査要具			三、六〇〇・〇〇〇	
鐵管用衝器	臺	一・〇	二〇〇・〇〇〇	
土工用具			二、五〇〇・〇〇〇	
布設用具			一、五〇〇・〇〇〇	
水替用喞筒	臺	二・〇	二四〇・〇〇〇	口徑四吋ダイヤフラム喞筒ホース五本　二本付
チエンブロック	個	二・〇	一六〇・〇〇〇	
ウインチ	〃	二・〇	一七〇・〇〇〇	
混凝土混合機	臺	二・〇	一、四〇〇・〇〇〇	五方練モーター付
ジヤッキ	〃	二・〇	三〇・〇〇〇	
綱索費			五〇〇・〇〇〇	
自轉車費	臺	一五・〇	六〇〇・〇〇〇	
サイドカー付	〃	一・〇	一、二〇〇・〇〇〇	
オートバイ	〃		四、〇〇〇・〇〇〇	
貨物自動車	〃	一・〇	一、五〇〇・〇〇〇	
機械器具修繕費			八〇六・〇〇〇	
雜具類			一八、四〇六・〇〇〇	
小計			六三、八〇〇・〇〇〇	

用地買收賠償費

一金四萬九千參百圓也

内　金四萬九千參百圓

用地買收及賠償費

種別	地目	單位	數量	單價	金額	摘要
水源地用地買收	畑	坪	一、二一八・〇	二・七〇〇圓	三、二二八・六〇〇圓	
同	田	〃	二三・〇	三・〇〇〇	六九・〇〇〇	
送水路用地買收	宅地	〃	二五・〇	五・〇〇〇	一二五・〇〇〇	
同	畑	〃	三九一・〇	三・五〇〇	一、三六八・五〇〇	
同	田	〃	三九五・〇	三・七〇〇	一、四六一・五〇〇	
淨水場用地買收	畑	〃	三、九五〇・〇	四・〇〇〇	一五、八〇〇・〇〇〇	
配水塔用地買收	〃	〃	六一三・〇	三〇・〇〇〇	一八、三九〇・〇〇〇	
公舍用地買收	〃	〃	二二一・〇	四・〇〇〇	八八四・〇〇〇	
水源倉庫及公舍用地買收	田	〃	二一三・〇	三・七〇〇	七八八・一〇〇	
地上物權補償費					三、五一〇・〇〇〇	
借地料					三、六一五・三〇〇	
計					四九、三〇〇・〇〇〇	

運搬費

一金九千圓也

内　金九千圓

運搬費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
鐵管弁類運搬	瓲	五、二一一・六〇〇	一・六〇〇圓	八、三三八・五六〇圓	
セメント〃				五〇〇・〇〇〇	使用セメントノ内一部分運搬ヲ要スル見込
雜品運搬〃				一六一・四四〇	
計				九、〇〇〇・〇〇〇	

建築費

一金四萬四千六百參拾圓也

内　金四萬四千六百參拾圓也

建築費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
水源喞筒室上屋	平米	一〇三・二四	六〇・〇〇〇圓	六、一九四・四〇〇圓	
淨水場量水井及鹽素滅菌機室	〃	四〇・七〇	六〇・〇〇〇	二、四四二・〇〇〇	
淨水場喞筒室上屋	〃	一八六・五六	八〇・〇〇〇	一四、九二四・八〇〇	
砂洗場上屋	〃	二〇・〇〇	二〇・〇〇〇	四〇〇・〇〇〇	

水源事務所	平米	四二・〇〇	一五・〇〇〇	六三〇・〇〇〇		
水源地倉庫	〃	三〇・〇〇	二〇・〇〇〇	六〇〇・〇〇〇		
水源地作業場上屋	〃	六〇・〇〇	八・〇〇〇	四八〇・〇〇〇		
淨水場事務所	〃	七〇・〇〇	三〇・〇〇〇	二、一〇〇・〇〇〇		
淨水場倉庫	〃	六〇・五〇	二〇・〇〇〇	一、二一〇・〇〇〇		
作業場上屋	〃	六〇・〇〇	八・〇〇〇	四八〇・〇〇〇		
水道事務所	〃	一三三・〇〇	一五・〇〇〇	一、九九五・〇〇〇		
附屬倉庫	〃	三〇・〇〇	一〇・〇〇〇	三〇〇・〇〇〇		
檢査所事務所	〃	五四・〇〇	一五・〇〇〇	八一〇・〇〇〇		
同上屋	〃	九〇・〇〇	八・〇〇〇	七二〇・〇〇〇		
同倉庫	〃	一二〇・〇〇	一〇・〇〇〇	一、二〇〇・〇〇〇		
現場監督員詰所	〃	一〇〇・〇〇	一〇・〇〇〇	一、〇〇〇・〇〇〇		
水源地公舍	〃	六一・三二	二二・〇〇〇	一、三四九・〇四〇	五ヶ所分	
同傭人公舍	〃	九七・四四	二〇・〇〇〇	一、九四八・八〇〇	一戸	
淨水場公舍	〃	一二二・六四	二二・〇〇〇	二、六九八・〇八〇	二戸	
同傭人公舍	〃	一四六・一六	二〇・〇〇〇	二、九二三・二〇〇	二戸	
修繕費				二二四・六八〇	三戸	
計				四四、六三〇・〇〇〇		

檢査費

一金壹萬九拾圓也
內
金壹萬九拾圓

檢査費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
直管檢査	疋	四、九九二・三四〇	一、円五〇〇	七、四八八・五一〇円	
異形管檢査	〃	一八七・一八〇	三、〇〇〇	五六一・五四〇	
弁類檢査	個	一三八・〇〇	一・五〇〇	二〇七・〇〇〇	
セメント檢査	樽	一二、八〇七・〇〇	・一〇〇	一、二八〇・七〇〇	
雜品檢査費				五〇〇・〇〇〇	
雜費				五二・二五〇	
計				一〇、〇九〇・〇〇〇	

一金貳萬參千圓也
內
金貳萬參千圓

電氣設備費

電氣設備費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
送電線路費				一二、〇〇〇・〇〇〇円	淨水場發電室ヨリ水源地喇筒室ニ至ル送電線路一切
專用電話架設費				五、〇〇〇・〇〇〇	一部分送電線路電柱ヲ併用ス、淨水場、配水塔、水源等連絡用器具工事一切
電氣引込設備費				四、〇〇〇・〇〇〇	水源、淨水場、配水塔、其他各工事事務所及各現場ニ於ケル電氣設備一切

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

室内電氣配線費　二、〇〇〇・〇〇〇　水源及淨水場喞筒室内電氣配線費

計　二三、〇〇〇・〇〇〇

測量及製圖費

一金五千圓也
内
金五千圓也

測量及製圖費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
トランシット	臺	四・〇	三〇〇・〇〇〇円	一、二〇〇・〇〇〇円	
レベル	〃	四・〇	二五〇・〇〇〇	一、〇〇〇・〇〇〇	
測板	〃	一・〇		一三・〇〇〇	
箱尺	本	一〇・〇	一一・〇〇〇	一一〇・〇〇〇	
ポール	〃	八・〇	二・二〇〇	一七・六〇〇	長四米突
同	〃	一五・〇	一・三〇〇	一九・五〇〇	同三米突
同	〃	一五・〇	・九〇〇	一三・五〇〇	同二米突
鋼卷尺	個	二・〇	一一・〇〇〇	二二・〇〇〇	長三〇米突
布卷尺	〃	三〇・〇	三・五〇〇	一〇五・〇〇〇	同二〇米突
折本	〃	一〇・〇	・五〇〇	五・〇〇〇	
縮尺	組	一〇・〇	二・四〇〇	二四・〇〇〇	
測繩	個	一・〇		五・〇〇〇	
竹テープ	卷	一〇・〇	七・〇〇〇	七〇・〇〇〇	
測量杭	本	一、〇〇〇・〇	・〇五〇	五〇・〇〇〇	
巾杭	〃	七〇〇・〇	・一〇〇	七〇・〇〇〇	
製圖臺	臺	一・〇		四〇・〇〇〇	
製圖器	組	一〇・〇	一三・〇〇〇	一三〇・〇〇〇	
寫眞燒枠	臺	一・〇		八〇・〇〇〇	
同用紙				二五〇・〇〇〇	
ケント紙				二〇〇・〇〇〇	
トレーシングペーパー				五〇・〇〇〇	
製圖用紙				二〇〇・〇〇〇	
野帳				五〇・〇〇〇	
繪具、鉛筆其他消耗品				八〇・〇〇〇	
雜品				四七五・四〇〇	
測量人夫	人	六〇〇・〇〇	一・二〇〇	七二〇・〇〇〇	
計				五、〇〇〇・〇〇〇	

雜工事費

一金四千圓也
内
金四千圓

雜工事費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
鐵管置場門柵工事				四〇〇・〇〇〇円	

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

鐵管置場檢査設備工事	八〇〇・〇〇〇		
鐵管置場構内軌道布設工事	五〇〇・〇〇〇		
材料運搬道路及同工作物修繕	一、五〇〇・〇〇〇		
雜工	八〇〇・〇〇〇		
計	四、〇〇〇・〇〇〇		

雜費

一金五萬五百五拾圓也

内

金五萬五百五拾圓

雜費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
雜費				五〇、五五〇・〇〇〇円	雜費及豫備費概算
計				五〇、五五〇・〇〇〇	

事務費

一金拾參萬七千圓也

内

金七萬九千百四拾圓

金四萬六千九百圓

金壹萬圓

金九百六拾圓

給料

一金七萬九千百四拾圓也

内

金壹萬參千八百圓

金參萬九千六百圓

金貳萬五千七百四拾圓

給料

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
技師			一三、八〇〇・〇〇〇円		年俸二、三〇〇圓二人三ヶ年分
書記、技手			三九、六〇〇・〇〇〇		月俸一二五圓一名、七五圓十三名計十四名、三ヶ年分
書記補、技手補			二五、七四〇・〇〇〇		
雇員			七九、一四〇・〇〇〇		月俸平均五五圓十三名、三ヶ年分
計					

雜給

一金四萬六千九百圓也

内

金五百四拾圓

金壹萬壹千六百八拾圓

第三節　水道布設認可申請及同認可指令

需用費　雜費

技師、書記、技手、書記補、技手補給料　雜給料　雇員給料　雜給料

雜費　費用辨償費　旅費

金八千參百圓
金壹千六百四拾貳圓五拾錢
金壹萬壹千貳百七拾八圓五拾錢
金壹萬貳千八百四拾圓
金六百拾九圓

雜給

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
費用辨償				五四〇・〇〇〇円	
旅費				一一、六八〇・〇〇〇	水道委員費用辨償十名三ヶ年分 水道委員、顧問、市吏員出張並ニ赴任旅費
諸手當				八、三〇〇・〇〇〇	顧問及臨時囑託手當 書記技手、書記補、技手補月額手當 其ノ他夜間現場勤務手當
臨時雇給				一、六四二・五〇〇	日給平均一・五圓、延一、〇九五人分
傭人給				一一二七八・五〇〇	職工、工夫計四人日給平均一・八圓三年分 貨物自動車運轉手日給一・八圓延七三〇人分
賞與及退職手當				一二、八四〇・〇〇〇	使丁一人日給一・三圓延一〇、九五人分 給仕一人日給〇・六圓延一、〇九五人分
死傷手當				六一九・〇〇〇	技師以下賞與及退職手當
計				四六、九〇〇・〇〇〇	

需用費

一金壹萬圓也

内
金壹千五百圓
金參千圓
金七百七拾圓
金貳千百圓
金七百四拾圓
金壹千參百參拾圓
金五百六拾圓

備品費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
徽章及印判				一〇〇・〇〇〇円	
机椅子書籍類				九〇〇・〇〇〇	
其他什器				四〇〇・〇〇〇	
備品修繕				一〇〇・〇〇〇	
計				一、五〇〇・〇〇〇	

消耗品費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
諸用紙及封筒				三〇〇・〇〇〇円	
諸帳簿及報告用紙				三五〇・〇〇〇	
木炭				二、〇〇〇・〇〇〇	
其他雜品				三五〇・〇〇〇	

備消耗品費
印刷費
通信運搬費
賄賂費
被服費
點燈費

計　三、〇〇〇・〇〇〇

印刷費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
印刷費				七七〇・〇〇〇円	
計				七七〇・〇〇〇	

通信運搬費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
通信運搬費				二、一〇〇・〇〇〇円	電話新設、通話料、郵便料並小包運搬一式
計				二、一〇〇・〇〇〇	

賄費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
吏員宿直				六五七・〇〇〇円	
使丁宿直				八三・〇〇〇	
計				七四〇・〇〇〇	

被服費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
職工被服費				一五〇・〇〇〇円	
工夫同				六〇・〇〇〇	

運轉手同				六四・〇〇〇	
給仕、使丁被服費				九六・〇〇〇	
作業服				九〇〇・〇〇〇	
作業用ゴム靴其他				六〇・〇〇〇	
計				一、三三〇・〇〇〇	

點燈費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
電燈料				五六〇・〇〇〇円	
計				五六〇・〇〇〇	

雜費

一金九百六拾圓也
内
金九百六拾圓

雜費

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
雜費				九六〇・〇〇〇円	新聞廣告料其他諸雜費一切
計				九六〇・〇〇〇	

一位代價表

勞力

種別	單位	單價	摘要
石工	人	二・〇〇〇円	
大工	〃	一・八〇〇	
左官	〃	一・八〇〇	
煉瓦工	〃	一・六〇〇	
鐵工	〃	一・八〇〇	
鉛工	〃	一・八〇〇	
鋲力工	〃	一・八〇〇	

鐵管類、弁類

種別	單位	單價	摘要
鋼直管	疋	三三〇・〇〇〇円	
鑄鐵直管	〃	八〇・〇〇〇	
同異形管	〃	一四〇・〇〇〇	
五〇〇粍水制弁	個	五五〇・〇〇〇	副制水弁副管付
同上	〃	四〇〇・〇〇〇	
四五〇粍水制弁	〃	四五〇・〇〇〇	副制水弁副管付
同上	〃	三〇〇・〇〇〇	
鐵筋工	人	一・七〇〇円	
アスファルト工	〃	一・九〇〇	
鳶工	〃	一・八〇〇	
人夫	〃	一・七〇〇	
馬車付人夫	臺	一・二〇〇	
四〇〇粍水制弁	個	三九〇・〇〇〇円	副制水弁副管付
同上	〃	二四〇・〇〇〇	
三五〇粍水制弁	〃	一八〇・〇〇〇	
三〇〇粍水制弁	〃	一二〇・〇〇〇	
二五〇粍同上	〃	九〇・〇〇〇	
二〇〇粍同上	〃	六〇・〇〇〇	

種別	單位	單價	摘要
一五〇粍同上	〃	四〇・〇〇〇	
一〇〇粍同上	〃	二五・〇〇〇	
七五粍同上	〃	二〇・〇〇〇	
七五粍單式排氣弁	〃	二五・〇〇〇	
單口消火栓	〃	三五・〇〇〇	町野式接手金物及同蓋簡易ナルモノ製作共
單口行止消火栓	〃	四〇・〇〇〇	同上
地上式單口消火栓	〃	九八・〇〇〇	砲彈形町野式接手及同蓋付
二〇〇粍逆止弁	個	七〇・〇〇〇	
四五〇粍安全弁	〃	四五〇・〇〇〇	レバー式
六〇〇粍フート弁	〃	四〇〇・〇〇〇	
二五〇粍同上	〃	一〇〇・〇〇〇	
五〇〇粍閉弁用臺	臺	一〇〇・〇〇〇	

木材

種別	單位	單價	摘要
松角材	立米	五五・〇〇〇円	
松板材	〃	五五・〇〇〇	
松押角	〃	四五・〇〇〇	
三五〇粍閉弁用臺	臺	八〇・〇〇〇	
二五〇粍同上	〃	六〇・〇〇〇	
四〇〇粍伸縮管	本	三〇〇・〇〇〇	
二五〇粍同上	〃	二五〇・〇〇〇	
制水弁用鐵蓋	個	九・二〇〇	
地下式消火栓鐵蓋	〃	二〇・〇〇〇	排氣弁鐵蓋モ同樣
公設共用水栓柱	本	一八・〇〇〇	
同徑一三粍分水栓	個	一・四〇〇	
徑一六粍分水栓	〃	二・一〇〇	
徑一三粍止水栓	〃	一・六〇〇	
同徑一六粍上止水栓	〃	二・一〇〇	
同上止水栓筐	〃	二・〇〇〇	
檜角材	立米	一三五・〇〇〇円	
檜板材	〃	一三五・〇〇〇	
杉丸太	〃	二八・〇〇〇	

種別	單位	單價	摘要
松丸太	立米	二五・〇〇〇	

煉瓦、陶管類

種別	單位	單價	摘要
煉瓦	丁	〇・〇二五	
陶管 徑一五〇粍	本	〇・四二〇	長六六〇粍規格管
同四五度 陶管	〃	〇・五七〇	
陶管 徑二三〇粍	〃	〇・八四〇	長六六〇粍規格管
陶管 徑三三〇×三三〇粍 丁字陶管	〃	一・六七〇	

金物

種別	單位	單價	摘要
鐵筋用 鋼材	瓩	一五〇・〇〇〇	
構造用 鋼材加工品	〃	二三〇・〇〇〇	
鑄鐵加工品	〃	二〇〇・〇〇〇	
鐵線(八番内外)	瓩	〇・二〇〇	
同上(二十番内外)	〃	〇・二四〇	
錦	本	〇・〇八〇	長一五〇粍爪長四五粍 徑一六粍

石、砂利、砂、其ノ他

種別	單位	單價	摘要
花崗石	立米	六〇・〇〇〇	
栗石	〃	二・二〇〇	徑九〇粍内外
洗砂利	〃	三・三〇〇	徑二〇粍以下六粍止リ
同	〃	三・〇〇〇	徑二四粍以下九粍止リ
篩砂利	〃	四・〇〇〇	同濾過池用
並砂利	〃	二・七〇〇	同道路敷砂利及栗石目潰用

雜品

種別	單位	單價	摘要
ヤーン	瓩	〇・四五〇	
コークス	〃	〇・〇三〇	
木炭	〃	〇・〇六〇	
薪	〃	〇・〇四〇	
セメント樽		五・一〇〇	

セメント工、切石工、其の他

種別	單位	單價	摘要
甲混凝土工	立米	一九・七〇〇 (一六・八〇〇)	配合一、二、四鐵筋コンクリート用型枠費共()内ノ金額ハ型枠費ヲ含マズ
乙混凝土工	〃	一五・三〇〇 (一三・五〇〇)	配合一、二、六基礎其他型枠費共()内ハ型枠費ヲ含マズ
丙混凝土工	立米	一四・〇〇〇 (一二・二〇〇)	配合一、四、八〇〇内ハ型枠費ヲ含マズ
防水混凝土工	〃	三・〇〇〇	配合一、二、四防水劑型枠費共
混凝土ブロック工	〃	二・〇〇〇	配合一、二、四消火栓室、制水弁室、階段、笠石等ニ使用

種別	單位	單價	摘要
洗砂	立米	二・三〇〇	
篩砂	〃	三・五〇〇	濾過池用
粘土	〃	三・〇〇〇	
賄土	〃	一・〇〇〇	
野面石積	平米	二・五〇〇	加工三五〇粍以上平方米ニ付二〇個以内積
寒水石粉	瓩	〇・〇三五	

種別	單位	單價	摘要
精製アスファルト	瓩	一・〇〇	
重油		五二・〇〇〇	
麻布	平米	〇・三五〇	
白ペイント	瓩	〇・六〇〇	
光明丹	瓩	〇・六〇〇	

種別	單位	單價	摘要
ボールト	瓩	二・二〇〇	
鉛塊	〃	三五・〇〇〇	
鉛線	〃	三〇・〇〇〇	
徑一三粍合金鉛管	米	〇・六一〇	
同徑一六粍上	〃	〇・八一〇	
銅板	瓩	〇・九五〇	

種別	單位	單價	摘要
鐵筋混凝土ブロック工	立米	三六・〇〇〇	
混凝土ブロック敷並工	〃	一・七〇〇	ブロック材料ヲ含マズ
混凝土ブロック据付工	〃	四・五〇〇	同上
甲モルタル	〃	三五・〇〇〇	配合一、二
乙モルタル	〃	一八・三〇〇	配合一、三
防水モルタル工	〃	三・〇〇〇	配合一、二及防水劑
甲モルタル上塗工	平米	・五七〇	厚一五粍
乙モルタル上塗工	〃	・四七〇	〃

雜工

種別	單位	單價	摘要
鐵筋工廻		一七五・五〇〇円	
伸縮目地用銅板工	〃	一、〇五〇・〇〇〇	
窓枠工	平米	二〇・〇〇〇	
上屋根葺工	〃	一〇・八五〇	下地檜材銅板張

土工

種別	單位	單價	摘要
立塗防水用アスファルト	平米	三・一〇〇	厚一五粍
平塗防水用アスファルト工	〃	二・〇〇〇	〃
伸縮目地用アスファルト工	立米	一三〇・〇〇〇	
切石工	〃	一四三・〇〇〇	
切石据付工	〃	六・七〇〇	石材ヲ含マズ
白漆喰壁工	平米	・八〇〇	
波除壁煉瓦積工		六・六〇〇	煉瓦一〇〇丁當リ
防水モルタル上塗工	平米	・六七〇	厚一五粍
煉瓦敷並工		一・〇〇〇	煉瓦一〇〇丁當リ
甲排水工	月	三四〇・〇〇〇円	一五馬力電動機使用一ヶ月當リ
乙排水工	〃	三四〇・〇〇〇	七・五馬力同上
丙排水工	〃	二二五・〇〇〇	五馬力同上
混凝土柵工	米	二・四〇〇	

種別	單位	單價	摘要
甲掘鑿工	立米	・七二〇円	河底、溝渠、伏越、鐵道横斷其他水替掘鑿等
乙掘鑿工	〃	・四六〇	水源地及淨水場ノ陸上建物基礎竝配水管布設用
水中掘鑿工	〃	二・〇〇〇	
甲埋戻工	〃	・六五〇	堤防復舊、鐵道横斷ケ所
乙埋戻工	〃	・二五〇	一般埋戻シ
甲盛土工	〃	一・三〇〇	貯土盛土
乙盛土工	〃	・四五〇	轉用盛土
殘土處理工	〃	・七〇〇	
粘土工	〃	三・九〇〇	
張芝工	平米	一・〇〇〇	朝鮮芝
甲筋芝工	〃	・五八〇	朝鮮芝
乙筋芝工	〃	・一七〇	野芝
土羽工	〃	・二五〇	同
栗石工	立米	三・五〇〇	栗石材料共
濾過床砂利工	〃	四・五〇〇	

排水、土管類布設工

種別	單位	單價	摘要
濾過床砂工	立米	四〇・〇〇〇円	
鐵管布設跡路面復舊工	〃	三・五〇〇	
盛土濕拔砂利敷工	〃	三・五〇〇	
野面石垣工	平米	八・七〇〇	
石垣復舊工	〃	六・七〇〇	野面石垣
甲假締切工	米	九・〇〇〇	高一・八米板柵工法
乙同上	〃	七・〇〇〇	高〇・八米土俵積工法
山圍矢板工	〃	八・八三六	堤防横斷及伏越用材料八五回使用トシ見積高三、六米內外ノ分
同上	〃	六・八五六	同上 高二・七米內外ノ分
同上	〃	四・二九八	同上 高一・八米內外ノ分
同上	〃	二・二〇〇	一般市內配水管用材料ハ一〇回使用トシ見積高一・五米內外ノ分
同上	〃	一・四〇〇	同上 高一・二米內外ノ分

種別	單位	單價	摘要
淨水池水管布設抜土工	ケ所	六・七〇〇円	徑一五〇粍陶管使用
濾過池甲餘水吐排水土管布設工	〃	一七・一〇〇	徑二三〇粍陶管使用
濾過池乙餘水吐	〃	四・一〇〇	同　上
同上	〃	四・一〇〇	同　上
一五〇粍排水土管布設工	米	二・七五〇	
三〇〇粍排水土管設工	〃	五・八〇〇	
三八〇粍排水土管布設工	〃	六・八三〇	
一五〇粍送水管路横斷土管布設工	〃	一・〇二〇	

鐵管布設及弁類設置工（一般用）

種別	單位	單價	摘要
五〇〇粍直管布設工	本	一九・六五〇円	長四米突
四五〇粍〃	〃	一七・八五〇	〃
同　上	〃	一六・〇〇〇	〃
四〇〇粍〃	〃	一四・六〇〇	〃
同　上	〃	一三・〇〇〇	〃
三五〇粍〃	〃	一〇・〇〇〇	〃
三〇〇粍〃	〃	九・七〇〇	〃
同　上	〃	六・四五〇	〃
二五〇粍直管布設工	本	二・一〇〇円	長四米
二〇〇粍〃	〃	九・七〇〇	〃
同　上	〃	六・四五〇	〃
一五〇粍〃	〃	五・二〇〇	長三米突
一〇〇粍〃	〃	四・九五〇	〃
同　上	〃	四・八五〇	〃
七五粍〃	〃	四・八〇〇	〃
同　上	〃	四・八〇〇	〃
二三〇粍送水管路横斷土管布設工	米	一・九一〇円	
三〇〇粍〃	〃	二・五三〇	
同　上	〃	四・三八〇	
四五〇粍〃	〃	六九・〇〇〇	
同　上	〃	一三八・〇〇〇	上口六〇〇粍深一、九〇〇粍
排水桝	ケ所	三・七四〇	
人孔工	ケ所	二・四〇〇	
淨水池敷地周圍側溝築造工	米	二・四〇〇	
淨水場樋内排水渠築造工	〃	二・四〇〇	
同　上	〃	二・四〇〇	
同　上	〃	二・四〇〇	
同　突緣	〃	四・八五〇	
五〇〇粍制水弁据付工	個	七七・〇〇〇	
同	〃	七八・六〇〇	突緣管
四五〇粍バイパス付制水弁据付工	〃	九一・〇〇〇	
四五〇粍制水弁据付工	〃	六一・七五〇	
四〇〇粍バイパス付制水弁据付工	〃	八一・五〇〇	
四〇〇粍制水弁据付工	〃	五四・一〇〇	
三〇〇粍	〃	三三・〇五〇	
同	〃	二八・七〇〇	
二五〇粍	〃	二八・七〇〇	
同	〃	二八・七〇〇	
二〇〇粍制水弁据付工	個	二二・四〇〇	
一五〇粍	〃	一八・三五〇	
同	〃	一五・一〇〇	
一〇〇粍	〃	一四・〇五〇	
同	〃	一四・〇五〇	
七五粍單式排氣弁据付工	〃	一〇・〇〇〇	
地上式消火栓据付工	〃	一六・一〇〇	單口
地下式消火栓据付工	〃	一〇・〇〇〇	同
公設共用栓設置工	〃	一七・〇〇〇	
給水管布設工	個所	二・〇〇〇	公道部分

鐵管布設及弁類設置（水源及淨水場）

種別	單位	單價	摘要
六〇〇粍鐵管布設工	本	一二・四〇〇圓	直管及異形管鐵管一本當リ
五〇〇粍〃	〃	九・四〇〇	同
四〇〇粍〃	〃	六・六五〇	同
三五〇粍〃	〃	五・八〇〇	同
三〇〇粍鐵管布設工	本	四・五〇〇圓	直管及異形管一本當リ
二五〇粍〃	〃	三・五〇〇	同
二〇〇粍〃	〃	二・五〇〇	同
一五〇粍〃	〃	一・八〇〇	同

五〇〇粍制水弁据付工	個	一九・一〇〇	二五〇粍制水弁据付工	個	七・一〇〇
三五〇粍同	〃	一一・八〇〇	二〇〇粍同	〃	五・一五〇
三〇〇粍同	〃	九・二〇〇	一五〇粍同	〃	三・八〇〇

ヘ　一位代價內譯書

甲混凝土工

一立方米當リ　配合一、二、四鐵筋混凝土用

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
セメント	樽	一・八〇	五・一〇〇	九・一八〇	
洗砂利	立米	・九二	三・三〇〇	三・〇三六	徑二〇粍以下六粍止リ
洗砂	〃	・四六	二・三〇〇	一・〇五八	
型枠材料				・九〇〇	
大工	人	・五〇	一・八〇〇	・三六〇	
工夫	〃	・二〇	一・八〇〇	三・四八〇	練手間、搗固メ大工手間等
人夫	〃	二・九〇	一・二〇〇	・一八六	
雜費				一九・七〇〇	
計					

乙混凝土工

一立方米當リ　配合一、四、八

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
セメント	樽	一・二〇	五・一〇〇	六・一二〇	

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
洗砂利	立米	・九四	三・〇〇〇	二・八二〇	徑二四粍以下九粍止リ
洗砂	〃	・四七	二・三〇〇	一・〇八一	
型枠材料				一・〇〇〇	
大工	人	・三〇	一・八〇〇	・五四〇	
工夫	〃	・二〇	一・八〇〇	・三六〇	
人夫	〃	二・七〇	一・二〇〇	三・二四〇	練手間、搗固メ大工手傳等
雜費				一五・三〇〇	
計					

丙混凝土工

一立方米當リ　配合一、四、八

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
セメント	樽	・九五	五・一〇〇	四・八四五	
洗砂利	立米	・九五	三・〇〇〇	二・八五〇	徑二四粍以下九粍止リ
洗砂	〃	・四八	二・三〇〇	一・一〇四	
型枠材料				一・〇〇〇	
大工	人	・三〇	一・八〇〇	・五四〇	
工夫	〃	・二〇	一・八〇〇	・三六〇	
人夫	〃	二・七〇	一・二〇〇	三・二四〇	練手間搗固メ大工手傳等
雜費				・〇六一	
計				一四・〇〇〇	

甲混凝土工

一立方米當リ　配合一、二、四型枠無シ

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
セメント	樽	一・八〇	五・一〇〇	九・一八〇	

洗砂利	立米	・九二	三・三〇〇	三・〇三六
〃	〃	・四六	二・三〇〇	・〇四一
工人夫	〃	・二〇	一・八〇〇	一・〇五八
雜費	〃	二・五〇	一・二〇〇	・三六〇
計				三・〇〇〇
				・一六六
				一六・八〇〇

練手間、搗固メ一式

乙　混凝土工

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		一・二〇	五・一〇〇 圓	六・一二〇 圓	配合一、三、六 型枠無シ
洗砂利	立米	・九四	三・〇〇〇	二・八二〇	徑二四粍以下九粍止リ
〃	〃	・四七	二・三〇〇	一・〇八一	
工人夫	〃	・二〇	一・八〇〇	・三六〇	
雜費	〃	二・五〇	一・二〇〇	三・〇〇〇	練手間、搗固メ一式
計				・一一九	
				一三・五〇〇	

丙　混凝土工

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		・九五	五・一〇〇 圓	四・八四五 圓	配合一、四、八 型枠無シ
洗砂利	立米	・九五	三・〇〇〇	二・八五〇	徑二四粍以下九粍止リ
〃	〃	・四八	二・三〇〇	一・一〇四	
工夫人	〃	・二〇	一・八〇〇	・三六〇	
人夫		二・五〇	一・二〇〇	三・〇〇〇	
雜費				・〇四一	
計				一二・二〇〇	

防水混凝土工

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		一・八〇	五・一〇〇 圓	九・一八〇 圓	配合一、二、四
洗砂利	立米	・九二	三・三〇〇	三・〇三六	徑二〇粍以下六粍止リ
〃	〃	・四六	二・三〇〇	一・〇五八	
防水劑				三・三〇〇	
型枠材料				一・五〇〇	
大工人		・五〇	一・八〇〇	・九〇〇	
工夫	〃	・二〇	一・八〇〇	・三六〇	
人夫	〃	二・九〇	一・二〇〇	三・四八〇	混凝土練手間、搗固メ大工手傳等
雜費				・一八六	
計				二三・〇〇〇	

混凝土ブロック工

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		一・八〇	五・一〇〇 圓	九・一八〇 圓	配合一、二、四消火栓室
洗砂利	立米	・九二	三・三〇〇	三・〇三六	制水弁室階段笠石等
〃	〃	・四六	二・三〇〇	一・〇五八	徑二〇粍以下六粍止リ
型枠材料				二・〇〇〇	

大工人夫	〃	〃	一・八〇〇	一・八〇〇〇	一・四四〇
工人夫	〃	〃	・二〇〇	一・八〇〇〇	・三六〇
雜費			三・一〇〇	一・二〇〇〇	三・七二〇
計					・二〇六
					二一・〇〇〇

練手間、搗固メ大工手傳等

鐵筋混凝土ブロック工

一立方米當リ　配合一、二、四　濾過池集水渠其他

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		一・八〇	五・一〇〇圓	九・一八〇圓	
洗砂利	立米	・九二	三・三〇〇	三・〇三六	
洗砂	〃	・四六	二・三〇〇	一・〇五八	徑二〇粍以下六粍止リ
型枠材料				二・〇〇〇	
鐵筋工	瓲	・〇九〇	一七五・五〇〇	一五・七九五	
大工人		・七〇〇	一・八〇〇	一・二六〇	
工夫	〃	・二〇〇	一・八〇〇	・三六〇	
人夫	〃	三・〇〇〇	一・二〇〇	三・六〇〇	
雜費				・三一一	練手間、搗固メ大工手傳等
計				三六・六〇〇	

混凝土ブロック敷並工

一立方米當リ

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
工夫人		・六〇	一・八〇〇圓	一・〇八〇圓	
人夫	〃	・五〇	一・二〇〇	・六〇〇	
雜費				・〇二〇	
計				一・七〇〇	

混凝土ブロック据付工

一立方米當リ

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
乙モルタル	立米	・一〇	一八・三〇〇圓	一・八三〇圓	
石工人		・八〇	二・〇〇〇	一・六〇〇	
人夫	〃	・八〇	一・二〇〇	・九六〇	
雜費				・一一〇	
計				四・五〇〇	

甲　モルタル工

一立方米當リ　配合一、二

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		三・八〇	五・一〇〇圓	一九・三八〇圓	
洗砂	立米	一・〇〇	二・三〇〇	二・三〇〇	
工夫人		・三〇	一・八〇〇	・五四〇	
人夫	〃	二・〇〇〇	一・二〇〇	二・四〇〇	
雜費				・三八〇	
計				二五・〇〇〇	

乙　モルタル工

一立方米當リ　配合一、三

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		二・五〇	五・一〇〇圓	一二・七五〇圓	

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
洗砂	立米	一・〇〇	二・三〇〇	二・三〇〇	
工夫	人	・三〇	一・八〇〇	・五四〇	
人夫	〃	二・〇〇	一・二〇〇	二・四〇〇	
雜費				・三一〇	
計				一八・三〇〇	

防水モルタル工

一立方米當リ　配合一、二防水劑

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
セメント樽		三・八〇	五・一〇〇圓	一九・三八〇圓	
洗砂	立米	一・〇〇	二・三〇〇	二・三〇〇	
防水劑				七・〇〇〇	
工夫	人	・三〇	一・八〇〇	・五四〇	
人夫	〃	二・〇〇	一・二〇〇	二・四〇〇	
雜費				・三八〇	
計				三二・〇〇〇	

甲　モルタル上塗工

一平方米當リ　厚一五粍

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
甲モルタル工	立米	・一五	二五・〇〇〇圓	三・七五〇圓	十平方米ニ付
左官	人	・六〇	一・八〇〇	一・〇八〇	〃
工夫	〃	・一〇	一・八〇〇	・一八〇	〃
人夫	〃	・五〇	一・二〇〇	・六〇〇	〃
雜費				・〇九〇	〃
計				五・七〇〇	一平方米ニ付
				・五七〇	

乙　モルタル上塗工

一平方米當リ　厚一五粍

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
乙モルタル工	立米	・一五	一八・三〇〇圓	二・七四五圓	十平方米ニ付
左官	人	・六〇	一・八〇〇	一・〇八〇	〃
工夫	〃	・一〇	一・八〇〇	・一八〇	〃
人夫	〃	・五〇	一・二〇〇	・六〇〇	〃
雜費				・〇九五	〃
計				四・七〇〇	〃
				・四七〇	一平方米ニ付

防水モルタル上塗工

一平方米當リ　厚一五粍

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
防水モルタル工	立米	・一五	三二・〇〇〇圓	四・八〇〇圓	十平方米ニ付
左官	人	・六〇	一・八〇〇	一・〇八〇	〃
工夫	〃	・一〇	一・八〇〇	・一八〇	〃
人夫	〃	・五〇	一・二〇〇	・六〇〇	〃
雜費				・〇四〇	〃
計				六・七〇〇	〃
				・六七〇	一平方米ニ付

立塗防水用アスファルト工

一平方米當リ　厚一五粍

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
アスファルト	瓩	一四・五〇	・一〇〇	一・四五〇	
麻布	平米	二・二〇	・三五〇	・七七〇	
薪	瓩	二・〇〇	・〇四〇	・〇八〇	
木炭	〃	三・〇〇	・〇六〇	・一八〇	
アスファルト工	人	・一五	一・九〇〇	・二七六	
人夫	〃	・二三	一・二〇〇	・〇五九	
雜費				三・一〇	
計					

平塗防水アスファルト工

一平方米當リ　厚一五粍

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
アスファルト	瓩	一一・五〇	・一〇〇	一・一五〇	
石粉	〃	三・五〇	・〇三五	・一二二	
乾砂	平米	・〇六	二・三〇〇	・一三八	
薪	瓩	一・五〇	・〇四〇	・〇六〇	
木炭	〃	一・七〇	・〇六〇	・一〇二	
アスファルト工	人	・一〇	一・九〇〇	・一九〇	
人夫	〃	・一五	一・二〇〇	・一八〇	
雜費				・〇五八	
計				二・〇〇〇	

伸縮目地用アスファルト工

一立方米當リ

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
アスファルト	瓩	七七〇・〇〇	・一〇〇	七七・〇〇〇	
石粉	〃	三八五・〇〇	・〇三五	一三・四七五	
薪	〃	一二〇・〇〇	・〇四〇	四・八〇〇	
木炭	〃	一五〇・〇〇	・〇六〇	九・〇〇〇	
アスファルト工	人	六・五〇	一・九〇〇	一二・三五〇	
人夫	〃	一〇・〇〇	一・二〇〇	一二・〇〇〇	
雜費				一・三七五	
計				一三〇・〇〇〇	

切石工

一立方米當リ

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
花崗石	立米	一・〇〇	六〇・〇〇〇	六〇・〇〇〇	
石工	人	三六・〇〇	二・〇〇〇	七二・〇〇〇	
人夫	〃	九・〇〇	一・二〇〇	一〇・八〇〇	
雜費				・二〇〇	
計				一四三・〇〇〇	

切石据付工

一立方米當リ

種別	單位	員數	單價 圓	金額 圓	摘要
乙モルタル工	立米	・一〇	一八・三〇〇	一・八三〇	
石工	人	一・五〇	二・〇〇〇	三・〇〇〇	

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
人夫		一・五〇	一・二〇〇	一・八〇〇	
雜費				・〇七〇	
計				六・七〇〇	

波除壁煉瓦積工

煉瓦一〇〇丁當リ

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
煉瓦	丁	一〇〇・〇〇	・〇二五	二・五〇〇	
甲モルタル工	立米	・〇五	二五・〇〇〇	一・二五〇	
煉瓦工	人	一・〇〇	一・六〇〇	一・六〇〇	
人夫	〃	一・〇〇	一・二〇〇	一・二〇〇	
雜費				・〇五〇	
計				六・六〇〇	

煉瓦敷並工

煉瓦一〇〇丁當リ

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
煉瓦工	人	・三五	一・六〇〇	・五六〇	
人夫	〃	・三五	一・二〇〇	・四二〇	
雜費				・〇二〇	
計				一・〇〇〇	

鐵筋工

一疋當リ

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
鐵筋	疋	一・〇〇		一五〇・〇〇〇	

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
鐵線	疋	三・五〇	・二四〇	・八四〇	
鐵筋工人		三・〇〇	一・七〇〇	五・一〇〇	
工夫	〃	・五〇	一・八〇〇	・九〇〇	
人夫	〃	一五・〇〇	一・二〇〇	一八・〇〇〇	
雜費				・六六〇	
計				一七五・五〇〇	

伸縮目地用銅板工

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
銅板	疋	・一〇	九五〇・〇〇〇	九五・〇〇〇	巾三〇四、八粍 長一二、一九二米四四一枚分
鐵工人		二・〇〇	一・八〇〇	三・六〇〇	
人夫	〃	二・〇〇	一・二〇〇	二・四〇〇	
雜費				四・〇〇〇	接合用諸色材料及現場取付用雜費一式
計				一〇五・〇〇〇	

上屋々根葺工

平方米當リ

種別	單位	員數	單價	金額	摘要
檜材	平米	六・六三	一三五・〇〇〇	八九五・〇五〇	屋根下地厚三〇粍其他母屋材
鋼板	疋	九〇六・九九	・九五〇	八六一・六四〇	二四番使用接手割增五％
大工人		三〇・〇〇	一・八〇〇	五四・〇〇〇	
鐵工	〃	四五・〇〇	一・八〇〇	八一・〇〇〇	
人夫	〃	二〇・〇〇	一・二〇〇	二四・〇〇〇	
雜費				三・八〇七	釘類其他雜品一式